

21 M 77

理學博士坪井正五郎述

人類學講義

東筑摩交詢會夏期講習會

人類學講義筆記目錄

緒言

總論

本論

第一編

人類本質論

六

第一章

第二章

萬物中ニ於ケル人類ノ位置

一一

第三章

動物界ニ於ケル人類ノ位置

二五

第二編

人類現狀論

第一章

人類ノ地理學的分布

四五

第二章

人類ノ分類

五〇

第三章

人類ノ系圖的自然分類ヲ考ヘ定ムル方法

五五

第四章

世界諸種族系圖の体格上ヨリ調ヘタル分類表

六三

第五章

亞細亞系統ノ人民

六六

第六章

歐羅巴亞弗利加系統ノ種族

八五



218378

第七章	南方亞弗利加系統ノ諸種族	一一三
第八章	亞米利加系統ノ種族	一三〇
第九章	海岸島嶼住民	一四九
第三編	人類由來論	一六四

總論		
第一章	人種的性質ノ變化	一六四
第二章	古今種族ノ増減	一六八
第三章	人類ハ一源カ多源カ	一七〇
第四章	人類ノ移住	一七三
第五章	人類ハ何時ノ頃ヨリ存在セシカ	一九三
第六章	人類初出ノ地	二〇二
第七章	原人	二〇九
第八章	人類ノ起原	二一六
第九章	人類ハ一祖カ多祖カ	二二七
第十章	結論	二二八

人類學講義筆記

理學博士 坪井正五郎講演

第一講

緒言

諸君カ外ヲ通行スル際ニ彼方ヨリ來ル知人ニ遇ヘハ何トナクココノケルケレ  
 厄モシソレガ不知人テアレハナントモオモハナイ。ナゼナレハ知り合ヒノ中タト  
 其人ノ聲ヤ行ヤ嗜好ヤ氣質ハドウテアルト云フコトカ胸ニ浮ヒテ愉快ヲ感スル  
 ノテアル。モシ知ラヌ人ダト此等ノ感シカチツトモ胸ニ浮バナイ。即チコノ兼テ知  
 リ居ルト知ラヌトニ依テ快樂ヲ感スル度ニ違ガアル。又他ニアリテ古郷ヘ歸ルト  
 愉快ニ且安心テアルト云フハ某ノ山ハ何如某ノ水ハ何如ト一々胸ニ浮フカラテ  
 アル假令自分ノ家ハアハラヤテモ其間取ハドウテアル疊ハ何疊敷テアルト其家  
 内ノ様子ヲスツカリ知り居ルカラテアル。モシコレニ反シテ一向ニ知ラヌ家ニ始  
 メテ案内サレタキハ何如ニ鄭重ニ取扱ハレテモンレ程ニナイ。即チ其家ノ構造間  
 取モ一向ニ分ラヌ恰モ途中ニテ知ラヌ人ニ逢ヒタルト同シコトテアル。即チ知ル

(1)

(2)

ト云フコト、知ラヌト云フコトハ快不快ノチガヒヲ生セシムルモノテアル。モシ植物ヤ動物ヲ研究シテ其事ヲ知テ居レハ唯鳥カ鳴クトカ蟲ノ音ガスルトカアスコニ木ガアル草ガアルデナク此鳥ハ何テアル此草木ハ何々テアルト云フコトガワカレバ極メテ愉快テアル。又山ニ登リ河ノ流レヲ視テモ其地理ヲ知リテコレハコウアレハア、ト胸ニ浮ベハ甚タ愉快ノコトアル。又天体ノ運行及日月星辰ノ性質等ニ對シテ幾分ナリトモソノ知識ヲ持チ居レハ日蝕月蝕モ面白イ。氣象物理解ヲ知ツテ居レハ嵐ノ吹ク音雷ノ鳴ル音ヲ聞キテモ唯サワガシク感スルノミテナクソノ何故ナルカヲ説明スルコトヲ得ルヲ以テ愉快テアル。何事テモ知ルト云フコトカ直チニ幸福ノ一ト認ムヘキコトテアルガ人類ニ關スル智識ハ一層深イ樂ヲ我々ニ與ヘル。天文地理博物等ハソレソレ研究サレテ我々ハ種々ノ智識ヲ有スルニモ關ラス極メテ大切ノ事カ見ノガサレテ居ル即チ天体ノ運行ハドウテアル地質ハドウテ地理ハドウテ一般動植物ハドウテ周圍ノコトハ普通ニ知ラレナカラ人類自身ヲ研究スル極々大切ノコトカヌケテキル。ソハ何故テアルカコレハ其ノ發達ノ歴史ヲ御話シスレハ自然ニワカリマス。

人類學ハ己ヲ知ル學問テ其研究ハ愉快ニシテ又重要ノモノテアル。然ルニコレガ

(3)

等閑ニ附セラレテ他ノ學科ニ比スレハ割合ニ進歩シテ居ラス。吾々自身即チ人間ヲ研究スルト云フコトハ何ノ實益カアルコトカト問フモノアラハ直ニコレニ向ツテ反問スルガ宜イ。モシ問者カ教育家ナレハ其教育ノ主意ヲ問フヘシ教育者ハ當ニ云フナルヘシ。人ヲシキ人ヲ作ルコアリト即チコノ人ヲシキ人ヲ作ルト云フ其主意ヲ知り居ルカラニハ教育者モ人類學ノ必要ヲ認メナケレハナラナイ。又政事家ハ人ヲ治メ人ヲ導クコトヲ務メトスルノテアルガ其目的物カ人デアラナラハ人類學ノ智識カ必要テアル。又商業家ハ海陸ノ產物諸種ノ製造品ヲ各地人類ノ嗜好ニ依テ供給スルコトヲ謀ルヘキモノテアルガ一般人類ノコトヲ知り且ツ諸種族ノ休格風俗ニ就テノ知識カ多ケレハ多キ程利益カアル。今茲ニ面白キ二三ノ話カアル。ヨウロツバノ或ル商人カ縫ヒ針ヲ紙ニ包ミテ支那ヘ輸出セシニ善ク賣レタリ故ヲ以テ更ニ又輸出セシニ少シモウレザリシ。物質ノ劣レルニアラス。價ノ高キニアラス。何故ニ後ニハ賣レザリシカト吟味シタレハ初メハ赤紙ニ包ミシニ後ニハ黒キ紙ニテ包ミタルニヨルト云フコトガ分カツタ。全体支那人ハ赤色ヲ好ムノ特性アリ故ニ商業家ハ殊ニ人種ノ特性ヲ知ラザレハ思ヒヨラヌ損失ヲ招クヘシ。又或ルヨウロツバ人カ嘗テアフリカヘガラス玉ヲ輸出セシコトアフリカ

(4)

黑人ノ皮膚ハ黒キヲ以テ、黒キ玉ハ更ニ引立ヌカラ喜ハレナカツタ。黑人ハ桃色モシクハ白色ノ裝飾ヲ好ムト云フコトヲ知ラテハナラヌ。此他、人類ヲ相手ニスルコトナラハ何事テモ人類學ニ由テ益ヲ受ケルコトカ出來ル。由是觀之、人類學ハ種々ノ方面ニ關係ノアルコトカ分ル。宗教家モ人類ノ特徴性質ヲ明ニ知ルヲ要ス。或ル宗教家ガ「エスキモー」ノ部落ニ入リテ布教シヨウト思ヒ、頻リニ説教シタルニ或ル「エスキモー」カ天堂ニ到レハ何カ獸類カ居ルカト問フタ。牧師初メハ無イト答ヘタガ暫ク考ヘテ羊カ居ルト云ヒシニ「エスキモー」ハ「オットセイ」ガ居ルカト尋テ答ヘテ師カソナモノハ居ラヌト答ヘタトコロガソナ所ヘハ行キ度ク無イ。ソナ教ハイヤダト云フテ遂ニ信者ニナラナカツタト云フコトテアル。人種ノ別ヲモ知ラス人類學的智識ヲ利用スルコトモ知ラス、构子定規ニテ押シ通サントスルハ意外ノ失敗カアル。人類學ノ智識ハ腕次第テドソナ役ニモ立テルコトカデキル。一般ニ智識ノ鈞合ノ上カラ考テ見テモ人類學ハ進ンテ居ラネハナラヌ性質ノ學問テアリナカラ却テ殘サレテアルト云フコトハ甚タ遺憾テアル。一學科ガ進メハ他學科モ從テ進ム等テアルニ獨リ人類學ノ研究カ進マナイト云フノハ廣ク學問ノ爲テ謀ツテ見テモ殘念デアル。コノ愉快ニシテ趣味アル學科ハ普通學トシテ研

究スヘキ價值カアルノニ今日ノ所テハ斯ク認メラレテ居ラナイカラ、コレヲ普通學トシテ修ムル事カ出來ナイ。併シ教員タル人々ニ其心掛ケサヘアレハ或ハ地理科ニ於テ或ハ歴史科ニ於テ或ハ博物科ニ於テ其幾分宛カラ講スルコトカ出來ルカラ自然ニ斯學ヲ普及セシムルノ方法ハ立テラレル。

(5)

人類學トハ其文字ノ示ス如ク人間ヲ研究スル理學テアル。サテコノ學ノ今日ニ至リシハ一朝一夕ノコトニアラス其由來甚タ遠シ。恰モ滴々ノ水合シテ川トナルカ如ク人類學ト云フ流ヲナスニ至リシハ今日迄幾多ノ方面ヨリ研究シテ其材料ヲ集收シ漸ク一ツノ學問トナツタノデアル。「ローマ」ギリシヤ「ハ太古ノ開化國テアルガ「エジプト」ハ夫ヨリ前カラ開ケテ居タ。「ピラミッド」ヤ「ミイラ」ヲ拵ヘタ頃ノ「エジプト」ハ人類ニ付イテドウイフ事ヲ觀察シ或ハ考究シテ居タカト云フニ先ツ第一ニ面白イノハ彼等ガ人種ノ別ノ存在ヲ認メテ居タ事テアル。「エジプト」人ハ書ヤ彫刻ヲ澤山遺シタガ夫等ニ現レテ居ル事ハドレ程迄信用カ置ケルカ其事カラ述ヘルノガ順序ト思フ。「イギリス」ノ或ル學者カ此点ニ付イテ極メテ有益ト調査ヲシタ。夫ハ或ル帝王ノ肖像ト其帝王ノ「ミイラ」即チ實際ノ屍体トノ比較テアル。比較ノ結果肖像ハ正シク實ヲ示タシモノトノ事ガ分カツタ。太古「エジプト」人ノ繪畫彫

(6) 刻ハ寫實テアルト知レタ上ハ異地方人民ノ様子ヲ示シタ書モ學問上ノ參考トシテ差支ヘ無イ。

「エジプト」ノ宮殿ヲ視ルニ幾千年以前ノ畫工モ地方ニヨリテ風俗容貌皮膚ノ色ガ各異テ居ツタト云フヲ見分ケテ居ツタト云フコトガ分ル或ル所ノ壁畫ニ十六人ノ人物カ示シテアルガ夫レカ四組ニナツテ居ル其中黒ク塗リタルハ「アフリカ」ノ「ラーゴロ」白ク塗リタルハ「ヨウロッパ」人黄色ガ「アツシリヤ」人「アラビヤ」人赤ク塗リタルガ「エジプト」人自身。斯ク四通ノ皮膚アルコトヲ明ニ圖ニ示セリ此ノ四種ノ異ル事ヲ神話ニ於テハ夕日ノ神様ガ地方ノ依テノ人類ノ皮膚ニ異ツタ色ヲ與ヘタノデアルト説イテアル。コレ即チ太陽ノ光線温熱カ人ノ皮膚ニ各異ナル色ヲ與ヘタト云フヲデアラウ。

又宗教説ニハ各地方ニ人類アルハ何故ナルカラ説明シテ或ルトコロノ人類ニ惡事ヲナシタ者カアツタノデ太陽ハコレヲ追ヒチラシタリ故ニ其ノ追ヒ散ラサレタル人類カ諸地ノ人類ノ本ニ成ツタノテアルカラ人類ハ初メ一ヶ所ニ居リシモノナレト其レガ四方ニ散シタノデアルト云ツテアル。又人類ノ發生ニ付テハ斯ク云フ事カアル。人ハ胎内ニアルトハ何如ナル形テアルカト云フニ宗教説デ創造ノ

神ノ面ハ蛙ノ面其儘テアル。コレハ物ノ創リ物ヲ造リ出ス初メヲバ人間ノ胎内ニ居ル形即チ蛙ノ如キモノヲ示シタノデアルトノコトテアル。然ラハ「エジプト」人ハ人ノ胎兒ハ蛙ノ様テアルト考ヘテ居タノデアリマス又内臟ニツキテノ智識ハ極メテ少ナカッタ。人ノ身体ニ及物ヲ當テルト云フハ惡キ賤キモノトシテアツタ。サレハ「ミイラ」ヲ作ルニ當ツテ必要上刀ヲ取ツテ腹ヲ割クノテモ其執刀者ハ鼻メヲレタ。コレヲハ体内ノ事ハ分カラウ筈ガナイ。上製ノ「ミイラ」ハ側ニ四個ノ瓶ガ附属シテ居ル。而シテ一ツニハ心臟一ツコハ腸胃ト云フ様ニ別々ニ盛ツタノデアアル。シテ見ルト「エジプト」人モ種々ノ臟腑ハ各其働キヲ異ニスル位ノ事ハ考ヘテ居タト見エル。

(7) 「エジプト」ノ次ニ開ケタノハ「ギリシヤ」テアル。サテコノ開ケタト云フノハ年代ニ於テ「エジプト」ニ次クノミテナク智識ノ点ニ於テ「ギリシヤ」ハ「エジプト」ヲ手本トシテ次第ニ開ケタノテアル。「エジプト」テハ宗教家即チ學者學者即チ宗教家ニテ物知リト宗教家トハ同一テアツタ。サレバコノ物知リカ人ニ説クニハ人ノ智識程度ヲ測テ此ノ位ノ人ニハ斯クノトトキ彼ノ位ノ人ニハシカノトト説キテ學問ト宗教トヲ區別セヌシテ其人ノ智識相應ニ解釋シタモノテアル故ニ其宗教ヲ

(8)

解釋スルニ伸縮自由ニシテ究屈ナル一定ノ束縛ハナカッタノデアアル。  
「ギリシヤ」ノ人民ハ多クノ種族ノヨリ合ヒコテ宗教上ノ考モサマ／＼ナルコヨリ  
コレヲ統轄スルノハ困難デアツタ。ソコテ何かヨル處ヲ作ラウト云フノデ「エジプ  
ト」教ヲ撰ンク様テアル。神ガ裸体若シクハ半身ハダヌギニ示シテアルノハ之故ト  
思ハレル「ギリシヤ」ハモト熱イ國テナイノニ熱イ國ナル「エジプト」ノ神ノ形ヲトリ  
又其名稱モ埃及ノモノト似寄リノガアル。日本ノ佛像モ初メ印度ヨリ支那ニ入り  
遂ニ日本ニ入りシモノナレハ矢張印度風ノ像ヲ安置スルト同様テアル。  
「ギリシヤ」ノ宗教ハモト「エジプト」ヨリ出デタルモノナレハ「ギリシヤ」ニ入テヨリ統  
一ヲ謀ル上ニ於テ「エジプト」ノ如ク種々様々ニ解釋スルハ不都合ナルヨリ其解釋  
ヲ一定シテ究屈ノモノトナツタ是ニ於テ智識ノ高キモノハ宗教說ヲ信用スルニ  
満足セスノ智識ノ發達シタル人ハ宗教ヨリ離テ遂ニ哲學ト云フモノガ出來タ。  
「ギリシヤ」ノ哲學者ハ空想ヲ退クシテ、タヨル所ナク人類ノ著實ナル研究ニアラス  
シテ直ニ飛離レタ大問題ヲ解釋セント試ミタ即チ哲學者ハ人類ノ起源即チ人間  
ハ如何ニシテ世ノ中ニ出シカト云フヲ考ヘタ其說ニ二ツノ別ガアル  
一、人類ニ起源ナシ即チ人間ハ無窮ノ古カラ存在シタモノデ特別ニ起源ト云フモ

ノハナイ。

二、人類ニ起源アリ。即チ此ノ限リナキ時ニ於テ人間ノ存在セル時代ト存在セザル  
時代カアルコノ存在セサル時代ヨリ存在ノ時代ニ移ルキカ起源デアアル。

又人類ニ起源アリトノ說ニモ種々アリ人類ハ首ハ首、胸ハ胸、手ハ手、足ハ足ト皆別  
々ニ出テタルモノカ後ニ至リテ互ニ結ヒ付キテ人類カ出來タノデアアルト云ヒ、  
又或ル一說ニハニゴリ水ノ中ヨリ一種ノ魚ノ如ク男ト女ト生レ出テタルナドノ  
空想ヲ唱フルモノアリ。

空想ヲ離レテ事實ヲ本トシ學問的ニ研究シタルハ「アリストートル」ナリ。

「アリストートル」ハ諸學科ノ祖先ト尊敬セラル又人類研究ニツキテモ人々ノ嘗テ  
ナサマルヲヲナシテ居ル「アリストートル」ハ第一ニ人類トハ何ソヤト云フヲ考  
ヘ出シタ「アリストートル」ノ說トシテ残り居ルハ「アリストートル」ノ博物書ニシテ  
此ノ書ニ就テミルニ生活力ノアルモノトナキモノトノ二種ニ大別ス  
生活力ノアル方チ他ノ性質ニヨリテ三種トナス

(9)

生活力ノアル上ニ發育性ヲ備フルモノヲ植物トシコレニ加フルニ感覺ヲ有ス  
ルモノヲ動物トシ又コレニ加フルニ推理力アルモノヲ人類トナスト。

此ノ如クシテ自然ニ於ケル人類ノ位置ヲ定メタノデアアル而シテ生活ノ上カラハ三ツニ區別スレモ体格上生理上ヨリハ人類ヲ以テ動物ノ一デアアルト云ヘリ。又「アリストートル」ハ吾々ノ尤モヨク知リテ居ル動物ハ人デアアルト云ヒテ明ラカニ人類ヲ動物ノ中ニ入レテアル。

人ハ耳ヲ動カスヲ能ハサル動物ナリ。

人ハ諸動物ノ内尤モヨク眠ルモノナリ。杯云ヒ

又或ル場合ニハ人ヲ四足獸ノ中ニ籠メテ居ル。

又猿ハ人ト四足獸トノ特性ヲ并有セルモノデアアルト云ヘリ。即チ今ヨリ二千二百年前「アリストートル」ハ人ト猿ト尤モ接近シタルモノデアアルト云フヲ云ヒテ居ル。斯ノ如ク從來ノ哲學者ノ空想ヲ捨テ、着實ニ研究シテ居ル。

一時盛ナリシ「ギリシヤ」カ衰ヘテ「ローマ」へ學問ノ中心ガ移ツテ「ローマ」カ盛ナルニツレテ上流社會ガ奢ニ流レテ下流ノモノカ人類視セラレサリシヲアリ、ソコデ耶蘇ガ人類ハ平等ノモノデアアルト云フ教エヲ擴メテ常ニ上流ノモノニクルシメラレテ居ルモノハ之レニ傾クモノ多クナツタ。

耶蘇ノ唱導スル一神教ハ中流以下ノ平等說ヲ喜フモノト上流ノ專制ニ慣レタル

モノト衝突シテ氷炭相容レヌ漸々信不信ノ争ヒヲ生シ、遂ニ耶蘇ハ殺サレタレモ其宗教ハ廣ク傳ハリ「ローマ」ノ多神教ハ衰へ西曆紀元三百二十三年遂ニ政教一致トナツタ。

耶蘇ハ初メ人類ハ平等デアアルト云フテ下ヲ助ケタレモ此教エカ政治ト合体シテカラハ其主義ガ異テキタ耶蘇教ニ於テ尤モ重ニスルハ舊約全書デアアルガ其中ノ創世記ニ天地開闢ノコト人類ノ起原ノコトカ説イテアル此創世記ニ疑ヲハサミ信セサルモノハ國教ニ反對スルモノトノ嫌アルヲ以テ彼此議スルコトヲ得ヌ様ニナツタ。元來ハ自由ヲ尊フノ宗教ナリシモ政治ト合体シテカラハ自由ヲ害スル様ニナツタ。

舊約全書中ノ創世記ハ西曆紀元三千四百年前「エジプト」生ノ「モーゼス」ト云フモノ「ヘブリエー」人即「イスラエル」人ヲ助ケヨウトノ主意ニテ作リシモノデア固リ廣ク人類ノコトヲ考ヘテ立テタ説デハナイ。

創世記人類起源ノ話ヲ普通ノ解釋ニ從ツテ云ヘハ一ツノ神様カ土ヲ取テ人ヲ作り其ノ鼻ノ孔ニイキヲ吹キ込シテコレカ「アダム」ト云フ男デアアル一人ニテハサビシカラントデアバラノ骨ヲ一ツトリテ一体ヲ作ルコレガ「イブ」ト云フ女デアアル。



此二人カ人類ノ祖先テアハルトハ云フケレト「アダム」ノ子ガ嫁ヲメトルト云フイカアルコレヲ以テ見レバ他ニ人類ノ居タコトヲ認メナケレバナラヌ然ルニ創世記ヲ講スル人ハ「アダム」「イブ」ノ外ニ人間ハナキモノトナシ他ニ有ルト云フノハ教旨ニ背クト云フ様ニ考ヘタ。

「ローマ」ノ「ジュリアン」帝ハ幼ヨリ耶蘇教ノ教育ヲ受ケシ人ナルガ位ニ即クニ及ンテ多神教ヲ唱ヘ「ローマ」ノ舊イ教エヲ回復セント計リテ人類ノ祖先ハ一人或ハ一對ノ男女ニ非スシテ多數アリシモノナリトノ論ヲ唱導セリ。

「ジュリアン」帝カ西曆三百六十二年ニ著述シタル書ニ吾々人類カ凡テ一對ノ男女ヨリ降リタルモノナラハ諸地方ノ風俗習慣法律ガカクマデニ異ナル筈カナイ。

「ジュビター」ト云フ神カ世界ヲ作りシハ神聖ナル血ノ數滴ガ地面ニ落チ其血カラ人類カ出來タト云フ説モ又大ニ考フヘキモノデアルト記サレタ。

耶蘇教ノ信者ハ「モーゼス」ノ創世記ヲ神聖ナル傳説テアルト信シテ居ル。

「ジュリアン」帝ハ舊イ教エヲ神聖ナル傳説トサレク。其コ神聖ト信スルト云フ丈テ確トシタ據ハナイ。

「ジュリアン」帝ハ其權カト筆カトヲ以テ耶蘇ノ一祖論ヲ撲滅セントシタレモ遂ニ

志ヲ達スルコト能ハス帝ノ死後耶蘇教ハ益盛ニナリ之レト同時ニ一種ノ弊害ヲ生シタリ即チ平等ヲ主義トスルニモ係ハラヌ此教ヲ信スルモノハコレヲ愛シ信ゼサルモノハコレヲ愛セスト云フ愛憎ノ念ヲオコスニ至レリ。

時ニ「アレキサンドリヤ」ニ絶世ノ美人「ハイパチア」女史ト云フモノアリ弁説爽ニシテ其説頗ル高尚ナリシヲ以テ之レヲ聞カントテ堂ニ集ルハ學者富有者其他物好きノモノ等實ニ多人数ニシテ常ニ其講義堂ニ充滿セリコレニ反シテ其ノ堂ノ隣ニサビシキ堂アリコレ即チ「サイリル」ノ講義堂ナリ氏ハ常ニ口ニ百萬言ヲ誦シ手ニ數十萬人ヲ迎フルノ振舞ヲナスト雖聽衆者常ニ少ク人ヲ備フテ拍手喝采セシメタリシモ女子ノ方ハ益々盛ニシテ一方ハ尤モサビシカリケレハ遂ニ嫉ヲ生シ「ハイパチア」女子ヲ殺サントシ女子ノ講義堂ニ登ルノ際暴徒ヲ差シ向ケ女子ヲ捕ヘ市中ニテ衣服ヲ剝ギ或ル寺ニツレ行キ棍棒ニテ打チ殺シ貝殻ニテコレカ肉ヲハギ之ヲ火ニクベケレドモ政府ハ更ニ非難シナカツタカクノ如クナルヲ以テ世間耶蘇教ニ反對ノ意見ヲ持テ居ルモノモ恐レテ沈黙シテシマツタカラ耶蘇教ハ益増長シ「ヒツポ」ト云フ處ノ「セントオーガスチン」ト云フ人ハ一書ヲ著シテ人類ガ唯一ノ祖先ヨリ降ツタト云フコトハ心正シキモノ、疑フコト能ハザルトコロナリト放

言シ又吾々ノ立ツ處ノ眞下ノ向フノ端ニ土地ガアツテ人カ住ミ其人ハ尾ヲ吾々ノ方ニ向ケテ立チテ居ルト云フ如キコトハ信スヘカラス唯一ノ祖先ヨリ降リシ人類ガ程遠キ海ヲコエテ反對ノ側ニ立ツナド云フハアリウベカラサルコトデアルト記シタ。

耶蘇教ノ盛ナルニツレテ耶蘇教ノ經典ハ神聖ニシテ疑ヲ容ルコトヲ許サズモシ疑ヲ容レテ云々スルモノアレハ暴力ヲ以テコレニ加ヘシカバ「ローマ」ニテ人類研究ニ心アル人モ多クハ口ヲ閉チテ一言モ言ハザルニ至ツタ。

國ハ人類ノ祖先ハ數人ナリキト云ヒテ罵詈謗ヲ受ケタモノモアリ或ハ吾々ノ住スル世界ハ普通創世記ニ述フルヨリ古キモノナリト云ヒテ燒殺サレタモノモアル。

或ハ人類ハ一地方ニ限ラレテ起タモノデナク世界ノ各地方ニ生シタモノナルヘシト云フテ殺サレタモノモアル。又俗説ニ人類ハ猿ト豚ト蛙トノ三種ノ動物ガ腐敗シタ中ヨリ出來タモノダト云フトノコトヲ記シタ丈デヒトク宗教家ヨリイマレテ遂ニ焚殺セラレタルモノモアル。

又千六百五十六年或人ハ「アダム」「イブ」前代ノ人類ト云フ著述ヲ作りテ大ニイ

マレ其著述ハ遂ニ燒カレテ仕舞ツタ。

耶蘇教ハ言論ノ自由ヲ斯クノ如ク束縛壓制シタ然レモ事實ノ發現ハ止ムルコト能ハス歐羅巴人トハ殆ト足ノ裡ヲ合ハストモ云フヘキ亞米利加土人ノ存在ガ知レ遂ニ宗教家ノ内ニモ唯男女一對ノミヨリ出來タルモノトスレバ斯ク諸地方ニ人類ノ生活スル筈ハナイトノ考ヘテ生スル者モ出來舊世界ノ人類ハ亞細亞ノ「アダム」「イブ」ヨリ繁殖シ新世界ノ人類ハ亞米利加ノ「アダム」「イブ」アリテ繁殖シタノデアルト云フ窮シタル説ヲナスニ至ツタ。斯クテ歐州人ノ亞米利加ニ移住スル者ノ中ニハ亞米利加土人ヲ以テ異祖ノ子孫トナシドシク虐殺シタ事サヘアル。多祖論ハ余リ勢力ヲ得ナクテ一祖論ガ矢張り行ハレテ居タ。祖先ノ論ヤ起源ノ論ヲ差シ扣ヘルトシテモ人類ニ關スル研究ハマダ殘ツテ居ル。ソレハ世界ノ現住民中ニハ如何ナル種類ノモノカ居ルカソレラハ如何ニ分類スヘキカトノコトデアル。此研究ハ宗教説ニ遠慮ナシニスルコトガ出來タ「フランス」ノ「ベルニエ」ト云フ學者ガ千六百八十四年或ル雜誌ニ投書シ世界ハ住民ニヨツテモ別ツテ得ルトノ説ヲ公ケニシタ。

「ベルニエ」ハ体格上相互ニ異ナル人民ハ確カニ四通リカ五通リアルト云ツタガ

コレニ一々名稱ハ附ケナカッタ「ベルニエ」ハ世界ヲ分ツト云ツタガ結局人類ヲ分類シタノテアル。其後「ライプニツツ」ガ此説ヲ引用シタカ其時ニハ各々名ヲ付ケテ呼ンタ

ラブランド人 エチオピア人 モンゴリア人 ヨーロッパ人 アメリカ人

ソレデ世界中ニ任スル人類ハ悉ク同様ノモノテナク一團體ヅ、カ種々ノ異ナル点ヲ有ス左スレハドーシテ其別ガアルト云フ疑問カ起ルハ當然デ此ノ問ニ對シテ答ヲ試ミタ學者モ澤山アル。

「ラクスフアード」ノ「エルビ」本名ヲ明記セスト云フ人ハ人類ハ本源カラ異ツテ居タト云フ説ヲ立テタ。

「ネーブルス」ノ「ヒヤシンズギン」ハ千七百十四年ニ世界中ノ人類ハ地方ニヨリテ色々異ルヘケレ凡テ一種ノモノナルヲノ説ヲ明カニ世間ニ發表セリ是ニ於テ人類ハ一種カ數種カト云フ議論漸ク盛ニナレリモシ世界中ノ人類ガ一種ナリトスレハ何故ニ其容貌皮膚ガ各異ルカ其説明ヲ與ヘナケレバナラヌ。

耶蘇教信者ハ創世記所説ト一致スルヲ以テ概テ一種説ヲ歡迎シタ。耶蘇教ヲ奉スルモノハ其宗教ニ疑義ヲ挾ムモノハ燒殺スルト云フ如キ肉体ニ苦ヲ與フル如キ

殘酷ノ事ハ止メタガ尙社會上ノ地位ヲ恃ンテ人類研究者ノ言論自由ヲ妨ケル傾キガアツタ斯クノ如クゴク古イ時代ニハ研究ノ基礎タル材料集收ニ心ヲ用ヒズ事實ノ研究ヲ度外ニスル風デアツタ。

深ク事實ノ研究ニ意ヲ用キ出シタノハ瑞典ノ學者「リネウス」テアル。「リネウス」ハ人類ノ學術名ヲ「ホモサピエンス」(Homo Sapiens)ト定メタ。

此ノ「リネウス」ノ有名ナル博物書ニ人類ノ「ガ記シテアル。

一般動物ニハ説明記述ヲ與ヘタノニ人類ニハ別ニ説明ナク只「汝自身ヲ知レ」ト云フ古語ガ書イテアル。併シ關係記事ヲ讀ミ通セハ「リネウス」ノ人類説カ解カル。

千七百六十三年發行ノ十二版ノ内ニ一種ノ動物トハ親子相繼キ體質殆ント同様ニテ一羣凡テ同一ノ祖先ヨリ降りタルモノト見ルヲ得ヘキモノヲ云フト書イテアル。「リネウス」ハ人類ハ右ニ合格スルカラ一種テアルト云フ。尙ホ猩々ヲモ人類ガ他動物ニ優テ居ル所ハ主トシテ推理力ニアリ。

人類中ニハ四ツノ區別アリ赤キアメリカ人白キヨーロッパ人褐色亞細亞人黒キチグロ之レナリ

人類ノ起源ハ創世記ニ記載シタル通りテアロウ環ト記シテアル。

「リチウス」ノ説ハ全ク理學ノミトハ云ヘザレハ其研究法ハ余程理學的テ緻密デア  
ル。

「リチウス」ノ人類ノ區別ハ「ベルニエ」ノ區別ト畧ボ一致シテ居ル黑人種白人種ナ  
ト云フハ全ク「リチウス」ニ始ツタノデアアル。

推理力ヲ以テ人類カ他ノ動物ニ異ナルト云ツタノハ「アリストートル」ト異ナラズ  
「アリストートル」ト異ナルハ種トハ何ソヤト云フコトナリ。

「リチウス」ノヤリダシタル事業ハ分類ナリ氏ハ何事ヲモ分類的ニ研究セント試ミ  
タリ然レモ「リチウス」派ノモノハ分類ノ極端ニ走ルノ弊アリテ非難スルモノ少カ  
ラズ其ノ説ニ尤モ有力ノ反對説ヲ立テシハ佛國ノ「ブッフラン」ニシテ氏ハ天然ノ  
モノハ一個ノ存在スルノミト主張セリ斯ク極端ナル説ナリシヲ以テ人類ニ付  
テモ異ナル説ヲ立テ居ル。

兎ニ角人類ノコトヲヒトマトメニシテ一書トナシテ記セシハ「ブッフラン」ノ著述  
ガ第一ナリ此ノ著述中ニハ世界ニハ如何ナル人種カ生活スルカト云フコトヲ面  
白ク説明セリ。

以上ハ主トシテ休格ノ上カラ見タ人類ノコトデアアルガ心理的性質ニ付テ人類ヲ

論シタ人モアル。英國ノ詩人「アレキサンダー・ポープ」カ人類ノ説ト云フ永キ詩ヲ作ツ  
タノモ其一デアアル。或ル人ガ「ボープ」ノ出精スルヲ嫉ミテ惡評ヲ加ヘタノテコレヲ  
憤リテ復讐的ニ已ヲ誹謗スルモノ、名ヲ入レテ小説ヲ作レリ友人ハコレヲ慰メ  
テ忠告シタリ、ゴノ忠告ニヨリテ筆ヲ探リテ作りタルモノガ人類ノ説ト云フ詩テ  
アル其中ノ一説ニ人ノ當ニ研究スヘキモノハ人ナリトノ有名ナ句カアル。此詩ニ  
人類ト他動物トノ心理上ノ差異ハ僅少デアルト記シテアル。博物學者ガ体格上ヨ  
リ研究スレハ人間ハ他ノ動物ト一ツナレトモ心理上異ル所ガアルト云フ様ニ説  
クト心性研究者中ニハ又心性上人ト他動物ト大差ハ無イト云フ。即チ人類ハ何レ  
カラ見テモ動物ノ一ト云フヘキモノデアルト云フ様ニナツタ。人類ニ關スル諸事  
實ヲ一纏メニシテ研究ヲ始メタノハ獨乙ノ「ブルメンバツハ」デアアル此ノ人ハ如何  
ニシテ研究ヲ始メタカト云フニ同氏ハ博物ノ「ヲ」或ル學者ニツキテ學ンタ所此  
先生ハ雜話ノスキノ人テ雜話ノ爲ニ博物學講義ハ進マナカツタノテ卒業論文ヲ  
作ル時特別ニコレト云フ種ガナカツタ當時ノ博物書ハ「リネウス」ノ書デ此ノ書ニハ  
人類ノ事カラ説キ始メテアツタノテ雜話中ニハ諸人種ノコトガ多カツタ。ソコデ  
ソレヲ總括シ自説ヲ交ヘテ千七百七十五年ニ人類ノ自然變種ニ付テト云フ論

文ヲ書イタ

千七百九十五年ニ其第三版が出タ。此書ニハ世界中ノ人類ニ大凡五ツノ大別ガアルトテ、コーカシアン・モンゴリアン・マレイ・エチオピヤン・アメリカンノ名ガ載セテアル。「ブルメンバツハ」ハ人類ヲ研究シ人種ノ考ヘタノミナラズ初メテ諸人種ノ頭骨ヲ集メソノ陳列ヲ始メタ。

此人ハ講義ニ尤巧ミナリシヲ以テ英國ヨリ態々二王子ヲ傍聽ノ爲ニツカハサレタリ。ババリア王子モ聽講サレ即位ノ後又其子ヲ氏ノ所ヘツカハサレタ。此ノ如ク學問上ノ効績顯著ナルヲ以テ氏ハ二十年ノ間租稅ヲ免ゼラレタ。

氏ハ頭骨圖譜ヲモ出版シテ學者ニ頒チ大ニ裨益ヲ與ヘタ。此他、人類研究ニ付テノ氏ノ事業ハ實ニ大キナモノデアル。

「ブルメンバツハ」ハ人類研究ヲ盛ニシタバカリテナク「アンソロポロジイ」(Anthropology)ト云フ語ヲ以テ此學問ヲ呼フ名ト定メタ。此人ハ此學問ノ祖ト云ツテ宜シイ。私ノ云フ所ノ人類學ハ即チ「アンソロポロジイ」ノコトデアリマス。

## 第二講

### 緒言ノ續キ

此頃ヨリ人間ノ研究ニ注意スル者多クナレリ英國ニ「ブリチャード」ト云フ人出テ來レリ此人ノ父ハ學問ノアル人ニアラサリシガ小供ヲ學ハシメント欲シ多クノ學者ヲ家ニ招キテ歴史語學等ヲ學ハシメタリ。

「ブリチャード」ハ語學ヲ研究スル爲メ外國人ニツキテ雜誌セント欲シ諸國人ニ遇ヒテ談話セシニダシテ諸外國人ニ接シテ人種異同ニ心ツキテ興味ヲ生シ遂ニ併セテ人種ノ事ヲ研究セントノ念慮ヲ生シタ。然レモ此ノ如キコトヲ一ノ學科トシテ教ヘルト云フ所ナカリシカハ先ツ解剖生理ノ事ヲ學ハントテ醫學ヲ修メ後卒業シテ開業醫トナリ旁ラ人類研究ニ力ヲ用ヒタリ氏ハ語學ニ通シ且解剖學ニ經驗アルヲ以テ人類ヲ研究スルニ尤モ都合ヨカリキ。是時ニ當リテ世界上ニアルトコロノ人種ハ一種ナリヤ多種ナリヤノ論盛ニ起レリ依テ氏ハコレヲ研究シテ千八百〇八年一書ヲ著ハセリ其書物ニ於テ人類一種一祖論ヲ唱導シ世界ノ人類ハ一種ニシテ其内ノ異リタル物ハ變種ニ過キナイ祖先ハ一ツ即チ一對ノ男女ナリト云ヘリ、

此書ハ學位論文ニテ當時ノ習慣ニ從ヒ「ラテン」語ニテ草シタルモノナルガ多クノ

人ニ示サンカ爲千八百十三年増補シテ英譯シ漸々版ヲ重キテ遂ニ世界ニ有名ナルモノトナレリ然レモ著述ノ始ニ於テ氏ハ「ブルメンバツハ」氏ガ獨乙ニ於テ人類研究ヲ爲シツ、アルト云フコトハ更ニ知ラサリシガ後ニ至リテ漸ク之ヲ知レルナリ。「ブリチャード」ハ諸人種ノコトヲ論スルニ當テ容貌皮膚色ヲ示ス着色圖ヲ書中ニ掲グ且人類分布ノ地圖ヲ畫キテ詳記セリ。「ブリチャード」ノ著書ハ人類ヲ研究スル上ニ忘ルヘカラザル効績アリシコトヲ記憶セサルベカラス故ニ一般ニ「ブルメンバツハ」ヲ以テ人類學ノ祖トナセドモ英國ニテハ「ブリチャード」ヲ以テ特ニ英國人類學ノ父トナス(佛國ニテハ「ブツフォン」ヲ祖トナスケレモ之レハ穩當ナラス)コレト同時代ニ佛國ノ「キユビエ」ガ千八百十七年動物學ノ書物ヲ著シ其ノ内ニ人類ノ「ヲ記セリ其ノ記述ハ人類一種多源論ニシテ之レハ世界中ニ住スル人類ハ一種ナレモ諸人種ハ本源カラ異ツテ居タノデアルトノ說ナリ即チ「キユビエ」ノ說テハ歐羅巴人ノ白キモ亞弗利加人ノ黒キモ悉ク一種ナレモ斯カル相違ハ根本的ノモノナリト云フナリ。

千八百十八年英國ノ「ロウレンス」ト云フ人ロンドンノ皇立外科學校ニテ人類學上ノ講義ヲナセリコレ此種ノコトヲ多數ノ面前ニテ講義シタルノ始メトナス。

其翌年(千八百十九年)ニ其講義ヲ一括シ人類自然史ト題シテ發行セリ。此人ノ主唱スル處ハ人類一祖論ニシテ「ブルメンバツハ」ヲ祖述シテ之レト同說ナレモ唯流暢ノ辨ヲ以テワカリ易ク布衍シテ說キタルナリ。

此時代ニ於テハ人類ハ一種ナルカ數種ナルカト云フノ論說盛ナリキ。之レハ學問以外ノ事ナレモ歐羅巴ニハ奴隸賣買大ニ行ハレ慈善家及宗教家ハ之ヲ救ツテヤラナケレハナラナイト云ヒ一方ニハコレヲ助クル必要ガナイトノ二派トナリテ爭ツタ慈善家宗教家ハ世界ニ於ケル人類ハ「アダム」「イブ」ノ子孫ニシテ兄弟分ナレハ助ケナケレバナラナイト云ヒコレニ反對スルモノハ人類多種論ヲ根據トシテ全ク兄弟分テナイ別種ノモノテアルカラ牛馬ヲ使役スルト擇バスト云フテ爭ツタ斯クノ如クモト奴隸賣買ノ問題ガ端ナク一種論多種論ノ爭ニ轉ジタソコテ宗教家慈善家ハ人類一種說ヲ歡迎シ奴隸繼續ヲ思フモノハ人類多種說ヲ歡迎シ遂ニ極端ニ走リ英國ノ或ル人ハ人種ノ本源ハ同一ニアラズト云フ說ヲ唱ヘシヲ以テ慈善ト人類學トハ兩立スルコト能ハスト云ヒ大ニ其不都合ヲ唱ヘ慈善家ノ口カラ人類學者ヲクビリ殺セト絶叫スルニ至レリ。

千八百四十年時代ニ於テハ大激論トサヘ云ヘハ世界ノ人類ガ一種カ多種カト云

ヲ論ナリト知ラル、ニ至レリ。茲ニ於テ此問題研究ニ志アル學者ハ專門ノ會ヲ開  
カンコヲ思立ツニ至レリ

千八百三十七年ニ「ロンドン」ニテ土人保護會立テラレタリ。此主意ハ亞弗利加人南  
洋人等ノ未開人ヲ保護スルニアリテ傍學問上ノ研究ヲナシタリシカバ此會ハ半  
ハ理學的ノ調査デ半ハ慈善的ノ會合ナリコレヲ斯學ニ關シテ研究スル會合ノ始  
トナス。然レモト慈善ノ爲ニ生ゼシモノナレハ行掛リ上人類一種一祖ノ主義ニ  
アラザレハコレヲ唱導スルニ不都合ナル傾キアリタリ。

千八百三十八年ニ巴里ニ開カレタル人類學會ハ純然タル理學ノ會ナリシ。

人類學ト云フ言葉 (Anthropology) ハ古クヨリ有リシモノナルガ巴里ニ開カレシ會  
ハ新ニ人類學 (Ethnology) ノ會ト名附ケラレタリ。

千八百四十三年ニハ「ロンドン」ニテモ人類學會起レリ。人類ガ一ツ本源カラ出タト  
スレハ人種ノ別ハ段々ニ生ジタト見ナケレハ成ラヌ然ルニ「エジプト」ノ古書ヲ檢  
スルニ寫シ出サレタル諸種族ノ容貌今日ノモノト異ルコトナシ。是ニ由テ考フル  
ニ人種ノ別ハ根本ヨリアリシナラントノ説ガアル。此論中極テ肝要ナル「ガ欠テ  
居ル」レハ人類ハ數千年前ト云フ位ノ時ニ出來タモノカドウカト云フコトデア

ルモシ數千年前ニ人類カ生セシモノナレハ埃及ノ繪畫彫刻等ヲ證據トシテ多源  
論者ノ勝利ニ歸ス。モシ又何萬年何十萬年前デアアルナラ一源論カ誠ラシクアル。  
世人ノ多クカ信スル如ク人類ガ六千年前ニ出來タルモノトスレハ人類ハ初メヨ  
リ異ナリシト云フヨリ外ハナイノデアアル。「ブリチヤード」ハ創世記内ニ年數ノナキ  
ヲ見創世記ハ信用スルケレモ年數ヲ研究スルハ決シテ創世記ヲ敬ハナイノテナ  
ク年數ヲ自由ニ研究スル必要カアルトノ注意ヲシタ。併シ古カラウト云ツタ丈デ  
特別ノ研究ハシナカツタ。「キユビエ」ハ土中ヨリ吾々ノ常ニ見サル動物ノ骨ヲ掘  
リ出スコトアルニ付キコレカ解釋ヲ與ヘ世界ニハ屢一大變動アリテ其都度世界  
ハヒツクリカヘリ其ヒツクリカヘル毎ニ新ナル動植物カ繁殖セリトナシ斯ル變  
動前ヲ假リニ前世界ト名ツケタリ。扱人間ハ今日ノ此ノ新シキ時代ニ出來タルモ  
ノカドウカト云フニ其レハ分ラヌ。然シ「ア」ノ大洪水ハ最モ近キ一大變動ナラン。  
モシ然ラハ舟ニ乘リテ助カリタルモノハ前世界ノ遺物ト云ハ子ハナラヌト云フ  
タソウシテ見レハ前世界ノ人類ノ化石ノ如キモノガドコカテ發見サルヘキ等。斯  
ク考ヘラレテ居ル時適或ル地方ヨリ人間ノ化石ト思ハル、モノヲ發見セリ之ヲ  
關ベタ學者ハ人間ノ化石ト思フタ然ルニ漸々研究シテ石ヲ取り去リシニ人骨ニ

アラスシテ大鯨ト鑑定サレ尙又ヨク研究ノ結果サンシヨ魚ノ大ナルモノト  
 断定サレタリ是ヨリ以後人間ノ化石出テシト云フ毎ニ前ノ失敗ニ懲リテ又前ノ  
 サンシヨ魚ナラントテ信用ヲ置カサルニ至レリ。

千八百四十一年ニ佛國ノ退職軍醫「ブシエード・ベルト」ト云ヘル人人類ノ年代ニ付  
 ナ大發見ヲセリ此人ハ物好キニテ珍ラシキ物ヲ集メ「ソーム」河ノ岸ニテ種々ノモ  
 ノヲ集メタ或時此地ニテ土方カ煉瓦ノ土ヲ取り居リシニ妙ナ石カデタソレハ猫  
 ノ舌ノ如キモノナリシカハ土方ハ「ブシエード・ベルト」カ物好キユエコレヲ猫ノ舌  
 石ト稱シテ氏ノ家ニ持チ行キシニ珍シキ石器ナリシカハ自身其場所ニ至リテ取  
 調ヘシニ其絶滅動物ノ骨ト共ニ出ツルヲ知レリ同氏ハ其所ノ地層ヲ調ベ洪積期  
 ニ既ニ人類ノ住セシコトヲ明ナルコトヲ公言セリ是ニ於テ宗教者ハ大ナル妨害ト考  
 ヘテ攻撃シタソコテ遂ニ同氏ハ一時其説ヲ引キ込メテシマツタ然ルニ此ノ處ヲ  
 英國ノ地質學者カ通り掛リ石器ヲ見歸國ノ上再ヒ他ノ學者ト共ニ來リテ研究シ  
 初テ洪積期ノ石器ナルコト明トナレリ是ヲ以テ見レハ洪積期ニ於テ既ニ人類ハ住  
 ミシモノナレハ「エジプト」ノ繪畫彫刻杯ハ人類ノ歴史ニ取リテハ誠ニ近キ頃ノモ  
 ノト云ハナケレハナラヌ。

是ヨリシテ人類ニツキテハ人類ノ古サ人種ノ區別言語ノ比較等ノ種々ナル研究  
 起リ遂ニ種々ノ學者カ會合シテ何レノ方面ヨリモ研究セント志スニ至レリ。  
 以前ハ諸人種相互ノ關係ノミ研究セシカ其外ニ人類ノ古サ等ヲ研究セサルヘカ  
 ラサルニ至レリソコデ一ツ妙ナコトカアルソレハ佛國巴里デ「プロカ」ト云フ學者  
 アリ此人カ諸人種間ノ雜種ニ付テ一ノ學術的研究ヲナシテ論文ヲ草シ之レヲ學  
 術會ニ出サントセシモ的當ノ機會ナカリシカハ博物學會ヘ提出セシニ高尚ナル  
 人類ヲ動植物ト共ニ研究スルハ不都合ナリトテ朗讀スルコト能ハサリキ己ムヲ得  
 スコレヲ生理學會ヘ出シテ漸ク讀ムコトヲ得タリ。此時代ニ於テハ人類研究ヲ博物  
 學ノ内ニ入レサリシ由テ同氏ハ人類ノミヲ研究スル會合ヲ初メナケレハナラナ  
 イト云フ意向ヲ起シ賛成者ヲ募リテ先ツ人種學會員等ヲ誘掖セシニ人間ヲ研究  
 スルト云フコトハ思ヒモ寄ラヌトコレニ反對スルモノアリテ會員ハ僅ニ十餘人  
 シカナカツタソコテ少數ニテモ開會スヘシトテ之レヲ政府ニ願出テシニ其ノ時  
 ハ恰モ戰爭後ニテ凡テ集會スルニハ手續ヲナシテ許可ヲ受ケルコトニナツテ居  
 タ然ルニ集會政法等嚴重ナリシタメ容易ニ許サレス文部省ニ願ヒ出ツレハ之  
 レハ警視總監ノ管理スルトコロナリナド、手數ヲカケテ直チニ許可スルコトナカ



リシカハ氏ノ友人ニテ政府ニ居ルモノカ之レヲ保証シテ會員カ若シ政治上ニ關スル言論ヲナシタリ其他不都合ノコトアレハ「プロカ」一人ニテ全責任ヲ負フトノコトテ漸ク許可サレタレ其講演ノ時ハイツモ巡查カ其場中ニ立合ツタト云コトタ即チ千八百四十三年ニ企テラレ後設立スルヲ得ルニ至レリ兎ニ角佛國ニテ人類學會カ始メニ出來テ後ニ人類學會ト云フモノカ成立スルニ至レリ。

千八百五十年ノ頃ハ太古ノ石器時代ノ遺物ノ研究盛ニナリテ人類ノ古サト云フコトヲ考フル者數ヲ増スニ至レリ。

千八百四十年ハ人類ノ一種カ多種カノ研究ノミ盛ナリシカ千八百五十年頃ニ至リテハ人類ノ古サナド云フコトカ研究セラル、ニ至レリ。

千八百五十三年「スウキツルランド」ニ於テ早魃ノ爲メ湖水（ツクヒ等）ノ水涸レ其湖底ノ泥土中ヨリ古物ヲ發見セリ上層ヨリハ「ローマ」時代ノ鉄ノ武器出テ次第ニ深ク掘リシニ鉄器ト共ニ青銅ノ道具出テ其下ノ地層ヨリハ青銅其下ノ地層ヨリハ青銅ト石器最モ下層ヨリハ石器ノミ出テタリ。

鉄ノ 鐵器  
青銅ノ 青銅器  
石器ノ 石器  
武器 道具

「ギリシヤ」ノ昔話ニ太古ノ人類ハ誠ニ無邪氣ノモノデアリシ故ニ其時代ヲ稱シテ黃金時代ト云ヒ其ヨリ劣リシハ銀ノ時代其レヨリ更ニ劣リシハ青銅時代ソノ次ヲ英雄時代（「トロイ」ノ戰爭ナドアリシヲ以テ何レカノ時代）次ヲ鉄ノ時代ト云フ事カアル斯カル名稱ノ有ツタニ基イテ學術的研究上各時代ニ利器トシテ用ヒタル物質ニヨリ石時代青銅時代鉄時代ト名稱ヲ附スル様ニナレリ日本ニテ之ヲ譯スル時分ニハ石器時代青銅器時代鉄器時代ト器ノ字ヲ加ヘルコト、成リ居レリ。

「プシエード、ペルト」ノ研究說ヲ體メル爲メ地質學者「ブレスウイッチ」ト古物學者「エウアンズ」及ヒ「ラボック」ト云フ種々ノ學問ニ達シテ古物ノ研究ニ精シカリシ三人カ「プシエード、ペルト」ノ處ヘ取調ヘニ行キ全ク洪積期時代ニ人類ノアリシモノナルコトヲ體メテ英國ニ歸レリ。

千八百五十九年ニ「ブレスウイッチ」氏カ歸リテ皇立學會ニテ演說セリ之レ迄ハ人々カ寄りノ、オ互ニ話セシノミナルニ公衆ノ面前ニテ第四紀人類ト云フコトヲ地質學者カ責任ヲ以テ名譽アル學會ニ發表シ紹介セリ。

「エウアンズ」「ラボック」ノ兩氏モ研究ノ結果人類學上ニ種々ナル効ヲ奏シタ。

千八百五十九年ニ「プロカ」ニヨリテ立テラレタル「巴里」ノ人類學會モ遂ニ會合スル

トナレリ。

次ニ人類ノ古サト云フヲ研究スルト同時ニ如何ニシテ人類ハ出テ來リシモノナルカト云フ疑問起リテコレニ注意スルニ至レリ。天カラ降タカ地カラ湧タカ或ハ神カラ作ラレタルカト云フ種々ノ説アレモ「ダーウイン」ノ進化論ニヨリテ人間ノ「ヲ知ル」カ出來ル此人ノ書ヲ發表セシハ千八百五十九年ナリ。人類ニ關シテ種々ナル發見ノセラレシハ此ノ年ナリ故ニ千八百五十九年ハ人類學上大ニ記憶スヘキ年代ナル。

千八百六十三年ニ「巴里」ニテ人類學教授ト云ヘル名ヲ置カレタ。

此年「ロンドン」ニテモ人類學會起レリ之レハ「ロンドン」人種學會ノ會員ノ一人カ人種學會ヲ更ヘテ人類學會ヲ興サントシタレモ容レラレサリシカハ遂ニ獨立シテ會員ヲ集メ遂ニ一ツノ會ヲ立テタリ此人ハ「ハント」ト云フ人ナリ。

千八百六十三年ニ「ハックスレイ」氏カ自然ニ置ケル人類ノ地位ト云ヘル著述ヲナセリ。「ハックスレイ」ハ「ダーウイン」ノ説ヲ人類ニアテハメタルナリ英國ニテハ同氏ノ著述ハ初版カ發行サレタギリデアツタ其故ハ同氏ノ著書カ非常ノ聲價ナリシヲ以テ宗教家ノ攻撃甚シカリシタメテアルケレトモ米國ニテハ發行セリ。

又同年ニ地質學者ノ「ライエル」氏カ人類ノ古サト云ヘル著述ヲナセリ。

其後人類ノ研究ニ「ダン」ノ學者カ心ヲ傾クルヤウニナリ諸方ニ學會興リ「マドリッド」「モスコ」「セントペートルスボルク」「マンチエスタ」等ニ陸續起ルニ至レリ。

千八百六十八年獨乙ノ學者「ヘッケル」氏ハ人類進化論ト云ヘル大著述ヲナセリ其後諸所ニテ著述出來又學會モ盛ニ起レリ。

日本ニテハ千八百八十五年即チ明治十八年ニ東京ニテ人類學會ヲ設立セリ。

千八百九十二年即チ明治二十五年日本ニテ人類學ノ教授ヲ置カレタリ。

千八百九十六年(英國)「オックスフォールド」ノ「タイラー」氏人類學ノ教授トナレリ。

歐洲ニ於テハ歴史的關係ニヨリ耶蘇教ニテ重スル創世記カ專ラ行ハレ人類ハ如何ニシテ起リシカソレハ神カ作りシ人類ノ初メハ「アダム」「イブ」デアルト己ニ創世記カチャント説明シテ居ルカラ研究ノ仕様カナイ。「オックスホルド」ノ博物館テ人類學ノ材料ヲ集ムル主意書ヲ「ミル」ニ公然人類學ノ研究ト云フヲ憚リテ今日ハ人類ニ關シテ二説アリ一説ニ人類ハ漸々墮落シテ今日ニ至レリト云ヒ又一説ハ人類ハ漸々進歩シテ今日ニ至レリト云フ其何レカ真ナルカヲ研究スルニアリト云ツテ居ル又外國ニ於テハ人類學研究者ハ「アレ」氏思フ所ヲ公衆ノ前ニテ公然ト

(32)

講演スルハ宗教ニ憚リアルヲ以テ躊躇スルノ不便アリ日本ハ宗教上斯カル關係ナキヲ以テ人類ヲ研究スルニ少シモ障害ナク益々進歩スル好位置ニ立テリ。人類學ト表題ノツキタル書ノ一ハ佛國「ドビナール」ノ著書ナレモコレニハ重ニ体格特ニ骨格ノ「ノミヲ記シアリ。

「ダイラー」ノ人類學ハ主トシテ人類開化史ナリ。

「ハットン」(英國人)カ人類ノ研究ト云ヘル書物ヲ著ハシタレモ之レヲ見レハ頭ノ形鼻ノ形事ノ歴史玩弄物ノ歴史等ニテ人類ノ研究トシテハ不完全ナリ。歐米ニハ人類學ノ參考書ハ澤山アレモ純然タル人類學ト稱スヘキ書物ハ之ナシト言フモ過言ニアラサルヘシ。

日本ノ講習會ニテ人類學ヲ講習スル「ハ」地方ニテハ當地カ初メテナリ。コレ世界ノ人類學ノ歴史上ニ尤モ名譽アル「ト」思フ

## 總論

人類學ノ定義 (Anthropology)

人類學ハ人類ノ理學ナリ。

人或ハ云ハン定義餘リ簡單ニシテ人類學ハ人類學ナリト云フト殆ント同様ニ開ニ定義ノ功用ヲ失ハヌヤト余ハ思フ決シテ然ラスト何トナレハ人類學ハ實ニ讀ンテ其字ノ如クナルモノナリト「コトヲ明ニスレハ足レリ

人類學ノ名實

人類學 (Anthropology) テ「語ハ希臘ノ「アンソロポス(人)「ロゴス(論)ト云フ語即チ「人ノ論」ヲ「語ヨリ出テタルモノナリ。

(1) 「アンソロポロジ」ナル名稱カ歐洲ニテ濫用セラル、ヲ以テ英和字書ニハ人身窮理、人体論、人性論、人百体論等トアル。コレハ歐洲ニテ「アンソロポロジ」ノ名稱ヲ濫用スルニ基ツクソコテ人類學テ「名稱ハ如何ナル意味ニ用キ來レルカト云フニ或人ハ人性研究ト云フニ用キ或人ハ之レヲ人体解剖書ニ負ハセ或人ハ心理學ト解剖學ノ二ツヲマツタルモノニ負ハセ「カント」ハ心理學ヲ指シテ然カ云ヘリ又或人ハ解剖、生

(2)

理衛生心理ノ四科ヲ總括シタルモノヲ云ヒ最モ奇ナルハ希臘ノ古器ノ上ニアル人物書ヲ研究スルコトニ用キ又聖書ノ人類學ト云フ書ニハ天使人類惡魔ノコトヲ記セリ又或ル書ニハ解剖生理衛生戀愛ヲ論シテ此名ヲ負ハセタリ。斯クノ如ク時代ニヨリ人ニヨリテ此名稱ヲ用キナガラ其實ハ甚シキ相違アレハ學者須ク注意シテ感ハサル、ナカレ之レヨリ余カ説述セントスル人類學ハ勿論人類ノ理學ニシテ以上擧ケタルカ如キモノニアラスト知ルヘシ

人類學ノ部門

人類學ハ人類ト云フ團體ニ關スル諸事ヲ研究スルモノテアルサテ唯諸事テハ漠然トシテマトマリガ附カサルヲ以テ之レカ區分ヲ置クノ必要ガアル又之ヲ研究スルニ於テモ研究ノ結果ヲ報導スルニ於テモ亦部類ヲ附スルノ必要アリ。

然シナガラ部類ヲ設クルニ二ツノ區別アリ

例ヘハ國民ノ安寧幸福ヲ計ル爲メニ便宜上政府ヲ分ツキハ一國ノ内ニ諸省ノ分チアリ。

擊劍柔術乘馬等ノ如キ各獨立シタモノヲ其目的ヲトリテコレヲマトメテ武藝ト云

フ名稱ヲ以テ呼フコトガアル。

人類學ハ其目的ヲ達スル爲メニ便宜上幾ツカノ部門ニ分ツコトガ出來ル。

如何ナル研究モ其疑問ヲ解釋スル爲メニ起ルモノナリ而シテ人類ニツキテ研究スル大問題ハツマリ左ノ三ツトナルヘシ。

第一、何

(What?)

人類ハ何デアルカ。

第二、如何

(How?)

世界ニ人類ハ如何ニ廣マリテ居ルカ其ノ人類ノ容貌骨格風俗習慣ハ如何デアルカ。

第三、如何ニシテ (Why?)

如何ニ人問ハ此ノ如キ有様ニテ生活シ居ルカ

ソコデ人類學ヲ部門ニ分テバ三ツトナル。

人類トハ何ソヤ

人類學

(一) 人類本質論

世界中ノ人類ハ現在如何ナル有様ニシテ如何ニ分布シ居ルカ

(二) 人類現狀論

人間ハドウシテ此世ノ中ニ出テ如何ニシテ人種ニ分レシカ

(三) 人類由來論

(3)

人類學ノ目的  
人類學ノ範圍

(4)

人類學ノ目的ヲ知レハ範圍ニツキテ別ニ説クノ必要ナキガ如シト雖モ世人此學問ノ性質如何ヲ詳ニセサルガ故ニ種々ノ誤認ヲ來スコトアリ念ノ爲メ一應辨シテ置ク必要ガアル。

或ハ人類學ハ古物ヲ調フル學ナリト考フル者アリ或ハ吾人ノ祖先ハ猿ヨリ進化シタルモノテアルトノ説ヲ主張スルモノト思フモアリ又尊敬スヘキ神像ノ事迄彼レ此レ云ヒハセズヤトテ取り越シ苦勞ヲナス人アリ此等ハ皆人類學ヲ誤解シタルモノニ外ナラズ成程目的ヲ達スル限リニ於テハ古物ヲ研究スルモ固ヨリ必用ナレモ此ハ只人類學研究ノ一部ノ仕事ニ過ギス人類學ハ斯ル狹少ノモノニアラス人ト猿トノ關係ヲ研究スルヲモ亦必用ノ事ナレモ人間ハ猿ヨリ進化シタリナド、豫定シテ研究スルニモアラス又神ハ人類以外ノモノナレハソハ人類學ノ研究スル限ニアラス。

斯クノ如キハ獨リ吾邦ニノミ行ハル、ニアラズシテ歐洲諸國ニモ之レニ似タル誤解ヲナスモノ少ナカラス佛國ノ如キ人類學者ハ地中ヨリ骨格ヲ掘出シ之レヲ研究スルヲ多キガ故ニ人類學ハ骨ヲ研究スル學問ナリト考フルモノアリ英國杯ニテハ布教ノタメ探檢ノタメ野蠻地ヲ旅行シ種々ノ物品ヲ持來ルモノアルヨリ人類學ハ

野蠻人ヲ研究スルモノナリト考フルモノアリ誤解ハ他國ニモアルコト乍ラ何卒斯カルコトハ避ケ度キモノナリ

#### 人類學的材料

或ル所ニテ曲玉ヲ掘リ出シタトテ之レハ人類學的材料ナリ杯ト云フ人アリ之レハ何ニ用ヒルカト聞カナイ内ハ直チニ人類學的材料トナスヲ能ハス如何ナル品物ヲ取リテモ直チニ之レヲ以テ人類學的材料ト云フヲ能ハス其用ヒ方ニヨリテ材料トナスヲモ得ルモノデアルカラ其目的ヲ問フテ慥メテバ人類學的材料トハキメラレヌナリ例ヘバ此ニ材木アランニ此ハ何ノ材料トモ豫メ定マリタルニアラズ橋ヲ造ルモノハ橋ノ材料トシ家ヲ造ルモノハ家ノ材料トスルト同シコトデアル。

(5)

第三講

本論

第一篇 人類本質論

第一章

本質論ニ於テハ吾々人類ハ何テアルカヲ研究スルナリ。最初ニ人ト云フ名稱ハ何ニ冠ラスルモノナルヤヲ明カニスル必要ガアル。

一寸云フテ見レハ何山ハドノ位ノ高サアルカト問ハンニ先ツ其山ハドノ山テアルカト云フコトヲ知ラサレハ其高サヲ云フ能ハサルガ如クテアル。コレガ分カツタラハ萬物中ニ於ケル人類ノ位置ヲ明ニシ後ニ世界中ノ人類ハ一種ト見做スヘキモノカ數種ト見做スベキカヲ研究セントス  
何ヲカ人ト云フ

人類トハ人ノタグイ即チ世界ニ住スル人ノ全体ノ總稱テアル。然シ人ト云フ言葉ハドウシテ出來タカト云フニ日本ノ言葉ニテ「ひと」ト云ヒ始メシキハ世界中ノ人間ト云フコトヲ知リテ云ツタノデハナイ。後ニ交通開ケ支那文學ノ入込ニ從ヒテ支那人

ノ云フトコロノ人ト云フヲカ日本ノ「ひと」ト云フ言葉ニ似寄テ居ルト云フトコロカヲ吾々ノ所謂「ひと」ト支那ノ所謂人ト同様ニ使フヨウニナツタノデアアル。  
日本ニテ從來用ヒ來レル「ひと」ノ語ニ異様ノ意義アリテ凡ソ十種アリ。

第一、我々同類全体

第二、世人

第三、他人

第四、或る者

第五、或格段なる者

例 謠曲安宅ノ關ノ條ニおの剛力ちど人に似ゑる云々此處ハ格段ナル人ニ似タルト云フ意

第六、行正しき者

例 人よして人おあらず。人多き人の中おも人ぞあき人おあれ人よな人

第七、大人

例 人どきり云々

第八、夫

(8)

例人のおはしはさぬ云々此處ニテハ夫ヲ云フナリ。

第九 臣下。

第十 召し使ひ。

人類ハ「ひと」ナリト云フモ斯ノ如ク種々ノ意味アル故ニ其中ノ何レニカ明カニシ置カサルベカラス而シテ其中吾々同類全体ヲ意味スルト云フモノ最モ廣義ナリ而シテ今茲ニ用フルモノハ無論コノ廣義ヲトリテ「ひと」ヲ云フナリ。

茲ニ考フヘキハ智識ノ多少ニヨリテ吾々同類全体ト云フニモ廣狹ノ別アリ即チ初ノ「ひと」ト云ヒシ最モ廣義ノモノハ其始メ日本ノ同類全体即チ日本人ト云フナリ而シテ諸外國ト交通スルニ隨テ「ひと」ト云ヘハ吾モ彼モ均シク「ひと」ニシテ我々同類ト云フ範圍ガ隨テ廣クナルナリ。

支那ニテ用フル人ト云フ字ハ日本ノ「ひと」ト云フコトニアテハマレルヲ以テ同一ニ用フレモコノ人ト云フ内ニモ種々ノ意味アリ。

第一 我々同類全体

人誰無過

此ノ人ハ同類全体ヲサス

第二 支那人

天有十日 人有十等

人ハ人類ニアラスシテ支那人ヲサス

第三 賢者

取國有五難有寵無人一也 人ハ人類ニアラス賢者ナリ

第四 他人

脩己而不責人

第五 或者

人間其故

初メ「ひと」ハ日本人次クニ用ヒシモノガ支那ノ文字ノ入ルニ從テ支那ノ人ト云フ意義ト一致スル様ニナリテ一層廣クナリ又西洋文學ノ入ルニ從テ英ノ「マン」獨ノ「メン」佛ノ「オーム」等皆人ト譯シ從來ノ人ニ比シ大ニ廣キ意味トナレリ而シ外國語ハ「ラテ」語ノ「ホモ」(Homo)ヲ以テ代表セシムレハ此ノ「ホモ」ト日本語ノ「ひと」ト支那人ト一致スル様ニナツタ即チ地理學的智識ノ進ムニ隨テソノ範圍益擴大セリ故ニ今日ニテハ「ひと」ハ世界ニ住スル全体ノモノヲ意味スルモノトナレリ

(9)

分類ノ常トシテ範圍ノ廣クナルニ從テ通有ノ特性ハ割合ニ少ナクナルモノデアアル「ひと」ト云フ言葉ガ日本人ノミヲ指シテ居ル場合ニハ髮ノ毛ハ黒シト云フモ通有性

ナルヘシ若シ古代ニ於テ「ヒト」ト云フモノ、説明ヲ書キシナラハ髮ノ毛ハ黒シト云フコトモアリシナラン。漸々範圍ガ廣クナルニ從テ人ト云フモノヲ世界全体ノ同類ト云フ意ニ用フル様ニナレハ毛髮ノ黒イト云フコトハ通有性デハナクナツテシマウ依テ世界中ノ同類ニ通スル性質ハ比較的少クナツケデアル。

今吾々同類ノ通有ノ特性ハ何テアルカト云フニ概テ左ノ如クテアル。人トハ進行ニ際シ直立歩行スルモノデ其ノ身体ハ明瞭ニ區劃サレタル頭ト胴ト四肢トヨリ成リ耳目鼻口ノ存スル部分ハ頭ノ他ノ部分ヨリモ小サク四肢各五本ノ指ヲ有シ足ノ第一趾ト第二趾ト其長サ殆ント相等シキモノナリ。

右ノ性質ヲ有スレハ吾々ハ之レヲ指シテ人ト云フノテアル皮膚ノ色ガ白カロウガ黒カロウガ毛髮ガドウテアロウガ言語ハ異ナルモ如何ナル山中ニ住フガ如何ナル島ニ居ウトモ又衣服ヲ着ケテ居ウガ居ルマイカ今云ヒシ体格上ノ性質ヲ有スレハ吾々ハ人類學上人トナスノデアアル。

隨分道徳家、法律家ハ野蠻人ト云ヘハ人ニ非スナド云ヘト人類學ニテハ左ニアラズ全ク法律家ヤ道徳家ノ稱スル所ノ人ト異ナルコトガアル故ニ人類學ニテ云フ處ノ人トハ制限ナキ廣キ意味ノ人ナルコトヲ豫メ知ラサルベカラス。

### 第二章 萬物中ニ於ケル人類ノ位置

前章ニ於テ既ニ人トハ何ソヤトノ意ヲ解説シタレハ次ニ萬物中ニ於ケル人類ノ位置トハ如何ナルモノデアアルカト云フコトガデキル。

例ヘハ「コツプ」ハ何テアルト云テモ「コツプ」ト云フモノヲ知ラサレバ何トモ返事カ出來スト同シコトダ。支那人ハ古ヘヨリ人ハ萬物ノ靈ト云フヨウナコトヲ云ツテ居ルガ、コレハ萬物中ニ於ケル位置ヲ示シタモノデナク唯人ノ靈妙ナルコトヲ褒メタルノミダ此ノ如ク人ヲ褒メタル言ハ多イ又人者裸虫之長ト(虫ハ支那ニテハ動物ヲ指ス)云ツテ居ル之レハ萬物中ニ於ケル人ノ位置ヲ幾分カ現ハシテ居ルコト外ハ一モ位置ヲ現ハシタト思フモノハナイ然シ此レモ古ノ支那人ガ云フタ人ヲ今日ノ云フ處ノ廣キ意味ノ人ニハ當嵌マラナイ。

人ハ悉ク裸虫テアルトハ云ヘヌ毛ノ多イ實例ハイクツモアル例ヘハ我日本テモ「アイヌ」ノ如キハ深山ニ休毛ヲ生シ或ハ髮ノ毛ト背中ノ毛ト續キテ生スルモノアリ又印度ノ「トダ」種族南洋ノ「タスマニヤ」種族杯ハ毛ノ多キモノデアアル故ニ古ノ支那人ガ裸虫ノ長ト云ヒシハ此等ノ毛深キ種族ノ人類ガアルト云フ智識ヲ有セザリシ時ノ言葉デナカク吾々今日ノ智識トシテハ用フルコトカデキヌ。日本ニハ人ハ何ヤ



ト云フ様ナ語ハ更ニ見當ラヌ。

西洋ハ如何ト云フニ西洋ニテハ古ヨリ人ハ何々ト云ヒタルコトガ種々アル左ニ

- 一、人ハ道具ヲ使フ動物ナリ。
- 二、人ハ道具ヲ造ル動物ナリ。
- 三、人ハ食物ヲ調理スル動物ナリ。
- 四、人ハマチヲスル動物ナリ。
- 五、人ハ數ヘ踊リ歌フ唯一ノ動物ナリ。
- 六、人ハ火ヲ使用スル唯一ノ動物ナリ。

兎ニ角古ヨリ人ハ動物テアルト云フコトダケハ哲學者動物學者等ノ學者カ云ヒ居リシガサテ前ニ言ツテアルコトガ一々當リテ居ルカ否ヤ之レヨリ吟味セシニ。

第一、人ハ道具ヲ使フ動物ナリト云フハ如何、猿ニ道具ヲ渡セハ之ヲ使ヒ象ハ鼻ニテ木ノ小枝ヲ折リソレヲ鼻ニツカミテ蟲ヲオヒ、狸々ハ食物ヲ得ントシテ蟲ヲサガス爲ニテコトヲ以テ石ヲ動かス故ニ道具ヲ用フルト云フコトヲ以テ人ノ位置ヲ定ムルコト能ハズ。

第二、人ハ道具ヲ作ル動物ナリト云フハ如何、野蠻未開人ノ道具ハ吾々ノ今日用フ

ル道具ヨリ簡單ニシテ石ヲ割リテ及物ヲ作り木ヲ折リテ棍棒ヲ作ル、當松本近傍ニテ發見スル太古ノ石器ノ如キハ余程進歩シタルモノナルガ或ル野蠻未開人ノ如キハ唯石ヲ破リタル儘ノモノヲ使用シ又木ノ枝ヲ棍棒トス野蠻未開人ノ用フル道具ト彼ノ狸々ヤ象杯ノ用フルモノトハ甚近キニアラズヤコレヲ以テ人ノ位置ヲ定ムルコトハデキヌ。

第三、人ハ食物ヲ調理スル動物ナリト云フハ如何、此ノ調理スルト云フコトハ主トシテ火食ノコトナレバ終リノ火ヲ使用スル動物ノキニ合セテ批評スヘシ。

第四、人ハマチヲスル動物ナリト云フハ如何、猿ハ尤モマチヲスルモノナレハ之レヲ以テ直ニ人ノ位置ヲ定ムルコトモデキヌ。

第五、人ハ數ヘ歌ヒ踊ル、唯一ノ動物ナリト云フハ如何、物ヲ數フルコトハ人ノミニアラス他ノ動物モ數フルコトヲ得、即チ倫敦ノ動物園ノ「チンパンジー」ハ一ヨリ五迄ノ數ヲ知テ居タコレハ唯物品ノミニ數デナク抽象的ニ知ツテ居ル故ニ之レニ對シテ一、二、三ノ數ヲ云ヘハ其場所ニアル品物ヲ其數ダケ出セリ之レ或ハ教タカラダト云ハシカ、ナレハ人間トテモ教ヘナケレハ知ラヌ、又鳥類ニモ數ヲ知テ居ルモノガアル、又踊ルト云フコトハ或ル調子ヲ取テ愉快ゲニ身体ヲ動かスト云フコトナラバ鳥モ踊

ル或ル蛇使ヒノ蛇モ調子ニ從ヒテ体ヲ彼方此方ニ動かス。

歌フノモ其通りテ鳥ナド至テ美音ヲ弄シテ歌フモシ又躍ルト云フコトカ手足ヲ動スコトダト云ヘハ手足ナキモノハ躍レヌガ當然テアル又歌フト云フコトガ或ル意味アルコトヲ歌フト云フコトナレバソレハ人ニ通スル如キ意味ヲ唱ヘヌノテ彼レハ彼レ相應ノ意味ニテ歌フカモシレヌ故ニ數ヘ躍リ歌フト云フヲ以テ人ノ唯一ノコト、シテ人類ノ位置ヲ定ムルコトハデキヌ。

第六、人ハ火ヲ用フル動物ナリト云フハ如何之レハ人ノミニ限ルモノニシテ又如何ナル野蠻國ニ至リテモ皆ナ火ヲ用フルナリ然ラハ他ノ動物ハナゼ火ヲ用ヒサルカト云フコトヲ考フルヲ要ス人ガ火ヲ用フト云フハ手カ自由ニ動クカラテアル之ヲ以テ火ヲ用フルハ人ナリト云ヘハ人ハ自轉車ニ乗ル動物ナリト云フモ差支ナク又煙草ヲ吸フ動物ト云フモ差支ナク又文字ヲ書ク動物ナリト云ツテ差支ナキ譯テアル火ト限ルニ及ハズ要スルニ手カ自由ニ動クト云フ丈ナリ。

由是觀之一ヨリ六道ノ考ニテハ人ハ智識ガ高ク手カ自由ニ動クト云フ内ニ皆合マスルコトヲ得ルナリ斯クノ如ク支那ニテ裸虫ノ長ト云ヒ歐州ニテモ何々ノ動物ト云ヒテ居ルカラ人ハ動物テアルト定テヨキカト云フニ仲々ソウハイカヌ學者間ニ

種々ノ説カアル「ブツフォン」氏ハ人ハ體格ノ上ニ於テハ動物ナレモ智識ヲ有スル点ニ於テ動物以上即チ半ハ動物半ハ以上ト唱ヘタリ近頃佛國ノ有名ナル人類學者「カアトルフアージ」氏ハ人ハ動物ニ非ス恰モ礦物界植物界動物界アルカ如ク其上ニ人類界ト云フモノヲ別ニセザルヘカラスト云ヘリ宗教家ヤ道德家カ人間ノ位置ヲ高クシタキ爲ニ動物以上ノモノトスルバカリテナク人間ヲ研究スル學者間ニモ人間ハ動物デナイト云フ説ヲ立テタルモノアレハ深ク考ヘテ人類ノ位置ニ關スル説ノ根據ヲ定メ置カサルベカラヌ。

極正シク人ハ何物テアルカト云フコトヲ研究スルニツキテハ人類其者ヲ調フル必要ナケレドモ又一方ニ於テハ他ノ萬物ヲ觀察スルモ必要ナリ。

萬物ハ個々獨立シテ緣故ナキモノニアラス幾ラカツ、互ニ類似ノ点アリテ團體ヲ形作ルコトヲ得ヘシ古ヨリノ學者ノ異論ノナキコトヲ言ヘハ萬物ハ大キク云フテミレバニツノ團體ニ分ツ。

一、養分ヲ外界ヨリ取リテ次第ニ生長シ其物ハ何レモ部分ノニ多少ノ特別ノ働ヲ備フ斯クノ如キモノ之ヲ有機物ト云フ。

二、外界ノ力ヲカリナケレバ形ヲ變ゼサルモノニシテ部分ニ從ツテ働ヲ異ニス

ルヲナキモノ斯ノ如キモノ之ヲ無機物ト云フ。

無機物ハ金石ノ類及ヒ之レニ準スルモノ。

有機物ハ生活力ト知覺ト運動トヲ備フルモノヲ動物ト云ヒ生活力ハアレハ知覺

運動力トノ欠ケタルモノ之レヲ植物トス尤モ下等ノ動植物中ニハ判然區別スヘカ

ラザルモノアリ。

サテ人類以外ノ萬物ハコレヲ大別スレハ

有機物 動物  
植物

無機物……礦物

然ラハ人間ハドウテアル此ノ三種中ノ何レニ似タルカト云フニ部分ノニヨリテ  
働ヲ異ニシ外界ヨリ取リタル養分ヲ消化シ種々ノ機關ヲ備ヘ種々ノ運動ヲナスヲ  
以テ礦物植物トハ全ク異ニシテ動物ニ近キモノナリ然ラハ人類ハ動物中ニ入ルヘ  
キモノカ或ハ動物ニ近キニ過ギサルモノカ。

鳥獸魚ノ如ク肉眼ニテ見ユルモノヨリ顯微鏡的ノモノニ至ルマテ皆何レモ自己ニ  
似タルモノヨリ生シ又自己ニ似タルモノヲ生ス最モ下等ナル動物ニアリテハ雌雄

ノ關係ナクシテ同類相生スレハ高等動物ニ於テハ雌雄ノ關係ニヨリテ始メテ子ヲ  
生スルノデアアル此ノ高等動物ニアツテハ母体ノ内ニアル生殖細胞ガ受精作用ノ爲  
分裂シテ二ツニ分レ其レカ四ツニナリ次第ニ分レテ無數ノ細胞トナリ一部分ガク  
ボミテ丁度ゴム球ヲ押シ凹メタル如ク一方ノクボンダ部分カ一方ノ内側ニツキテ  
二層ヲ生シ此二層ガ出來タ間ニ又三番目ノ層カデキテ三層トナリ此ノ三層ガ成立  
セシ上種々ノ變化ヲナシ最上部ノ層ヨリ表面ノ皮及ビ神経系統及鼻目耳口ノ主要  
部ヲ生シ最下層ヨリハ消化器肺臟肝臟等ノ内部ヲ生シ中間ノ層ヨリハ筋肉骨格及  
ヒ血管等ヲ生スルコト恰モ「シン」細工ノ如ク少シクノ變化ヲナシテ遂ニ一ノ動  
物トナルサテ人間ハ如何テアルト云フニ實驗的ニ体内ヲ解剖シテ知ルコト能ハサ  
レハ妊娠後死シタル妊婦ヲ解剖シテ調査スレハ人モ亦細胞層ヨリ發達スルモノナ  
ルヲ知ルガ出來ル即チ細胞ガ分裂シテ三層ヲナシ其レガ次第ニ變化シテ体ヲ  
ナス有様ハ高等動物ト人類ト少シモ異ナルヲナク又下等動物ニモ等シキ處アルヲ  
ミル。

胎兒ノキノ或ル場合ハ魚ノ鰓ノ如キモノ、附着セル時期アリ或ハ鳥ノ翼ノ未ダ十  
分ニ發育セザルモノニ似タルモノ、附着セル時期アリ或ハ獸ノ如キ尾ノ附着セル

時期モテリ、

尾ハ脱落スルニアラス他ノ部分ガ次第ニ發育シテ尾ハ發育セズニ止マリテ体内ニ  
 隠ル、ナリ、受胎後六ヶ月頃ノモノヲ見レハ全身ニ毛カハヘテ居ルガ生レル頃ニ至  
 テダシク毛カトレテ人間ノ特徴ヲ現ハス者テアルヨツテ生レル少シ前ノ胎兒ヲ  
 取テ羊ヤ兔ヤノ胎兒ト比較ノ見テモ異ナル点ハ少ナクテ見分ケ難キモノテアル、  
 凡テノ点ガ一致シテ居ルデハナイガ人ト犬ヤ猫トノ發達ノ差ハ犬ヤ猫ト鳥トノ發  
 達ニ於ケル如キ甚イ差異テナク又鳥ト昆虫トニ於ケル發達ノ如キ差異デナク、固ヨ  
 リ昆虫ト犬猫トノ發達ニ於ケル程ノ違イハナイ、犬猫モ鳥類モ昆虫モ引キ括ツテ動  
 物ト云フナラハ人ト獸トノ發育ノ差ハ僅カ故人類ヲ以テ動物以外ニ置クト云フコ  
 トハ出來ヌ、  
 次ニ解剖上ヨリ吟味モシニ成長シタルモノニツキテ体格ノ組立即チ人類ハ一番何  
 ニヨク似テ居ルカト云フニ人間ハ金石ノマテモテキヌ又草木ノマテモテキナイケ  
 レドモ動物特ニ脊椎動物ノマテナラハ比較的ニナシ易シ而シテ其内ニテ最モヨク  
 マテノマテキルハ猿ナリ故ニ猿ト人トヨク似テ居ルト云フハ異論ナキト思フ、此  
 ノ猿ノ類ニ又甚ク人ニ似タノガアリテ之ヲ類人猿ト云フ、

猩々 (ララングウータン) (亞細亞ノ南島ニ棲ム)

ギツボン (右ニ同シ)

ゴリラ (亞弗利加ノ中央部ニ住ム)

チンパンジイ (右ニ同シ)

皆大サ人位ニシテ尾ヲ有セス日本ノ猿ヨリハ余程人ニ類ス但シ人ノ体ノ毛ハコノ  
 猿類程著明テナク、人ノ犬齒ハ類人猿ノ如ク大キクナイ又人ノ上肢(手)ハ下肢ヨリ短  
 カイガ類人猿デハ其反對テアル、

人ト類人猿トノ間ニハ固ヨリ相違ハ認ムルケレモ猿ト鳥ト蝶トノ相違ノ如キ著  
 クハナイ、

表面ヨリ見タルトコロニテモ斯ノ如シ更ニ毛ヲ去リ皮ヲハギ、筋肉ヲ比較スレハ類  
 似ノ点多クシテ其區別ハ益々困難ナリ又内臓ニ就テ見レハ其類似ハ一層甚シク進  
 シンデ骨ヲ比レバ益々一致ヲ見ル是ヲ以テ見レハ猿ヤ鳥ヤ蝶ノ如キモノヲクルメ  
 テ動物ト云フナラハ、カクマデ解剖上猿類ト近キ體格ヲ有スル人類ヲ動物以外ニ置  
 クコトハデキナイ、

心理ノ働キニ就テハ何如コレハナカク議論ガアル或ル人ハ感情ハ特ニ人間ニ限

ルト云フ然レハ鳥獸ノ其子ヲ愛シ同類羣ヲナシ或ハ樂ミ或ハ争ヒ牛馬犬猫等ノ飼主ニ親ミ已ヲ愛スルモノニ馴ル、等ノコトヲ見レハ明ニ感情ヲ備ヘテ居ルト云ハナケレハ成ラヌ故ニ感情ノ有無ヲ以テ人類ト動物トヲ區別スルコトハデキヌ、又或ル人ハ推理力ヲ以テ人類ニ限ル如ク云フテ人類ト動物トヲ區別スルモノアレハ之レハ寧ロ人類ヲ貴クスルニアラズシテ一般動物ヲ卑ク見タルナリ否動物ノ心理ヲ研究セサルモノナリ見ヨ犬ガ山ニテ渴シ水ヲ求ムルキニハ山ノ高キ峯ニ登ルヲナク必ス谷間ニ下リユクヲコレ谷間ニハ水カアル下レハ水ヲ求ムルヲ得ト云フコトニ就テ推理力ヲ有スルモノナリ、

又象ガ已ノ体ヨリ離レタル物ヲ己ノ体ニ近ツケントスルキハ鼻ヲ内ニマゲテイキヲ吹キ又体ヨリ遠方ニ物ヲ送ラントスルニハ鼻ヲ外ニ向ケテ息ヲ吹クコレ又幾分カ推理力アルヲ知ルヘシ、尤モ面白キ試験ハ亞米利加ノ猿ニヨリテナサレタリソレハ或人ガ袋ニ砂糖ヲ入レテ猿ニ與ヘシニ彼ハ袋ヲ開キテ砂糖ヲナメタリ次ニ蜂ヲ入レタル袋ヲ與ヘシニ之ヲ開キ蜂カブン／＼ト舞ヒ出ツルヲ見テ驚ケリ其後又袋ヲ與ヘシニ猿ハ直ニ其袋ヲ取テ耳ニアテ袋ノ中ニアルモノカ蜂ナルヤ否ヤヲ試ミタリトコレ亦推理ヲ以テ

人類ノミノ特有トスル能ハザルコトヲ告ク、

又自覺心即チ已レノ存在ヲ知ルハ人ニ限ルト云フモノアリ然レハ犬ダトカ猫ダトカ云フ動物ニ名ヲ附ケテ呼ヘハ自分ノ名前ヲ忘レス覺エテ居ル故ニ人間丈ケガ自分ト云フヲ知ルニアラス唯強弱ノ度アルノミ全ク缺乏セリトハ斷言デキヌ又言語ヲ以テ意志ヲ通スルハ人ノミナリト云フモノアリ全体言語ハ何テアルカ廣ク解釋スレハ彼我ノ意ヲ通スル手段ニ過ギナイセマク解釋スレハ口ヨリ發スル聲ニヨリテ彼我ノ意ヲ通スルコトナリ蟻ノ如キモノモ兩者相逢ヒテ觸角ヲ接シテ相互ニ何事ヲカ告ケ合フハ人々ノ屢見ル所ナリ又犬ノ喜フ聲ト盜賊ノ來リシハ杯ニ吹エル聲トハチガウ又雞ノ驚キタルキノ聲喜ハシキキノ聲モチガウ是等皆或意ヲ通スルノデアアル故ニ廣挾兩方ノ意カラ云フモ言語ハ人ニ限ルトハ云ヘヌ犬ヤ鳥カ聲ヲ出スノト蛤ヤ蜆カ聲ヲ發セズニ居ルノトハ甚イ懸隔テアルガ總稱シテ動物ト云フ、然ラハ人ト鳥獸ノ違ヒ位ハ鎖細ナモノト云ハチハナラス、扱「カートルフアーシ」氏ハ何故ニ人類界ト云フモノヲ別ニ動物界ノ上ニ置クカト云フニ人ハ宗教ヲ有スルコトノ宗教カ人ノ特徴デアルト云フノテアル動物ハ或ル点ニ於テハ植物ト同ジテアルケレハ感覺ト運動ノ力ヲ有スルヲ以テ動物ト區別スル如ク人類ト動物トハ同シ点

カアルケレニ宗教ヲ有スルニヨリテ區別スト、然ラハ宗教トハ何ソヤ他ハ姑ク之ヲ置キ「カール・フアール」ノ云フ宗教ハ何如ク人ハ已レノ運命ヲ支配スル優者ノ存在ヲ信ジ且靈魂ノ不滅ヲ信スル此二ツノ現象ハ互ニ密接ノ關係ヲ有ス故ニ同一ノ能力ニ歸スルモノト見做シテヨロシイ而シテ其働キノモト、ナル一ツノ能力ガアル其能力カ即宗教心テアル而シテ宗教ノ念ヲ生スル心ヲ人心ト名ク此ノ人心ナルモノカ人類ト動物トノ別ヲ立タルモノニシテ恰モ知覺運動ガ動物ト植物トノ別ヲ立テ生活力カ植物ト礦物トノ別ヲ立ツルト同ジキナリト。

之レガ「カール・フアール」ノ論據テアル之レヲ判斷スルニ二方面カアル即チ

一、世界中ノ人類ノ凡テカ宗教ヲ有スルカ即チ宗教ハ人類普通テアルカ。

一、人類以外ノ動物ニハ果シテ宗教ト云フヘキモノカナキカ。

宗教ハ果シテ人類ニ通シテアルモノカ或ハ動物ニハ果シテナキモノカ此ノ二点ヲ調ヘザルヘカラス。

此ノ宗教ト云フモノカ人類ニ普通ナルヤ否ヲ考フルニ「カール・フアール」ノ云フ様ナ宗教ハ決シテ世界中ノ人類ニ普通テナイ野蠻未開人中ニハ彼ノ云フ如キ高尚ノ宗教ナトハ思ヒ寄ラヌコトデアアル開化ノ度ヒクキタメ智識ノ度ヒクキタメ野蠻ノ境

遇ニアル爲メ已ノ運命ヲ支配スル優者ノ存在ダノ靈魂ノ不滅ダノト云フ考ヲ有スル等カナイ。

管ニ未開野蠻人ノミナラス智識ノ甚ダ高クシテ別ニ安心立命ノ道ガアツテ「カール・フアール」ノ云フ如キ優者ノ存在ダノ靈魂ノ不滅ナド考ヘナイモノモアルヘシ故ニ宗教ハ人類普通トハ云ハレヌ、又人ハ人心ヲ有スル故ニ動物ニアラスト云フガ如キハ不條理ノ話シテアル人心ヲモツテ居ルカラト云ヘハ犬心ヲモツテ居レハ犬猫心ヲモツテ居レハ猫馬心ヲモツテ居レハ馬牛心ヲモツテ居レハ牛テ、コノ犬ヤ猫ヤ馬ヤ牛ハ動物ニアラスト云ハテハナラヌ、牛馬犬猫ガ動物ナラ人モ動物テアル、又動物ニハ宗教無シト云ヘトモ果シテ一般動物ガ之ヲ有スルカ有セサルカハ吾々之ヲ知ルカ困難テアル輕々ニ斷言ハデキス。

高等ノ動物ハ宗教ノ基ヲ作ル所ノモトハ具ヘテ居ルト思フソレハ人類ノ或ルモノカ仮設ノ天或ハ神ニ事フルト同シク犬猫ヤ牛馬カ主人ニ對シテ馴レ親ミテ事ヘ敬意ヲ表シ命令ニ服従スルハ宗教ノ萌シトモ見ルヘキモノテアル。

宗教ハ想像力、好奇心、推理力、驚怖心ノ混合ヨリ出來タモノテアルガ高等動物ハ多少皆之レヲ有シテ居ル。

好奇推理、恐怖ノコトハ云フニ及ハズ想像力モ高等動物ニ備ハツテ居ル猫カ或ル穴ニテ鼠ヲ取レハ後ニ又其穴ノ口ニ至リテ鼠ノ出ツルヲ待ツ即チ幾分ノ想像力ヲ有シテ居ルコトカ分ル。

宗教ハ特別ノモノニアラスシテ心理作用ノ或ル一定ノ配合ニヨツテデキル然レハ宗教ヲ以テ人類ト動物ト區別スルコトハテキヌ。

假リニ一步ヲ譲リテ宗教カ人間ニ普通デ又特有テアルトスルモ唯此一点テ人類ト動物トヲ區別スルコトハテキヌ即チ發育ノ点解剖ノ点ニ於テ又他ノ心理上ノ点ニ於テ根本的相違ガ認めラレナイノニ唯一ツノ心理作用ヲ基トシテ人類丈ヲ動物界ト云フ大團體カラ取り退ケルノハ不條理ト云ハナケレハナラヌ人類ハ管ニ動物ニ似テ居ルバカリテナク動物テアルト云フテ不可ハナイ又人類ヲ動物ノ中トスレハ人類ノ品位ヲ落ステナイカト云フ疑問ガ起ルカモ知レヌ併シコレハ考ヘ方思ヒヨウニヨルノテ虚心平氣テ考ヘレハ何ニモ品格ヲ落スワケテナイ人ハ生レナガラニシテ貴キモノテアル萬物ノ靈テ萬物ヲ支配スヘキモノテアルト云フ様ニ安心シテ自ラ許セハ反ツテ萬事怠リヲ生スル恐レカアルソレヨリハ人ハ生レテ動物ト等シキモノテアルガ經驗ヲ重テテ智識力進歩シテ居ル爲メ他ノ動物ヲ乘リ越ヘテ特別

ノ勢力ヲ有シ他動物ヲ支配シテ貴クナツタノテアルト考ヘレハ道德ヲ重シク教育ヲ重シク社會ノ進歩ヲ促シ益々高等ノ地位ニ至ル希望カ生シテ來ル人ハ各々一人ノ經驗ヲナク多數ノ人ノ經驗ヲマツメテ僅少ノ時間ニ之レヲ知ルコトガ出來ル生レナカラニシテ置ケハ犬猫ト同シキモノナレハ教育ノ結果高イ智識ヲ有スル爲メ斯ク高尚ノモノトナレルモノナレハ此後モ心掛ケ次第ニテ尙々進歩スヘシ故ニ人ヲ動物ナリト云フハ品格ヲ落サヌノミナラス寧ロ品格ヲ高カメルワケテアル。

### 第三章 動物界ニ於ケル人類ノ位置

元來動物ノ種類ハ夥シキモノテ其構造發育ノ二点ノ似テオオルカ居ナイカニ依テ十一ノ部門ニ分ツコトカ出來ルガ十ヨリ八迄ヲ省キテ人類ニ一番接近シタル第十一番目ノ脊椎動物ニ就キテ述ヘテ見ヨウ之レハドウ云フモノナルカト云フニ暫ラク人類ト云フコトヲ外ニオキテ脊椎動物ト云フコトニツキテ言ヘハ先ツ腦ノ塊ガアツテ其續キカ紐ノヨウニ延ヒテ居ル之レヲ脊髓ト云フ腦ハ時トシテ軟骨若シクハ柔膜ヲ以テ蔽ハルレモ多クハ堅キ骨ヲ以テ蔽ハル之レヲ腦蓋或ハ頭蓋ト云フ脊髓ハ多數ノ骨ノ連續シテ柱ノ如キモノヨリナル之レヲ脊柱ト云フ。

斯ノ如ク骨ニテ取り卷キタル部ノ外ニ肺臟、心臟、胃、腸等ノ如キ柔キ部分ガアル。

即チ胴ハ二ツノ空洞ヨリナル一ハ堅キウツロノ部分ニシテ一ハヤワラカキ蓋ノ部  
分テアル。

脊椎動物ノ性質ハ以上ニ述ヘタ如クテアル魚モ鳥モ獸モ此部類ニ屬スル。

ソコテ人類ヲ動物界ノモノトスレハコノ第十一門ニ能ク似テ居ル而シテ第一門ヨ  
リ第十門迄ノ動物ニハ似テ居ラス。

人類ハ是等脊椎動物ノ特質ヲ有シ他ニ區別スヘキ肝要ナル性質ヲ有セス故ニ脊椎  
動物中ノモノト云ハキハナラヌ人類ハ固ヨリ魚ヤ鳥ヤ獸ト同一テハナイ併シ其違  
ヒハ決シテ是等ノ脊椎動物ト蝶ヤ蜻蛉トノ違ヒ又ハ蛤ヤ蛭トノ違ヒノ如ク甚シキ  
相違ハナイ故ニ人類ハ獸ヤ鳥トノ間ニハ門ノ相違ト見ナスヘキモノハナイ故ニ人  
類ハ脊椎動物ノ内ニ入ルヘキテアル。

今人類ノ他ノ脊骨アルモノヲ分ツテ左ノ五綱トナスヲ得。

- 第一綱 魚 類
- 第二綱 兩 棲 類
- 第三綱 爬 虫 類
- 第四綱 鳥 類

第五綱 哺 乳 類

サテ人類ハ此五綱ノ内一番ドレニ近キカト云ヘハ第一綱ヨリ四綱迄ハ皆遠クテ第  
五綱ノ哺乳動物ニ一番近ク他ハ縁カ遠イ然ラハ人類ハ哺乳類ニ似タルモノテアル  
カ又ハ哺乳類デアルカ。

先ツ哺乳類ハ如何ナルモノナルカト云フニ哺乳類普通ノ性質ヲ擧クレハ次ノ通り  
哺乳類ハ身体ニ多少ノ毛ヲ生シ雌雄共ニ乳腺ヲ具ヘ動脈弓カ左許リニ存在シ而シ  
テ胸ノ内部ト腹ノ内部トノ境ニハ膜アリ之レヲ横隔膜ト名ツケル。

人類ハドツテアルカト云フニ人類ハ前述ノ哺乳類ノ性質ヲ具有シテ居ル故ニ之レ  
丈ケノ性質ヲ有スルモノヲ哺乳動物トスレハ人類ハ哺乳動物ニ容ルヘキモノデア  
ル勿論人類ト犬猫ヤ猿狒トノ間ニハイクラカノ相違カアル併シ其相違ハ獸ト魚ト  
鳥ト兩棲類トノ間ニアル如キ大ナル相違テハナイ。

然レハ人類ハ動物界中ニテ第十一門脊椎動物ノ第五綱哺乳類ノ中ニ入ル、カ最モ  
相當ノコテアル別ニ第六綱ヲ置クニ及ハス。

此哺乳類ノ中ニ又分チカアル今茲ニ英國ノ動物學者「フラワア」氏ノ分類ヲ掲ケンニ  
氏ハ哺乳類ヲ分チテ大凡十一ノ部類トシテ居ル餘リ細カクナルカラ一々名ヲ擧ケ



又唯其中一例ノミ舉ケテオコソ。

- 第一目 (例) かもればい
- 第二目 (同) カンガルー
- 第三目 (同) なほけもの
- 第四目 (同) 海牛
- 第五目 (同) 鯨
- 第六目 (同) 馬
- 第七目 (同) 鼠、兔
- 第八目 (同) 犬、猫
- 第九目 (同) 土<sup>ロ</sup>龍<sup>ヲ</sup>
- 第十目 (同) 蝙蝠
- 第十一目 (同) 猿

人類ハ始ラク外ニオキテ哺乳類ヲ分テハ右ノ十一トナル人類ハ此内ドレニヨク似テオオルカト云フト一目ヨリ十目迄ノモノハ皆遠イブ否テモ應テモ人間ハ猿ニ似テ居ルト云フコハ争フベカラサル事實テアル。

第十一目ニハ靈長類ト云フ名ガツケテアル人類ハ猿ニヨク似テオオルガ共ニ靈長類ノ中ニ入ルヘキモノナルカ或ハ別ニ第十二目ヲ設ケテ之レニ人類ヲ入ルベキモノナルカ。

サテ靈長類ノ性質ハドウテアルカト云フニ後臼齒ト前臼齒トヲ較フルニ後臼齒ハ前臼齒ヨリ構造ガ複雑テ凡テ奥齒ハ物ヲスリツブスニ適當シ眼窠ハ凡テ骨ヲ以テ取リマカレテ居リ腕骨ハ橈骨尺骨ノ二ツニ成ツテ居テ附着セスニ各々獨立シテ四肢ニハ通例五本ノ指ガアルソレカラ小腸ト大腸トノ境ニハ盲腸ト云フ行キ止リノ袋カ附着シテ居ル之レガ靈長類ニ通シタ性質デアルサテ以上ノ性質ヲ掲ケテ人類ハ如何ト云フニ凡テノ点ニ於テ人類ハコレニ一致シテ居ル併シ人類ト猿トハ混スヘキモノニ非ラスシテ體カニ相違カアル所デ其相違ハドノ位ノ相違ナルカ猿ト蝙蝠ト土龍ト犬ト鯨トガ相互ニ相違スル如キ相違ナルカト云フニ公平ニ考ヘテ見レハドウシテモソレ程甚イモノテナイ別ニ第十二番目トシテ人類ト云フ目ヲ設クルノ必要ハナイ矢張靈長類中ニ入ルベキモノデアル。

此靈長類ノ中ニ就テ見ルニ固ヨリ人ト猿トハ相違シテ居ル人類ヲ取り除ケテ他ノ靈長類ノミヲ分ツ片ハ八科トナル其内一科ヨリ五科迄ハ人類ニ縁遠キヲ以テ之レ

ヲ省キ人類ニ近キ第六科ヨリ之レヲ掲ケレバ

- 第六科 西半球ノ猿
- 第七科 東半球ノ猿 (類人猿ヲ除ク)
- 第八科 類人猿 (東半球ニ棲ム)

右ノ内人間ハイツレニ似テ居ルカト云フニ類人猿ノ属スル第八科ニヨク似テ居ルソコテ起ル問題ハ人類ハ類人猿ト共ニ第八科ニ入レテ置クヘキモノナルヤ或ハ第九科ヲ設クヘキモノナルヤト云フ問題ガ起ル今第八科ノ性質ヲ研究スルニ各々ノ顎ニ二對ノ門齒ト一對ノ犬齒ト二對ノ前臼齒ト三對ノ後臼齒トアリテ齒ノ總數三十二個ヲ尾ヲ有セズ類ニ食物ヲ入ル、袋カナク上肢ハ下肢ヨリ著シク長イ、人類ハ如何ト云フニ或ル点ニ於テハ一致スレモ或ル点ニ於テハ異ル則チ上肢ト下肢ノ長短ハ相反ス即上肢カ短カクシテ下肢ガ長イ猶注意シテ見レハマダ外ニ肝要ナル相違カアル其レハ耳目鼻口ノ存スル部分ニ對スル腦ノアル部ノ大サヲ比較シテミルニ著シク大キイ又人類ノ犬齒ハ他ノ齒ニ比シテ余リ大クナイ人類ノ脊柱ハ直立ノ位置ニ適シ前ニ云ヘル通り人類ノ足ノ拇趾ハ類人猿ノ下肢ノ拇趾ヨリ長ク類人猿ハ下肢ノ拇趾ハ人ノト違ツテ他ノ四趾ニ向テ合ハセルカ出來ルシテ見レ

ハ人類ハ第八科ニ属スル動物即チ類人猿トハ異リタル處アルハ明ラカデアアル即チ或ル点ハ一致スレモ他ノ肝要ノ点ニ於テ異ルコレ位ノ相違ハ果シテ科ノ相違デアアルカ若シ科ノ相違トスレバ第九科ヲ設ケテハナラヌ若シソレデナケレハ第八科ニ入ルヘキモノデアアル、

先ツ之ノ疑問ヲ決定スル爲ニ他ノ科ノ比較ヲシヨウ第七科ノ性質ハ如何ト云フニ各顎ニ二對ノ門齒一對ノ犬齒二對ノ前臼齒三對ノ後臼齒ヲ有シ總數三十二枚類ノ袋ハ有ルモアリ又ナキモアル尾ハ何レモ有スレモ其尾ハ物ニ卷キツクカガナク下肢ハ上肢ヨリ幾分ハ長イガ著シク長クナイ之レガ類人猿ヲ除キテ東半球ニ棲ム猿ノ性質デアアル、

次ニ第六科西半球(アメリカ)猿ハ各顎ニ二對ノ門齒一對ノ犬齒三對ノ前臼齒三對ノ後臼齒總數三十六枚何レモ尾ヲ有スレモ種類ニヨリテ物ニ卷キツクカヲ有スルト有セザルトノ別アリ、

第六科ノ猿ト第七科ノ猿トノ相違ハ齒ノ數ト尾ノ力トノ二ツダ、

第八科ノ猿ト第六科ノ猿トノ相違ハ齒ノ數ト尾ノ有無トノ二ツダ、

由是觀之科ト科トノ相違ハドノクライテアルカト云フカ別ル人類ト類人猿ト一

致セサル点ハ科ノ相違ヲツクル價値カアル然ラハ人類ハ第八科ニ入レスシテ第九科人類ト云フ科ヲ置クノガ釣合上適當デアル。

是ニ於テ始メテ人類科ト云フ獨立ノ部ヲ設クルコトガ出來ル。

一ツノ科ノ中ニモ種々異ツタモノカアルノデ分類スルコトガ出來ル科ノ次ノ分カチヲ屬ト稱ス人類ノ場合テハ屬ハドウテアルカ即世界中ニハ種々ノ人類アルガ屬ヲ異ニスルモノガ認めラル、カ即チ人ハ幾ツノ屬ヨリ成立スルカト云フニ先ツ一般ニ科ノ内ノ屬ノ相違ヲ明ラカニセテハナラヌ鹿ト馴鹿トハ一科中ノ異リタル屬デアアル即チ鹿ト馴鹿トハ第六目有蹄類ノ中ノ第十二科中ニ於テ屬ヲ異ニセルモノ、又第六目有蹄類中第十五科ノ牛ト羊トノ如キハ矢張屬ヲ異ニシテオル兔ニ角一科中ニテ異リタル屬ト云フモノハ鹿ト馴鹿ト又牛ト羊トノ如キモノ即チ屬ノ相違トハ前陳ノ如キモノデアアル。

以上ハ人類ニ遠キ屬ノ例ナレハ猶人類ニ近キモノニテ云ヘハ第八科類人猿ノ四ツノ猿ノ如キハ即チ屬ヲ異ニスルモノデアアル。

第八科ノ第一ヲ「ラグウーメン」ト云フ之レハ「ホルチヲ」「スマトラ」馬來島等ニ住ムモノデ其体ノ組立ハドウデアアルカト云フニ頭ノ骨ハ頂上ニ於テ高マリヲナシ四肢モ胸

モ共ニ太ク逞ク上肢ノ端ハ立チテ垂ルレハ踝ニ達シ下肢ノ拇趾ガ甚タ小サク身長ハ直立ノキ五尺一二寸

第二キツボン 之レハ亞細亞大陸ノ南及ヒマレイ地方ニ住ムモノテ頭ノ骨ハ頂上ニ於テ高マリヲ作ラズ全身細ク上肢甚タ長ク身体ヲ直立シテ垂ルレハ其指端ハ地上ニ達シ下肢ノ拇趾ノ發育ヨロシク身三尺計リテアル

第三チンパンジー 之レハ中央亞弗利加ノ西ノ部ニ住ムモノデ此猿ハ頭ノ骨行儀ヨク丸ク立チテ上肢ノ端ヲ垂ルレハ膝ノ少シ下ニ達シ身長ハ五尺以下デアアル

第四ゴリラ 中央亞弗利加ノ西部ニ住ムモノデ此猿ハ頭ガ丸ク胸モ四肢モ共ニ太ク立チテ下垂スレハ上肢ノ端ハ膝ニ達スル位テ下肢ノ拇趾ノ發育ヨロシク身長五尺許リテアル

サテ大凡屬ト云フモノ、相違ハ斯クノ如キモノデアアルコレヨリ比較シテ世界中ノ人類ハ一屬デアアルカ數屬デアアルカ前ノ如ク屬ト云フモノ、明了ナル以上ハ判斷ヲ下スニ容易ナルヘシ

北海道ノアイヌト台灣ノ生蕃ト歐羅巴ノ白人ト亞弗利加ノ黑人ト云フ如キ極端ノモノヲ比較シテモ其者相互ノ間ニハ鹿ト馴鹿牛ト羊「オランダグウータン」ト「ギツボン」ト

リラトチンパンジ」ノ如キ相違ヲ見出スコトハデキヌ故ニ人類中ニハ属ヲ異ニスルモノハナイ即チ人類ハ一科一屬テアル。

サテ動物學者ハ屬ハ種カラ成リ立ツトスルノデアアル。

科ト屬トノ關係ノ通り一科ガ一屬ノコトモアリ數屬ノコトモアル如ク屬ニモ一種ノコトモ數種ノコトモ有リ得ルノデアアルコレヨリ一屬ノ内ノ種ノ相違ヲ語コウ獅子虎豹猫ノ如キハ屬ハ一ツナレモ其種ノ區別ハ何人モ容易ニ悟ルコトカテキル。人類ハ同屬中ニ獅子虎豹猫等ノ數種アル如ク數種ナルカ或ハ全体ヲ通シテ一種ナルカ人類ノ科ヤ屬ニツキテハ左程問題ハナケレモ種ニ就キテハ學者ノミナラス專門以外ニ於テモ非常ニヤカマシク議論サレテオル現今佛國ノ人類學者「トビナール」氏ノ如キモ人類ハ數種デアルト云ヒ居レリ。

古ヨリノ學者ガ人類ノ種ニ就キテ如何ナルヲ云ヒ居リシカト云フニ一種論テモ多種論テモ論據トスル處ハイツモ大体同シデアアル。

昔ヨリ人ノコトヲ論ズルモノガ種ニツキテドンナコトヲ云フテ居ルカト云フヒ一種論者ノ云フ根據ハニツアル一ハ世界全体ノ中ニ見ルトコロノ人類ノサマシクナル身体ノ相違ハ他ノ動物ノ一種中ニ見ル變種ノ相違位デアアル種ノ異ルヲ示ス程ノ

モノハ一ツモナイ故ニ一種デアルト又一ツノ論據ハ世界全体ノ人類ヲ通シテ何レノ地方ノ男ト何レノ地方ノ女トヲ配偶サセテモ其間ニハ必ス子ガ生マレル他ノ動物ニ於テ調フルニ同種ノモノハ間ニアラザレハ子ノ生マルハ一ハナイトコレ一種タルノ証據ナリト

多種論者ノ論據モニツアル

其一ハ異リタル地方ニアル人類間ニ存スル身体上ノ相違ハ他ノ動物ニ於テ種ノ異ルヲ示スト認メラルハ位ノモノガアルカラ一種デナイト

他ノ一ツハ異ル地方ノ男女ノ配偶ハ生殖力ニ差異アルヲ告ゲル即チ同一地方ノ男女ノ間ニハ健全ナル子供ガ生レ又數多キ子供ガ生ルレモ異ル地方ヨリ配偶サレタル男女ノ間ニハ健康上欠点アル子供ガ生レ又子供ガ數多ク生レナイ斯ノ如ク生殖力ニ差異アルハ恰モ虎ト獅子ト云フ如キ異リタル種ノ動物ノ雌雄ヲ配偶セシメタル結果ト同一デアアルト云フノデアアル

コノ兩者ノ論據ハ何レカ確カカト云フニ公平ニ判断スレハ何レモ薄弱ニテドチラニモ附屬ハアゲラレヌ

第一人類中ニアル處ノ相違ヲ以テ一種中ノ變種ノ相違ト認メタリ又一屬中ノ種ノ

相違トスルハ何ニヨルノテアルカト云フニ比較スル所ノモノ如何ニアルノテ類例ノ撰ヒ方ニヨツテドウテモナル獸ヤ鳥ヲ例ニシテ云ヘハ人類ハ一種中ノ變種位ニ止マル又昆虫類等ノ種ヲ以テ人類ニアテハムレハ實ニ種ノ違ヒト認めラレル程ノ違ヒガアル故ニ類例ヲ以テ推スハアマリ價値ガナイ

次ニ一種論ト多種論トノ兩方ニテ云フ處ノ生殖力ハ如何ト云フニ一種論ノ説ニハドノ人種ヲ配合シテモ子ガ生レルト云フコトハ未タ明言サレヌナゼト云ヘハ試験的ニ各種ノ人類ヲ結婚セシメタルコトナケレハ後ハトモカクモ今日ハ証據トナスコトハデキヌ又異種ト認めラル、モノ、内ニモ子ノ生マル、コトアリ獅子ト虎トハ普通何人モ其區別ヲ誤ルモノナシ而シテコノ兩者ノ間ニ子ノ出來タルコトガアル又驢馬ト馬トモ全ク別種ナルニ又其間ニ子ノ生レルコトモアル之ヲ以テ見レハ異種ノモノハ子ガ生レナイトモ云ヘズ又生殖力ノ度ヲ人ノニ比ヘテ論スル丈ノ材料ハ無イ一種論者多種論者ノ云フ處立論ノ材料ニ乏シク問題ヲ決定スルニ足ラヌ

動物ヲ分類シテ一ノ屬トスルトカ一ツノ目トスルトカ一ツノ綱トスルトカ云フハ學者ノ研究ノ結果作リタルモノテ天然自然ニ斯クナケレハナラヌト云フモノテナイカラ此後新説出テ、變スルヤモ知レヌ。

サテ分類ノ起點ハ何デアアルカト云フニ種テアル種ト云フモノハ自然ニ定マリタルモノテ學者ノキメタルモノデナイ種トハ何ソヤト云フコトハ學者ノ言ヒ現ハシ方ハ種々アルケレドウモ完全ト思ハレルノガ無イ茲ニ一々學者ノ言フコトヲナラブルコトハテキヌガ人類學的ノ調査ヲシタ人テ種ニツイテドクナコトヲ言テオルカラアゲ次ニ批評シテ見ヨウ

獨乙ノ人類學者「ブルメンバツハ」曰ク

「形狀構造相類似シタトヒ差異アルモ唯變化ノ爲メニ生シタリト見ユルニ過キザル動物ノ團體ヲ種ト名ツク」

例(鳥ハ黒キモノナレドモ其羽ニ白キ茶色ノ如キモノアルハ之レハ變化ノ爲メニ生シタト思ハル、故黒キモノト同一種トナストノ意テアル)

此定義ノ弱点ハ唯變化ノ爲メニ生シタルニ過キナイト云フ處ニアルナゼナレハ見解ニヨツテ變化ノ爲メニ生シタノデナイト云ヘハ仕方ガナイ

佛蘭西ノ博物學者デ人類學ノ研究ヲナシタル「キユヱ」氏ノ説ニ曰ク

「血統ヲ傳ヘテ相襲ヘルモノ(親子ノ關係)親ヲ一ニスルモノ(兄弟關係)及ヒ親子兄弟ノ相互ニ似ルカ如ク似ル處ノ動物ノ團體ヲ種ト名ツクト」

之レモヨケレモ矢張見解次第テドウトモ成ル。

英吉利テ人類學者ノ祖ト呼ハレル「ブリッチャード」ノ定義ニ曰ク、

「特殊ノ起源ヲ有シテ体質ノ特徴ヲ遺傳繼承スル動物ノ団体ヲ種ト稱ス」

コノ定義ノ弱点ハ特殊ノ起源ト云フ所ニアリコハ想像故何レトモ成ル

亞米利加ノ人類學者「ブリントン」ノ定義ニ曰ク

「明瞭ナル類似点ノアル動物ノ団体ニシテ一對ノ祖先ヨリ系統ヲヒキ或ハ引ケルガ

如ク想像サル、モノヲ種ト云フ」

之レモ想像サレルト云フ人モアロウ又サレヌト云フ人モアロウ、ドチラニモトレル

モノトナルノデアル。

種ト云フモノハ果シテ斯ノ如ク不明瞭ナモノカト云フニ左ニアラズ唯々其言ヒ現

ハシ方ガ好クナイノデアル

英國ノ「ローマチス」ハ種ニ就キテ餘程立勝リタル定義ヲ與ヘテ居ルケレモ一ツ缺點

ガアル「ローマチス」ノ云フニハ「雌雄ノ別ノ他形態上同一様ナルモノ或ハ仮令極端ノ

例ノ間ニ多少ノ相違ヲ認ムル」アルモ兩極端ヲ連續サスル處ノ中間物ガ有リ又有

ツタ場合ニハ其動物ノ団体ヲ總稱シテ種ト云フ」

以上ノ中「ローマチス」ノ説ハ一番宜シケレモ満足スルコトガ出来ナイ實ニ一番肝要

ナル言葉ガ缺ケテ居ル即「同時代ニ生存スル」ト云フ言葉ガ抜ケテ居ル「ローマチス」ノ

定義ノ如ク同時代ト云フコトヲ除ケハ世界ノ動物ハ恐ラク皆連續シテ仕舞フテア

ラウ此言葉ヲ加ヘレハ定義ガ完全ニ成ルト思フ。

愈々種ノ定義ヲ確定シタ以上ハ人類ハ一種カ多種カト云フコトヲ考究スルコトガ

デキルノデアル。

世界諸地方ヲ見渡セハ地方々々ニヨリテ容貌体格風俗習慣ノ異リタル住民カアル

ガ其ノ異ナル点ハ何レカト考フルニコレヲ大別スレバ概テ二ツトナル

先 天 性

之レハ生レツキニテ後ニ變ヘ様トシテモマテ様トシテモデキヌモノ

後 天 性

風俗習慣言語宗教ノ如ク生レテカラ後ニ學ンテ覺ユルモノ

凡テ動物分類ノ研究ニハ先天性ヲ據トスル人類ノ場合ニモ之ニ重キヲ置クヘキテ

アル言語習慣ノ如キ後天性ハ導キ方ノ如何ニヨツテドウテモナルカラアテニナラ

ナイ、一地方々々ノ住民ヲ比較研究スル片ニハ肝要ナレモ人類ガ一種カ數種カト云

(40)

フヲ考エルニハ先天性ニヨラテハナラヌ。  
 人類カ一種カ數種カノ問題ニツキテ最初ニ氣付クハ皮膚ノ色デアアル即チ前ニ講  
 シタ太古ノ「エジプト」人ガ四通リニ皮膚ノ色ヲ塗り別ケタ如キモ其例デアアル若シモ  
 世ノ中ニ「ヨウロッパ」ノ白人ト「アフリカ」ノ「ネグロ」ノ如キ黒キモノ許リテ中間ノモ  
 ノカナケレハ少クトモ皮膚ノ色ダケニツキテハ世界ノ人類ハ二種ト云フテ可ナラ  
 ン然シ今日知レテ居ル事實テハ白ト黒トノ中間色ノモノガ諸所ニアルトノ事カ明  
 デアル「アフリカ」ノ「ブツシマン」ハ西洋馬具ノ古クナリシ如キ色又「アフリカ」ノ「ラボン  
 ゴ」ト云フ種族ハ汚レタル黄色ヲ呈シ南洋ノ「バブアン」ハ「コヒー」ニ牛乳ヲ混シタ如キ  
 色即赤ミノカ、ツタ鼠色「アジア」住民ノ多數ハ稍々黄色ヲ帶ヒ歐洲ノ以多利人、西班  
 牙人ノ如キハ薄キ褐色ヲ帶ヒ又歐洲ノ中英吉利、佛蘭西人ナドハ桃色ヲ帶ヒタル白  
 色、那威、瑞典ノ地方ニ至レハ一層白色デアアル尤之レハ其中ノ多數ノ人ニ就テ云ツタ  
 ノテ必ス如何様ト定ムルコトハテキヌ其ノ内ノ多數ガ前ノ如キ色ノモノデアルト云  
 フ丈デアアルサスレハ世界中ノ人間ニ見ル白ト黒トノ兩極端モ中間物ヲ以テ其間ガ  
 連續サレテシマウ。  
 次ニ毛髮ニツキテハドウデアアルカ

(41)

日本人ノ毛髮ハ黒カ通常ナレモ赤キ毛髮ノ人モアリ鼠色ノ人モ往々アリ日本ヲ稀  
 トシデアアル「トウモロコシ」ノ毛ノ如キ赤色モ或種族間テハ珍クナイ或ハ栗色、灰色、鼠  
 色、黄色ヲオビタル淺黄ノ如キ色等種々アレハ或ル地方ノ毛髮ノ色ハ斯クト定  
 ムルコトハテキヌ一ツ國一ツ處一ツ親子ノ間テモ異ナルコトカアル之レヲ以テ見レバ  
 毛髮ノ色ヲ以テ人中ノ種ノ別ヲ定ムルコトハテキヌ矢張コノ種々ノ中間物ヲ陳列ス  
 レハ皆連續スルコトカデキル。  
 毛ノ多少ハ如何矢張毛髮ノ色ト同様テ例ヘハ日本ノアイヌノ如キ毛深キモノヨリ  
 ダン／＼ソノ中間物ヲ以テ並列スレハ連續スルコトニナリテ多種ト認メルコトガ  
 テキナクナル。  
 毛髮ノ形狀ニハ

直毛

波狀毛

鈎狀毛

縮毛

綿襪毛

ノ別カアルガ何所ノ地方ノ者ハ必ス何レト定マリタル形狀ヲナスニアラズ何レノ  
 地方ニハ比較的トノ種類カ多イト云フコトハ出來ルケレモドノ地方ハ何彼ノ地方ハ  
 何ト判然定ムルコトハテキヌ矢張コレモ中間物ヲ以テ連續スルコトヲ得ルデアアル。  
 毛ノ切口ヲ見レハ左ノ如キ種類アリ



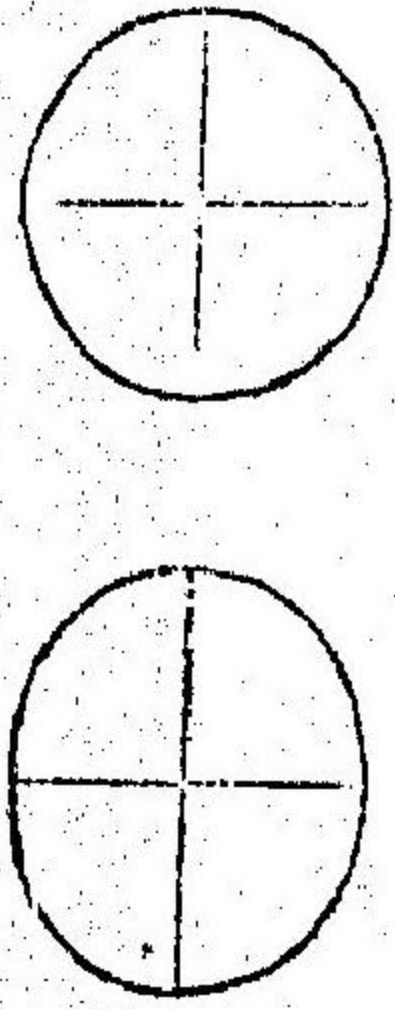
日本人ノハ世界中尤モ丸キモノ、中テアル歐州人ノハ楕圓形デ「ネグロ」ノハ平タク  
 オシツケタルガ如キ形テ「ニウギニイ」ニ佳スル「パプアン」種族ノハ不規則形テアル矢  
 張地方ノニヨリテ如何ナル形ガ多イトカ少ナイトカ云フハミテ均シク中間物ヲ  
 以テ連續スルヲガデキル  
 通常目ノ色ト云フハ正シク云ヘハ目ノ虹彩ノ色テアルガ此ノ虹彩ニアルスデガ如  
 何ナル色ヲナスカハ自分テ鏡ヲ見レハ分ルガ定マツタ色カナク一本一本ノ線カ皆  
 色ヲ異ニシテヨク見レハ黄モ紅色モ青色モアリテボトトシテ虹ノ如キ色ヲナシテ  
 何ノ色ト云ヘナイ然レモ少シ離レテ見タルハコレカ合体シテ或色ニ見エルノテ  
 アル然レハ目ノ色ハ遠クヨリ見タルハ吾々ノ眼力ノ弱キタメ諸色カ合シテ青ト  
 カ黒トカニ見エルノテアル  
 唯一ツ茲ニ注意スヘキコトハ眼ノ色ノアサギニ見エルハ後眼房ニ入りタル液ガア  
 サギ色ヲ有スルヲ以テ虹彩ノアサギ色カ幾分カ薄キハスキ透リテ後眼房ノ青色  
 ガ見ユルコトガアル又眼ノ色ノ赤キハ虹彩中ノ色素カ欠乏シテ其ノウラノ血管ノ

血液カスキ透リテ赤ク見ユルノデアアル眼ノ實質ガ黒トカ赤トカト云フノテハナイ  
 故ニ眼ノ色ヲ以テ人類ヲ幾ツカノ種ニ分ツコトハデキヌ矢張中間物ヲ以テ連續スル  
 コトヲ得ルカラ種ノ相違ト云ハレヌ  
 顔ノ横向ノ形モ諸地方ニヨリテ異ナルコトカアルガコレ又中間ノモノガ有ツテ連續  
 シテ仕舞フ

世界中尤モ高キハ「バタゴニヤ」人テ成長シタ男子ハ平均五尺九寸其内ニハ六尺ニ越  
 ヲルモノモアル又尤モ小サキハ「アフリカ」内地ノ土人デ「スタンレイ」發見ノ小人ハ僅  
 カニ三尺ヲ越メ位ノモノテアル

常ニ身長短小ノ例トシテ「エスキモ」人ト云ヘド彼等中ニハ日本人ヨリ高イモノガア  
 ル日本人カ「エスキモ」ハ短小ダト云フ權利カナイ

世界中ノ人類ハ身長ヲ以テ云ヘド矢張中間物ヲ以テ連續スルコトヲ得ル  
 頭ノ形ニモ種々アリ而シテ其特徴ヲ知ルニハ上ヨリ見下スヲヨシトス上ヨリ見下



セハ圓キモ細長キモ楕圓モアルシテ此ノ丸イトカ細  
 長キトカ云フコトハ數ヲ以テ云ヒ表ハスコトカデキル即  
 チ前後左右ヲ計リテ其ノ比較ヲ出スノダ前後ノ長サ



(44)

100ニツキテ左右ノ長サ幾ラト云フニ左右ノ長サニ100ヲ乘シ前後ノ長サニテ除  
スレハ其比較ガデル。

一寸大小ノ順序ヲ表ニ掲ケテ見レハ左ノ如シ。

前後ヲ100トシテノ左右ノ長サ

アウストラロヤ土人	71.5
チグロ	73.4
アムス	77.6
北亞米利加土人	79.3
日本人	80.0
トルコ人	81.5
ラツブ人	85.1

頭ノ形モ種々アルケレモ矢張り中間物ヲ以テ連續サレル故ニ之ヲ以テ種ノ分チト  
ハサレヌ。

以上列擧シタ所ニヨレハ人類ノ先天的性質ハ皆中間テ連續シテ多種ト見做ス点カ  
ナイ即チ世界ニ於ケル諸地方ノ人類ヲ總括シテ一種ト認メルトノ結論カデキル。

## 第二編 人類現狀論

本篇ニ於テハ如何ナルコトヲ論スルカト云フニ世界ノ諸地方ニ住スル現在ノ人類ハ  
如何ナル有様ヲアルカ身体精神土俗ノ上カラ研究スルヲ以テ本論ニ於ケル務トス  
ルノデアアル而シテ之レヲ研究スルニハ先ツ人ハ地理學的ニドウユウニ分布サ  
レテ居ルカラ知ラネバナラス。

### 第一章 人類ノ地理學的分布

人類以外ノ陸産哺乳動物ノコトヲ調フルニ自然ノ分布ハ何ノ種ニ於テモイクラカ限  
ラレタル範圍内ニアルノテ決シテ世界全体ニヒログリテアルコトハナイ然シテ此  
範圍ハ現在地續テアルカ或ハ又現在海テ隔リアルモ嘗テハ地續テアツタ處テアル  
分布ノ廣イ例ヲ擧ゲレハ獅子ノ如キハ何處ニ居ルカト云フニ「アフリカ」ノ全体「アラ  
ビヤ」「ベルシヤ」「印度」ノ各地ニ分布シテ居ル併シ他ノ地ニハ居ナイ

又「アメリカ」ニハ「ビュマ」ト云フ獸ガ居ルコレハ北「アメリカ」ノ「カナダ」地方ヨリ南「アメ  
リカ」ノ「バタゴニヤ」地方ニ迄分布シテ居ル。

又馴鹿ハ「アメリカ」ノ北方「ヨウロッパ」及「アジア」ノ北方ニ分布生存シテ居ル。

(45)

今述ヘタル獅子、ビュマ、馴鹿ハ世界ニ廣ク分布サレテ居ルケレモ或地方ニ限ラレテ居テ全世界ニ廣マツテハ居ナイ。

又尤モ人類ニ近キ類人猿ハドウテアルカ、コレハ「アフリカ」ノ中央部ト「アジア」ノ南部ニ限ラレテ世界全体ニハ廣マツテハ居ナイ。

人類モ陸産哺乳動物ノ一種ナルガ其分布ノ有様ハドウテアル矢張一地方ニ限ラレテ居ルカト云フニ、「エスキモ」ハ北緯七八十度ノトコロ迄住シ又赤道直下中央亞弗利加ニモ人類ハ盛ニ繁殖シテ居ル又「アメリカ」ノ極南南緯五六十度ノ「テラデルヒューゴ」ニモ人類ハ廣カツテ居ル尙細カニ調フル時ハ大陸テモ島テモ到ル處トシテ人類ノ住マヌ處ハナイ。然レバ人類ノ地理學的分布ハ世界全体テアル故ニ學者中ニハ此点ヲ以テ人類ノ一種タルコトヲ疑フ人モアル。

ソコヲ吾々ノ考フヘキハ一種ノ動物ト其地理學的分布トノ關係ハ如何ト云フ事テアル。即チ一種動物ハ必ス或ル限ラレタ境界内ニ限ラレルモノトセバ或境界内ノモノヲ各々一種ト考ヘキハナラヌ。モシ又一種ノモノモ境界以外ヘ廣マルコトヲ得ルトセバ分布ノ点カラ一種タルコトヲ疑フヘキ理由ガナイ。然ラハ一種ノ動物ト地理學的分布トノ關係如何獅子ヤ虎其他ノ動物モ自然ノ有様ニ於テ其範圍ヲ限ラレテ居ル

ガ或ル場合ニハ諸地方ニ分布サレルコトカアル例ヘハ馴鹿獅子等ハ其ノ養方ニヨリテハ幾ラモ養フコトカデキル或ル時ヲ限リ或ル場所ヲ限リテ外國ノ動物ヲ持チテクルコトカデキルバカデナク時ト場所トヲ限ラズ自然ノ分布以外ニ移スコトカデキル。嘗テ「ニュージイランド」等ニハ豚モ兔モ居ラサリシガ歐州人移住ト共ニ此等ノ人カ之ヲ移シテヨクセワラシタル結果大ニ繁殖シテ今日テハ自然ノ分布ノ如キ有様トナツテ居ル。

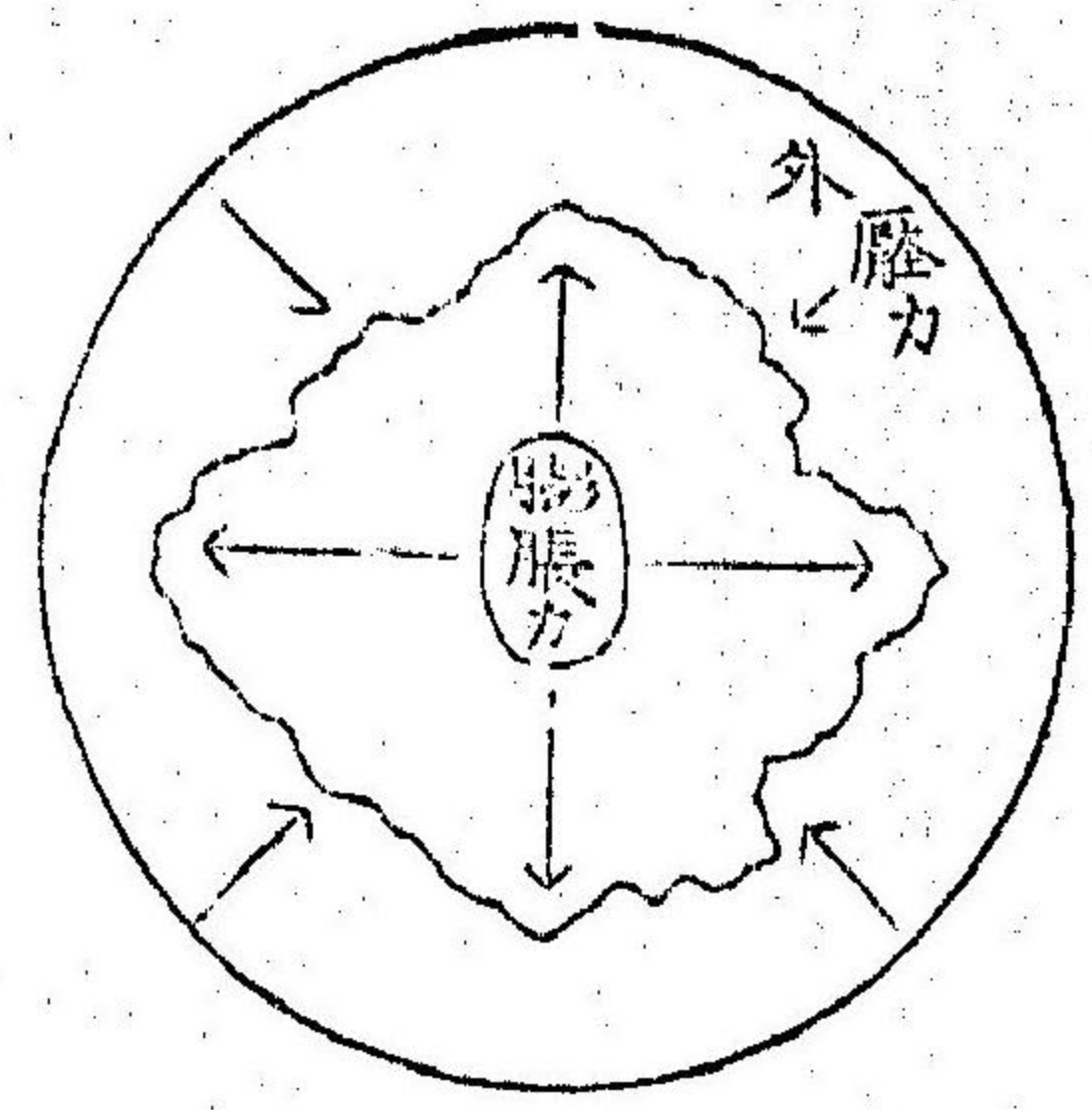
又南「アメリカ」ニハ馬モ牛モナカリシガ移住民カ之レヲ移シテ繁殖サセ今日テハ以前ヨリ住シテ居ル動物ト共ニ繁殖シテ居ル。

是ニ由テ考フレハ一ツノ種ト地理學的分布トハ離ルベカラサル關係ガアルテハナイ。即チ人爲ヲ以テ自然ノ分布ヲ廣メルコトガテキル。此ノ如ク豚ヤ兔ヤ馬ヤ牛ヲ移シテ繁殖サセルコトカデキルナラバ人類已レ自身モ自然ノ分布以外ニ甲地ヨリ乙地ヘ移リテ住ムコトカデキルワケデアル。即チ移住殖民ト云フモノガコレテアル。

吾々カ歴史、口碑、古物、遺跡ヲ調フルニ殖民移住ハ近頃ニ始ツタモノテナク人類ハ太古ヨリ移住シテ生活シタコトガ明ラカニ知レル。近ク日本ノ例ヲトレハ日本種族ノ祖先ハ決シテ地カラ湧キ若クハ神カ作タモノトハ云ハナイ。何レ何處カラカキタモ

ノテアル天ヨリ降ツタトハ何レ何處カラカ移住シタノデアロウ北海道ノ「アイヌ」ニ  
 ツキテ調フルニ彼等ノ口碑ニ嘗テ日本内地ニ居リタルニ遠ニ追ハレテ北海道ニ移  
 住シ北海道ニハ「アイヌ」ノ前ニ「コロボツクル」種族ガ住ンテキラソコヘ「アイヌ」カ移住  
 シテ共ニ生活シテ居タガ後ニ争ヲ生シ「コロボツクル」ハ北方ニ移住シタノデアルト  
 又歴史ニモ口碑ニモヨラズ遺跡ニ徴スルモ當松本地方杯ヨリ出ツル古器物ニヨリ  
 テ調フルニ此地方ニモ今日ノ日本人以前ノ人カ居タト云フコトヲ証スルコトガデキ  
 ル然レハ人類ノ移住ト云フコトハ今日ニ始ツタノテナイ太古ヨリ幾クラモアツタ  
 ニチガヒナイ即チ今日ノ人類ノ分布ト云フモノ自然分布ノマ、テナク又自然ノマ  
 ヲテアル筈カナイ恰モ牛馬ヤ豚ヤ兎ヲ移ス如ク人類ソレ自身カ移住シタト云フコ  
 トハ疑フニ及ハス。

人類以外ノ陸産哺乳動物ハ人類ノ様ニドコノ地方ニ迄モ繁殖スルト云フコトハデ  
 キ又外ノ陸産哺乳動物ハ人類ガセワヲシテ與ナケレハ離レタ所デ繁殖スルコトカデ  
 キ又コレ等ノ動物カ人類ト異ナル点ハ人類ハ何處ヘテモ廣マルケレハ他ハ廣マル  
 力カ割合ニ少イト云フ所ニ在ル凡ソ分布ハ中心ヨリ擴ガラントスルカト或ル外力  
 カ抑ヘヨウトスルカト平均ヲ保ツノカラ起ルノデソレカ動物ノ地理學的分布テア



ル而シテ人類ト他ノ陸産哺乳動物ト廣マル場合ニ於テ異  
 ナルコトカ五ツアル。  
 一、人類ハ火氣ヲカリテ身ヲ暖メ衣服ヲマトウテ寒ヲ防キ  
 家ヲ作りテ風雨ヲシノギ水ニ浴シテ暑ヲ去リ日ヨケヲ  
 作リテ日光ヲ遮リヨク種々ノモノヲ作りテ自分ノ体ヲ  
 氣候ノ變化ニ處スルコトヲ工夫スルコトガテキルケレ  
 他ノ陸産哺乳動物ハコノ氣候ノ變化ニ處スルト云フ  
 コトカデキヌ。

二、人類ハ食物ヲ貯蓄シ或ハ運搬シ自然ノマ、テ食スルコト能ハサルハ料理シテ之  
 ヲ食シ或ハ耕作シテ植物性食物ヲ作り或ハ牧畜シテ動物性食物ヲ備フル等人類  
 ハ種々ニ工夫シテ食物ノ欠乏ニ應スルコトヲスル然レハ他ノ陸産哺乳動物ハ智  
 識ノ程度カ卑クイカラカヤウノコトハデキヌ即チ食物ノ点ニ於テ廣マルコトカ  
 制限サレル。

三、人類ハ河ニ橋ヲカケ水ニ舟ヲ浮ヘテ河海ヲ越スコトヲ知リ糧食ヲ用意シテ進ミ行  
 ク道ヲ定メ砂漠ノ如キモノヲ通り越シナトシテ地理上ノジヤマモノヲ打越シテ

行ク然レモ他ノ陸産哺乳動物ニ於テハ地理上ノ妨ニ打勝ツテ廣マル力カ薄イ。  
 四、人類ハ好奇心ニ富ミテ別段ニ必要ハナクトモ常ニ外へ出ヨウトスル心カツヨイ  
 然ルニ他ノ陸産哺乳動物ニ於テハ此ノ心乏シイカ或ハ全クナキモノテアル。  
 五、人類ハ船ニ乘リテ遠ク陸地ヲ離ル、コアリ暴風海流ノ爲メニ思ヒ掛ケナイ處ニ  
 漂着スルコトカ屢アルケレモ人類以外ノ動物ニ於テハ漂着ト云フコトハ殆トナイ。  
 同類ノ頭數カ繁殖シテ食物ノ欠乏スル爲メニ他へ出掛ケ様トスルハ他ノ動物モ人  
 類モ同シテアルガ人類ハ好奇心強ク食物上、氣候上等ノ妨ケニ抑エラレズ又漂流ト  
 云フコトガアル陸産哺乳動物ノ一種タル人類カ廣ク分布シテ居ルノモ怪ムニ足リ  
 ナイ。

### 第二章 人類ノ分類

前ニ人類ハ一種ナルカ數種ナルカヲ述ヘル時分ニ様々ナル中間物カアリテ連續シ  
 テ居ルカラ一種テアルト云フコトヲ云ヒ同時ニ地方々々ニヨリテドウユモノカ割  
 合ニ多キカト云フコトモ述ヘタ此地方々々ニヨリ如何ナルモノガ比較的多キカト  
 云フノカ即チ人種別ノ基デアアルサテドレ程ノモノヲ人種ト云フカト云フニ學問的  
 ニ定マリタル意味ハナイ普通人種トハ或ル性質ヲ通シ有スル人類ノ團體ヲ云フ或

ハ人種トハ如何ナル方法ニカヨリテ分類シタ處ノ人類ノ一群ト云ツテモ宜シイ。  
 茲ニ云フ或ル性質又ハ方法ハ學者各隨意テアル。  
 各學者ガ世界中ノ人類ヲ大別シタ其數ヘ方ノ違ヒタルモノヲアグレハ左ノ如クテ  
 アル、

- 二人種、 三人種、 四人種、 五人種、 六人種、
- 七人種、 八人種、 十一人種、 十三人種、 十五人種、
- 十六人種、 廿六人種、 六十三人種、

少ナク見ル人ハ二人種ト云ヒ多ク見ル人ハ六十三種ト云ヒ斯クノ如ク區々ナルユ  
 ニ分類如何ヲ明カニセスニ何所ノモノハ何人種ナド云フコトハ全ク意味ナキコト  
 アル若シモ人種別ヲ作ルカ學問上價值ナキモノナラバヨスガヨイ實際如何ト云フ  
 ニ人種區分ヲ立テ置ケハ二ツノ便利カアル。

- 一、諸地方住民相互ノ緣故ヲ明ニス、
- 二、諸地方住民ニ關スル説明ヲ簡單ニス、

斯ノ如ク二ツノ利益アルカラ面倒テモ人種ヲ立テ置ク必要カアルソレドウシタ  
 ラハ人種ヲ分ツコトニツキテノ意見ヲ定メルコトカデキ得ルカト云フニ何ニカ標準ヲ

立テナケレバナラヌ人類ニ限ラス凡テ物ノ分類ニハニツノ主義カアル

甲. 便宜分類

乙. 自然分類

甲. 便宜分類

一. 常識的便宜分類

二. 人爲的便宜分類

乙. 自然分類

一. 類聚的自然分類

二. 系圖的自然分類

常識的便宜分類トハ例ヘハ書物ナラハ和製洋製人類ナラ亞細亞ニ居ルカラ亞細亞人種歐羅巴ニ居ルカラ歐羅巴人種ト云フ様ナモノ。人爲的便宜分類ハ常識ヨリ稍々復雜ダカ學問上ニハ價值カ少ナイ例ヘハ隨意ニ土臺ヲ据ヘテ本ナラハ色トカ大小厚薄トカニヨリテ分ツハ人爲的便宜分類テアル。又植物ヲ木ト草トニ分ツハ常識的便宜分類テ花瓣ノ數ニヨリテ分ツ等ハ人爲的便宜分類ダ。人類ノ場合ニハ皮膚ノ色ニヨリテ人類ヲ分ツト云フ様ナノガ人爲的便宜分類アリ

キアス氏ノ白色歐羅巴人種赤色アメリカ人種褐色アジア人種黑色アフリカ人種ト云フカ如キガ即チソレテアル。コレ等モ理學的分類トシテハ利益ガ少ナイ。

自然分類トハ天然自然ノ有様ヲ明ニスル爲メノ分類デアアル例ヘハ書物ニテ云ヘハ内容ニヨリテ之レハ算術書テアル歴史デアアルト云フ様ニ内ニカキタルコトニヨリテ分ツハ自然分類テアル人類ノ場合テ云ヘバ天然自然諸地方人類相互ノ關係ヲ明ニスルコトダ。其中類聚的自然分類トハ似タモノヲ集メルコトデ金石ニツキテハ類聚的自然分類ニヨラテハナラヌ故ニ亦金石學的分類トモ云フ。

系圖的自然分類トハ生キタモノナラハドレハドレカラ出タドレハドウ血統ヲ傳ヘルト云フコトガアル故ニ其系圖ヲ調ヘルト云フコトヲ主意トスルソレテ又動物學的自然分類トモ云フ。人類ノ場合ニハ容貌毛髮言語風俗等種々ノ点ヨリ考ヘテ系圖ヲ探ルノデアアル。

類聚的自然分類ハ人爲分類ノ如キモノテナク稍々理學的ダ併シ金石ナトハ仕方ガナイガ人類ガ皮膚ヤ容貌カ似テ居ルカラト云ツテモアテニハナラヌ他人ノソラ似ト云フコトモアリ又親子兄弟ノ間テモ違フコトガアル。唯似タモノヲ近キニ置キ似ザルモノヲ遠キニ置クガ類聚的自然分類デアアル「ブルメンパツ」ノ世界ノ人種ヲ五ツ

ニ數ヘ學ケタハ類聚的自然分類ナル。

モンゴリア人種  
 コーカサス人種  
 エチオピア人種  
 マレーイ人種  
 アメリカ人種

「ブルメンバツ」ノ分チハ其ノ時ハヨカッタノデアルガ今日ヨリ云ヘハ百年前ノ話チアル理學的研究ハ一日デモ後ノモノガ多ク知リ居ル譯故今日ニ於テ百年前ノ説ヲ受ケ繼グ用ハ無イ學問上考ヘレバ系圖調ヘノ方ガ遙カニマサツテ居ル。

今人類ヲ分ツニハ系圖的自然分類ガ一番人類學上尤モ叶ツタルモノデアル而シテ常識ヨリ類聚ニ至ル種々ノ分類方ハイツマテ論シテモイツマデ立チテモ一致スル事ハ望ミ難イ系圖的ニ至リテハイツカ必ズ一致スル希望ガアルモシ議論カアレハ必ズ一方ガ倒レルカ或ハ他ニ正シキモノガ調ヘ出サレテハナラヌ管ニ系圖的自然分類ハ學問上價值ガアルバカリテナイイツカニ歸スル樂カアル。

### 第三章 人類ノ系圖的自然分類ヲ考ヘ定ムル方法

既ニ云ヘル如ク人類ノ分類法ガ種々アル内テ系圖的自然分類法ガ尤モ人類研究ノ主意ニ叶ツテ居ルナラハ他人ノ説ヲ批評シ或ハ自説ヲ述フルニモ先ツドウシタラハソノ系圖的自然分類ガデキルカラ研究シテ置カテバナラヌ。

第一史傳ヲ調ヘルガ肝要デアル。

例ハ亞米利加大陸ノ事情カ廣ク歐洲諸國人ニ知レテカラ歐洲ヨリ大西洋ヲ横ギツテ新世界ニ移住シテ遂ニ合衆國カ出來タハ歴史ニ分ツテ居ル。又「アフリカ」ノ黑人「ネグロ」モ歐洲人ニ運レラレテ新世界ニ移住シタ故ニ土地ハ亞米利加ナレトモ歐羅巴人モ亞弗利加人モ其他ノ諸國人モ居ルコトハ歴史テ分ツテ居ル故ニ世界ノ人類ノ分布ニ付イテノ疑ヒハ史傳ニヨツテ解釋サレルコトガアル。

支那今日ノ人民ニ就テ見ルモ漢人ト滿州人ト混シテ居ルコトハ歴史ニ知レテ居ル。又亞弗利加ノ南部ヲ詮索スレハ和蘭人カ居ル雜種モアル歴史ヲ知ラズニ初メテ見タラ不思議デセウ然レハ歴史カ不思議ナラザルヲ証明シテ居ル。吾々日本人ノ中ニモ他國カラノ歸化人ハ幾ラモ混ジテ居ルハ歴史ノ物語ル通りダ。

故ニ史傳ハ人類ノ系圖ヲ調フルニ尤モ肝要ナ元素ノ一ツテアル明瞭ナ記録ガナク

トモ傳説口碑ト云フモノカアリテ隨分系圖ヲ研究スル材料トナル。モシモ全世界中諸地方ノ住民ノ太古カラ明瞭ノ歴史ガアレハセワナイコトダガ實際ニ於テ史傳ハ人類來歴小部分シカラ傳ヘナイ。史傳ハ傳フルコトガラハ精シケレモ古キコトハワカラヌ歴史口碑ニヨリテハ調ヘ難キコトハ古物遺跡ヲ調ヘルコレモ幾分ノヨリ處ニナル。ソレカラ尙外ニ肝要ナモノハ風俗習慣ヲアル風俗習慣カナゼ人類ノ系圖ヲ調ヘル據トナルカト云フニ人類ノ或ル團體ガ甲地ヨリ乙丙丁二三ノ地方ニ移住セリト假定センニ此等ノモノガ其行キタル先キニテ其風俗習慣ト云フモノハ直ニ激變シヨウカ仲ノソウテナイ故郷ノ風俗習慣ト云フモノハ必ズ殘ル一二ノ例ヲ擧ゲレバ「アメリカ」テ多ク英國人が移住シテ居ルデ其ノスルコトハ殆ンド英國人ト同シダ又「オーストラリア」モンノ通リテアルモシ全ク歴史ヲ離レテ「オウストラリア」及「アメリカ」ニ行キテ其英國人ノナスコト同シキヲ見ハ直チニ此等ノ人ハ英國ヨリ移住シタルモノテアルト推察ガテキル又「アジャ」南方ノ「ジャバ」ノ住民ノ風俗習慣ト「アフリカ」ノ東ノ「マダカスカ」ノ住民ノ風俗習慣トハヨク似テ居ル尙言語容貌体格等ノ点ヨリ調ヘテ見ルモ其本源ノ同一テアルト云フコトハワカル。只茲ニ一ツ注意スヘキハ風俗習慣ガ偶然ノ類似或ハ一致ヨリ起ルト云フコトダソ

レニハ第一交際上ノ關係ノ結果トシテ生スル例セバ漢人ト滿人ト同風俗テアル如キ類ダコレハ人種トシテ血統上ノ續キテハナク全ク交際ノ關係ダ今ハ只漢人ノ婦人ガ足ヲ縮メテ滿人ハ縮メヌ位ノ相違シカ認メラレヌ。又同様ノ情況ニヨリテ起ルコトガアル。

穴居ノ風ハ支那ノ諸地方ニモアリ獨乙ノ田舎「スペイン」ノ「グラナダ」「アフリカ」ノ北ノハヅレニモアリ「カナリイ」嶋ニモンノ跡ガアルコレ等ハ住民血統上ノ結果ヨリ起リタルデモナク又交際上ノ結果デモナイ全ク山ノ情況ニヨリ其横手ニ穴ヲホリテ住ムニ都合カ好イカラテアル。

風俗習慣ノ偶然ニ暗合スルコトモアル。

「オウストラリア」ノ土人ノ内ニ休ムキハ一方ノ足ヲ立テ一方ノ足ヲマダテ其膝ニツケル風アリ此風ハ「アフリカ」ノ「ナイル」河畔ノ土人ニモアルコレラハ偶然ノ暗合ト云ハテバナラヌ。

斯ノ如ク風俗習慣ノ一致ガ偶然ノ暗合カ交際上ノ結果カ或ハ類似ノ情況ノ結果カト判斷シテ其何レテモナク血統上ノ結果ヨリナリタルモノト云フコトカ分レハ之ヲ系圖的自然分類ノ研究ニ用テヨロシイ唯前述ノ如キコトニ注意スル所肝要テアル。

前ニ於テ風俗習慣言語等ニツイテ注意スヘキ事迄述ヘタ然ラハ如何ナル點ヲ調ヘ  
 タラ言語風俗習慣カ系圖調ヘノ根據ニナルカト云フニ今一ツノ團體カ或ル事情ニ  
 接スルキニ當リテ表面上ハ如何様ニモ變化スレモ其内部ニ至リテハ必ス舊風俗舊  
 習慣カ殘ツテ居ル之レハ吾々自身ニ就テミテワカル即西洋ト交通シテカラ次第ニ  
 其風ヲ真似テ表面ハ洋服ヲ着ケ靴ヲハケモ内部ニ矢張日本舊風カ殘テ居ル。  
 ゴット申サハ着物ニ就テモ肌ニツクモノ迄變化スルモノハ少數タ家屋モ表面西洋  
 風ヲ真似テモ臺所便所杯ニ至リテハ舊風ヲ存シテ居ル。

何事モ表面テ無ク内部ニ就テ見ルニ必ス舊慣カ殘テ居ル又大人ノスル事ハ次第ニ  
 變化スレモ子供遊ヒ等ハ變化セヌ自分ノ子供ノ時ノ遊ヒヲ其子ニ教ヘ其子ハ又其  
 子ニ教フルト云フカアタリマエデアル實用上ノ器械建築等ハ便利ヲ逐フテ變化ス  
 ルカ日用ニ遠イ裝飾ニ就テノ或ル模様ヤ或ル分子ノ配置ナトハアマリ變ラヌ  
 又踊リヲ踊ルキノ身振り足ノ運び方差ス手引ク手ノ有様等ハ必ス舊風舊慣カ殘ツ  
 テ居ル。

斯ノ如ク實用ヲハナレタル嗜好トカ慰ミナドハ多クハ舊風舊慣ニヨルモノタ故ニ  
 風俗習慣ヲ比較スルキハ表面ノ類似ノミニ意ヲ止メス内部ニ隠レタルコトニ就テ調

フレハコレノミニ重キヲ置クコトハデキヌカーツノ材料トハナル。

ソレカラ言語ノコトテアル、一休言語ハ人々カ發明シテ自分勝手ノモノヲ用イルモ  
 ノテハナイ前ノ人カラ習テ真似ルモノテアルカラ系圖的關係ヲ引ク故ニ一般ノ有  
 様ニ於テハ言語ハ系圖的關係ヲ調ヘル據ニナルケレモ次ニ述ヘル様ナ事實モアル  
 カラ餘リ重キヲ置クコトハ出來ヌ。

在亞米利加ノ「ネグロ」ハ元來ノ亞弗利加ニ行ハル、語ヲ話セシカ今デハ「チウトニツク」  
 語(歐洲人ノ語)ヲ話ス即チ人種ハ變ラザレモ言語ハ變ツタ例ノ一ツデアル。

「マダカスカル」ニ居ル「チグロ」モ元來ハ「ハンツウ」語ヲ話セシガ今日ニテハ「マダカスカル」  
 語ヲ話ス。

北海道ノ「アイヌ」ハ元來「アイヌ」語ヲ話シ今日テモ「アイヌ」語ヲ捨テタノテハナイガ退  
 ヲ日本内地ノ語ガ普通語ニ成ル傾キカアル。

コレハ變化シテシマツタト云フ例ニハデキヌガ法律教育ニ依リテ變ヘルト云フ例  
 カアル之レハ上ニ立ツモノ、仕方テ随分ヲキル「ベルジヤム」ニハ「フレミン」トテ自國  
 ノ立派ナル言語アレモ佛國風ヲ模スルノ甚ダシキ處テ皆巴里ノ風ヲ真似ル即道路  
 建築公園家屋ニ至ル迄悉ク巴里ニ模シテ之レハ巴里ノ何ンテアルアレハ巴里ノ何



ト一々形ヲトツテ其マ、ニヤツテ居ル位デ或ル時ハ公ナルコトハ佛語ヲナケレハ取上ケナイト云フ制サヘモアツタ今日ハソレ程ヲハナイガ何ニシロ佛國風ノマキハ行ハレテ居ル。

教育ヲ變ヘヨウト思ヘバ上ニ立ツ人ノ威權次第ヲ變ヘテレル故ニ言語ノミニ餘リ重キハ置ケヌガ或ル注意ヲスレハ系圖的研究ノ一材料トハナル。

更ニ注意スヘキ一二ヲ云ヘバ交際ノ結果他地方ノ語ガ入ツテ來ルト云フ事モアルシ或ル地方ノ語カ他ノ地方ノ語ト偶然ニ一致スルコトモアル。

交際ノ關係カラ輸入サレタ語ノ例ハ日本ダイヘハランプ、コップ、シヤボン、杯テアル。或ル場合ニハ同シヨウナコトカラ言葉ガ似寄ルコトカアル鳥ヤ獸ノ名稱ニハタマタマ其聲ヲ真似テ付タノガアル。黒キ鳥ヲ日本ニテ「カラス」ト云フハ其聲ニマキタノダ

英國ニテハ「クロ」ト云フ之レハ二國人民ガ血統的關係カラキタノデナイ。

一休言葉ハ餘リ長キモノハ用イ難キヲ以テナル丈ケ短カキモノヲ用フ故ニ世界ノ國語ノ内ニハ數限リナキ事物ニ名ヲ附スルカラ偶然ニ一致スルコトガアル新ラシキモノヲ日本ニテ以テ云ヒ英語ニテ「ニユウ」ト云ヒ日本ヲ斬ルト云フノト英語「キル」(殺ス)ト一致スル、コンナ類ヲ抜キダセバイクラモアル。

故ニ二國ノ間ニ語ノ類似或ハ一致ト云フノガ認めラレタルルルニコレハ借用カ聲ニヨリテツケタ名稱カ偶然ノ一致カヲ考ヘテバナラス。

通常二ツノ語ヲ比較シテ系圖的ノ關係ヲシラヘルニハ親族ノ關係名稱トカ火トカ水トカト云フ人生必要ナルモノ、名稱、わたくし、わなたナドノ代名詞、一ツ二ツト云フ數詞及ヒ耳目鼻口トカ云フ身体ノ部分ノ名稱ナドハ先ツ借用ト云フコトモ無イ筈テアルシ聲ニヨル譯モ無イカラ系圖的調ヘノ據トスルニヨキ材料ダ。

又或ル連續シタル意味ヲ明ニスル爲ニ言葉ヲナラベル方法即チ文法ヲ調ヘルノモ系圖的研究ノ材料トナル但シ前ニモ云々通り變化ノ例モアルコト故十分ノ注意ヲシナケレハナラス。

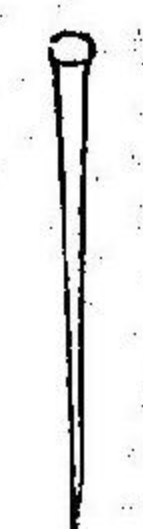
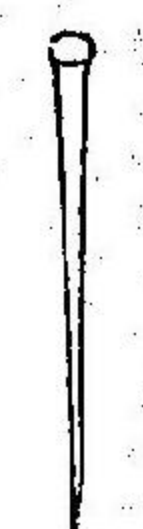






系圖調ヘノ最モ確實ノ根據トナルハ何ニカト云ヘハ身体上ノ諸性質デアル他ノ事ハ作り出スコトアリ或ハ變ルコトアレモ身体上ノ事ハ真似テ作ルコトハ出來ズ又變ルコトモ壯惡イ荷モ血統カツナガツテ居ル以上ハ體質カ遺傳シテ居ルコトハ明カダ。古クカラノ關係ヲ調ヘルニハナルタケ變化ノ少ナキモノヲ撰ハテバナラス然ラハ何ニガ身体ノ性質上ニ於テ變化ガ少ナキカト云フニ太古「エジプト」人ハ澤山ノ繪畫彫刻ヲ遺シタシ又「ミイラ」ガ存シテ居ル故ニ此繪畫ヤ彫刻ヤ「ミイラ」ニ依リテ太古ノ

「エジプト」人ハドウテアツタカト云フヲガ知レル。  
 「エジプト」人ノ繪畫ニ於テハ已ニ述ヘタル如ク人類ガ四通リニ分ケテアツテ「ネグロ」ハ黒、亞細亞ハ黄、「エジプト」人自身ハ赤、歐羅巴人ハ桃色トシテアル。  
 即古ノ「ネグロ」モ今日ノ「ネグロ」モ皮膚ノ色ハ黒クテ變リハナイ皮膚ノ色ノ如キハ比較的ニ變ラナイモノテアル今日マデモ矢張區別スルヲカ出來ル即四五千年來諸人種ノ皮膚ノ色ハ變リノ少ナキモノデアルト云フコトガワカル。  
 又頭髮ノ性質モ變ラナイ一ツデアル。  
 「ミイラ」ハ作ルキニ藥品ヲ加フルカラ皮膚ノ色ハ變テ居ルガ頭髮ハ「ミイラ」ヲ調ヘルト波狀ヲナシテ居ル。  
 今日ノコプト（耶穌教ヲ信スルモノ）フエニア（マホメットヲ信スルモノ）ハ太古ノ「エジプト」人ノ子孫テアルガ此等ノ種族ノ頭髮ハ矢張波狀ヲナシテ居ル。  
 又變化ノ見エナイノハ鼻ノ形デアアルコレモ「ミイラ」ノト現住ノ「エジプト」人ノトヲ比ヘレバ知レル。  
 以上ニヨリテ体格上變化ノ少イノハ頭髮ノ性質ト皮膚ノ色ト鼻ノ形トデアアルコトカ分カル。

人類ノ系圖調ヘテ順序ヲ立テ、云ヘハ比較的最近キ時代ハ史傳、言語、風俗、習慣ニヨリテワカルツレヨリ古キ時代ハ風俗、習慣、言語、体格ニヨリテワカリ夫レヨリ一層古キ事ハ体格上ノ調ヘノミニヨリテワカル。  
 斯ノ如キ順序ヲ以テ世界中ノ諸種族ノ關係ヲ示スコトカデキル而シテ又系圖的ニ世界中ノ人類ヲ分類セントセハ之レヲサカサマニスレバヨロシイコノ方法ニテ正シキモノハ出來ルカドウダカト云フニ此方針テユケハ假令現在ハ立派ノモノガ出來ナクトモ必ス正シキ分類ノ結果ニ到着スル望ミガアル。

#### 第四章 世界諸種族系圖的体格上ヨリ調ヘタル分類表

既ニ大別ハ体格上ノ性質ニヨリ小部分ハ其他ノ事ニヨルト云フヲハ前ニ述ベタ。  
 世界中ノ人類ヲ廣ク見渡シテ最モ古クカラ形質ヲ遺傳シテ居ル頭髮、鼻ノ形、皮膚ノ色等ニヨリテ四ツト殘リノモノトニ分ツ。  
 勿論地理學的ノ別トコノ人種別トハ一致シナイ。  
 住民身体上ノ性質、地理的分布及ヒ系統名稱ヲ表示スレハ左ノ如シ。

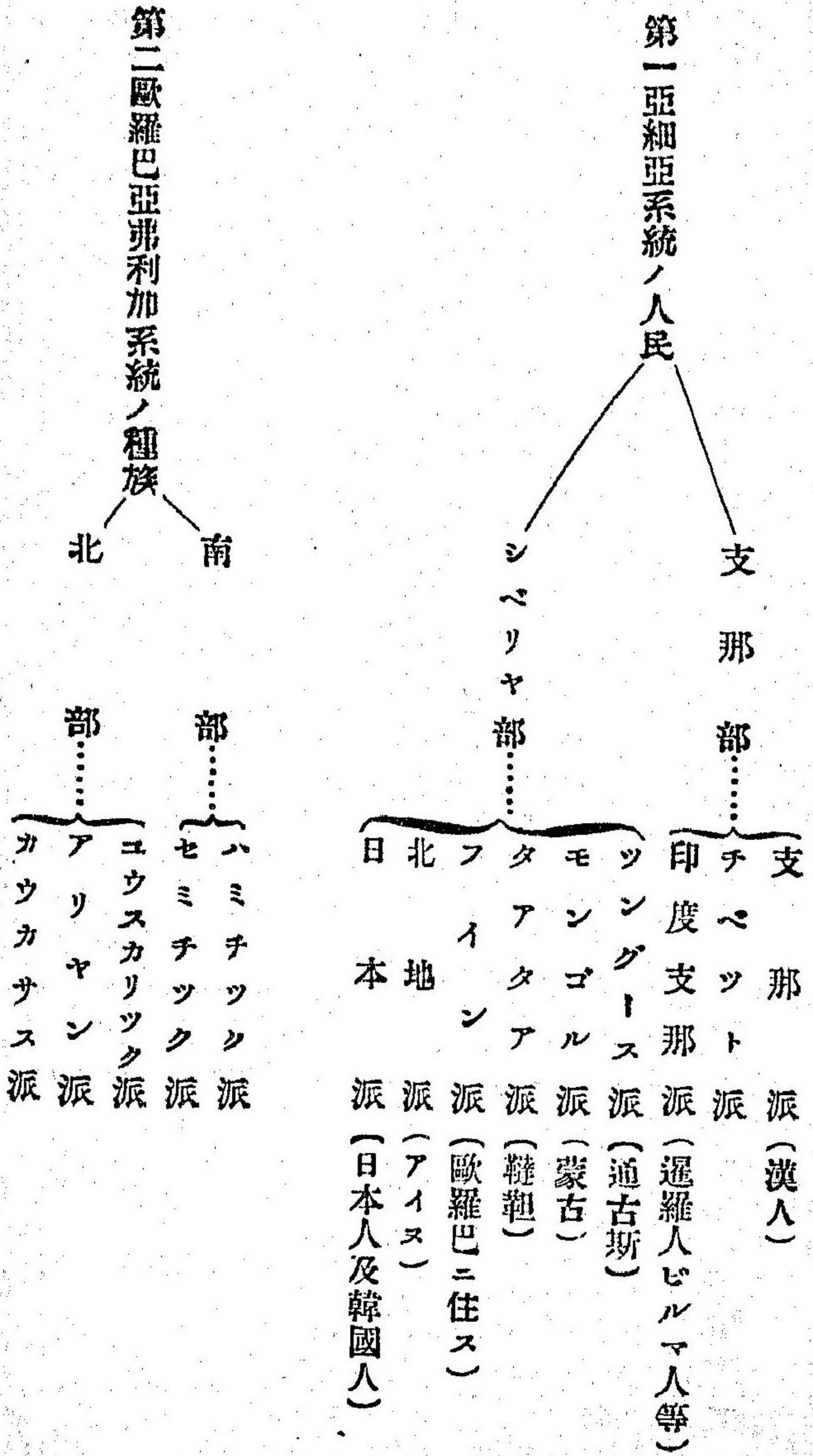
皮膚ノ色	頭	髮	鼻ノ幅	住	地	系統
(一) 主ニ黄色ヲ帶ブ			中等	亞細亞ノ大部分 歐羅巴ノ小部分	歐羅巴ノ大部分 亞非利加ノ部分 沙北アジヤノ一部	亞細亞系統ノ種族
(二) 主トシテ白イ			狭	アフリカノ大部分	アフリカノ大部分	歐羅巴ノ種族
(三) 主トシテ黒ヲ帶ブ			廣	南北アメリカ	南北アメリカ	亞非利加系統ノ種族
(四) 主トシテ銅色			中			亞米利加系統ノ種族

右ノ四類ニ入ラサル人間多々アリソレハ印度ノ一部分「オウスタラリヤ」南洋諸島馬來「フライビン」「ベンガル」海ノ諸島及ヒ「マダカスカル」ニ住メル人民ハ四類ノ内何レヘモ屬セヌ又共通ノ性質モナイ殆ント島々地方ニヨツテ少シツ、異ツテ居ル故ニ其異ル点ヲモツテ分ツキハ無數ノ系統トナル。

島々ノ住民ハ屢々他種ガ漂着シテ混ズルカラ一ツノ系統トシテ立テラレヌ故ニ四類ノ外別ニ系統ノ名ヲ附セテバナラヌ即チ之レ等ヲ海岸島嶼住民ト呼フ。

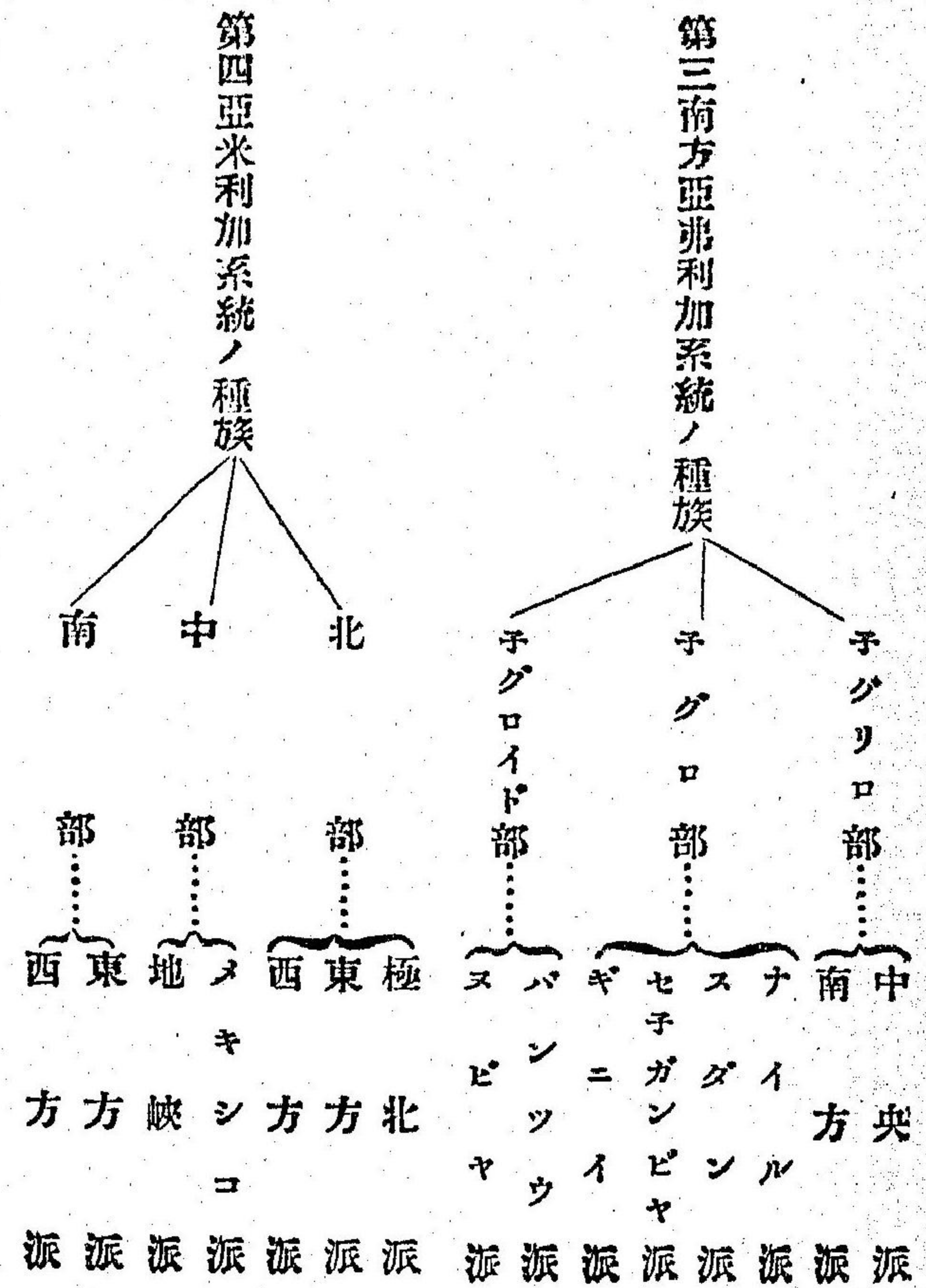
一系統中ノ人民モ風俗習慣言語史傳ニヨリテ又幾ツカニ分カタレル亞米利加ノ人

類學者「ブルトン」氏ノ說ニヨリテ表示スレバ



跡ノ殘リモノハ斯様ニ部類分ケシテ掲クルヲハデキヌ四ツハ自然ノ系統ガアル殘  
リ者ハ外ニ之レヲ示ス。

第五章 亞細亞系統ノ人民



亞細亞ノ地圖ヲ開ケハ明カニニツノ大部分ニ分レテ居ル事ガ知レル即チ西ノ方バ  
 ミルノ高原アリテ之レヨリニツノ山脈ガ群カツテ其一ハ東北ニ走リ「オコツク」海ニ  
 至リ一ツハ南東ニ走リテ「ベンガル」灣ニ至ル東北ノ山地ノ北ハ沼池多ク森林平野カ  
 大部分ヲ占メテ居ル亞細亞ハ斯ノ如ク山岳多キ地方ト少キ地方トニ分レテ居ル。  
 一休人類ノ交通ハ水ヲ隔テ、ハ比較的ニナシ易キモ山ヲ隔テ、ハ六ヶ敷イ從ツテ  
 山テ隔タレ居ル住民ハ種族ノ混シ方カ少イガ山ノ一方ニ於テハマジリ方ガ多イ例  
 ヘハ日本ニテモ四國ノ一面ハ中國ニ似タレ一方ハ似テ居ナイ。  
 亞細亞全体ハ前表ノ如クナレハ山ノ一方ト他方トニヨリテ種々ニ異ツタ点ガ見出  
 サル著シキ違ハ言語テアル山ノ多キ地方即チ西藏ノ人民ハ言語ノ種類ニテ云ヘ  
 ハ孤立語ヲ用フ(てにをば無ク各々語ノ位置ニヨリテ意味ヲ通ス)  
 山ノ多キ部分ハ孤立語デ其北ノ方ノ人ハ粘着語又ハ漆着語トテにをばヲ以テ各  
 々語ノ意ヲ明ニスル言葉ヲ使フ(てふればヲ入レテ語ノ組立ヲ明ニスルモノ)  
 日本及ヒ朝鮮ハ山ノ北方ニアアルノデハナイケレモ支那ヤ西藏ヨリモ却テ北ノ方「シ  
 ベリヤ」ノ方ニ縁ガアル。  
 先ツ順序トシテ支那部ヨリ云ヘハ支那派ノモノテ現在清國ニ住スルモノハ漢人ダ

漢人現在ノ風俗ハ滿州人ニ征服サレテ男子ハ頭ノ周圍ヲ剃リ上ダテ辨髮ヲ垂レテ服從ノ証トシタガ今ハ却テ之レヲ名譽トシテ何處へ行テモ習慣トシテカヘナイ女子ハ襟々ニ結髮スル而シテ漢人ノ風習ノ著シキハ女子ノ足ヲ布ニテ卷キ發育セザラシメ貴人富者ハ外ノ飾リニ注意スルト同時ニ足ヲ小ナラシム故ニ女子ハ成長シテモ其靴ハ日本ノ二三歳位ノ子供ニモハケヌ衣服ハ男女トモニ廣キ穿袖ノ着物ト袴トデ寒キハ綿入毛皮ヲ用フ。

支那ハ古ヨリ磁石火藥活版牧牛鑄錢等數多ノ發明ガアルケレモ古ヲ尙フ念ノ強イ爲之レヲ改良應用シ發達サセルコトニ疎イ却テ後ヨリ開ケシ歐州人ハ磁石ヲ用キテ航海シ火藥ヲ用キテ利器ヲ製シ活版ヲ改良シテ印刷業ヲ盛大ニスルナド餘程甲乙ノ相違ガ甚シイ。

今支那ニテ行ハル、運搬道具ニテ異リタルモノハ轎子ト一輪車デアアル轎子ハ椅子ノ兩方ニ棒ヲ附シテ腰ヲカケタルマ、擔ギ行クモノ一輪車ハ車カーツデ客ヤ荷物ヲノセテ二本ノカチ棒ニヨツテ後ヨリ押シ行ク様ニ出來テ居ル。

西藏ハ種々ノ點ニ於テ支那ヲ學ンテ高貴ノ人ハ支那ヨリ種々ノモノヲ取り寄セテ用フルカラ支那ト同シ風ダガ一般人民ハ皮ノ衣服テ裾長ク懷ヲ大キクフクラマセ

テ袋ノ如クニシテ其中ニ何ニカ入レル股引靴帽子ノ類モ毛皮ヲ以テ作ル男子ハ辨髮タガ支那ノ如ク長クナイ女子ハ數多ノ辨髮ヲ作リテ垂ル此處ニテハ「ヤツク」ト云フ獸ヲ養ヒ肉ヲ喰ヒ乳ヲ飲ミ皮ヲ着ル故ニ此「ヤツク」ガ彼等ノ主ナル財産テ其牧養ノ數ニヨリテ貧富ヲトスルコトガ出來ル貧者テモ二三十頭ヲ有シ富者ニ至リテハ數百乃至數千ヲ有シテ居ル男女ノ關係テハ一夫一婦モ一夫多妻モ又一妻多夫ト云フ事モアル之レハ兄弟ニテ一婦ヲ聚ルト云フ如何ニモ不思議ノ風デアアル。

印度支那部

コレハ「ビルマ」人暹羅人安南人「カンボチャ」人交趾支那人デアアル之レ等ハ互ニ似タル点ヲ有スルカラ總稱シテ印度支那ト云フ此等ノ内ノ一例トシテ暹羅人ノ元來ノ風俗ヲ語ロウ。

男ハ頭ヲ剃リテ一部分ヲ殘シ



男ノ如クシ女ハ周圍ヲ短ク切リテ一部分ヲ殘

シ女



ノ如クス男モ少シブシヨウヲスレバ女ト同シニナル暹羅テハ蓮華ノ花

ヲ賞スルヲ以テ男ハ蓮華蕾女ハ花ノ形ヲ象ツタトノ事デアアル近頃ハ西洋風ヲ真似テ男ガ散髮シ女マデモ散髮スル様ニ成ツタ。

(70)

衣服ハ元來ノ風デ云ヘハ上半分ハ裸体が常テ下半分ハ風呂敷様ノモノヲ以テ腰ノ周圍ヲ掩ヒ其一部分ヲ股ノ間ヨリ引キ上ケテ上ニハサム一寸袴ヲハイタヨウニ見ユル男女共同様テアル。

服装上男女ノ區別ノ一番ツカザルハ「エスキモー」デ其次ハ「シヤム」テアル。

又此地ノ實ニ妙ナル現象ハ上部ヲ注意スルコトデ家屋ニテ云ヘハ屋根ニ注意シ衣服ナドモ「シヤム」ノ皇帝皇后ノ御寫眞ヲ見テモ上半分ハ歐羅巴風ニ立派ニ裝飾サレテ居テ下半分ハ元來ノ風ト異ナラス上半分ハ開化シテモ下半分ニマテ届カヌト云フ様テアル。

家屋建築ニ竹ヲ用ヒルコトカ多イガ近頃高貴ノ人ハ西洋造リニ住ムモノカ多イ。シベリヤ部

「シベリヤ」部ノ人類ハ古ヨリ學者ガ考ヘテ一部類ト認メテ種々ノ名稱ヲ下シテ呼テ居ル例ヘハ「チュラニヤン」「ウラルアルタイク」「フィンノウグリツク」ナド云ヘドツマリ亞細亞ノ大部分ト歐羅巴ノ一部分トヲ含ミシ此部類ノモノ、事テアルコレニ属スルモノ、第一トシテ云フベキハ「ツングース」派ノ人民テアル此「ツングース」ハ亞細亞大陸ノ最東ノ部テ支那ノ北方ヨリ「カムチャツカ」ニ至ル迄ヲ東ノ境トシ「エニセイ」河ヲ西ノ界

トシ其間ニ廣カル人民ノ總稱テアル。

「ツングース」派ノ中ニハニツノ區別ガ認ラレル其一ハ滿洲種族デ一ハ「ツングース」種族テアル此内滿洲種族ノ住所ハ黒龍江ノ近邊テ山東省盛京省吉林省ヲ黒龍江邊ガ本源地デ段々ニ廣カリ遂ニ千六百四十四年支那ノ政權ヲ握ツタ然レモ文學上ノ關係ニ於テハ漢人ニ化セラレタ。

男子ハ滿漢共ニ同風テアルガ滿州ノ女子ハ足ヲ縮メルヲセヌ男子ハ滿漢共ニ辮髮テ女子ハ様々ノ風ニ結髮スル皮膚ノ色ハ滿州人ハ稍々漢人ヨリ白クテ体格強健テ毛深クヒゲガ多イ舉動ハ傲慢デ仕事ノ規模ハ大キイ今ハ多ク支那文字ヲ用フレモ滿州特別ノ文字カアル公ナル場合ニハ滿漢兩文体ヲ用フ滿州字ハ西曆千五百九十五年ニ蒙古字ヲマテテ制定シタ。

支那字ハ縦ニ右ヨリ左ニ讀ミ移ルケレモ滿州字ハ左ヨリ右ニ移ルノテアル。

寒キ片体ヲ暖ムルニ漢人ハオモニ衣服ニヨリ滿州人ハ衣服多ク火タキテ暖ヲ取ル。「ツングース」種族

(71)

滿州地方ヨリ北方ニ當ル地方ニ住ミ森林沼池ノ間ニ住ム滿州人ニ比シテ開化ノ度低ク不潔ノ人民ガ衣服ハ支那風テ部落ニヨリテハ肌ヲ現ハシ入墨ヲナス者ガアル。

「タルタル」人ハ「ツングース」人ヲ見テ其不潔豚ノ様テアルト云フテ付ケタ名ガ「ツングース」即豚ト云フ意ツノ名稱カ今日ニ用イラレテ居ル「タルタル」人モヒドク不潔ダソレガ又不潔ト云フ位ダカラ随分ヒドイ此人民ハ外ノ地方ノモノニ比フレハ目ト耳トノ力ガ強イ原野ニ出テ、牧畜スル結果デアロウ住ム處ニヨリテ「ツングース」ニモ異カアル即住ミ場所ニヨリテ部類分ケヲナス森ニ住ム「ツングース」ト原野ニ住ム「ツングース」トノ二ツニ分ツ。

森ノ「ツングース」ハ凡テ歩スルニモ物ヲ運フニモ已レノ足ニヨルケレ原野ノ「ツングース」中ニハ馬ヲ用フルモノガアル之レヲ馬ノ「ツングース」ト云フ或ル部分デハ馴鹿ヲ用フ之レヲ馴鹿「ツングース」ト云フ或ル部分テハ犬ヲ用フ之レヲ犬ノ「ツングース」ト云フ以前ハ獨立デアツタガ西暦千六百五十六年露西亞ノ領地トナツテカラ其本土ニ勞働シテ居ル。

支那デハ地方ニヨリテ異ルヲ認メテ三ツニ分ツ即斷毛子、長毛子、魚皮套子ト云フ一體ニ開化ノ度ハ低イ。

「シベリヤ」部ノ第二ノモノハ蒙古派ノモノデ此人民ノ本源地ハ「アルタイ」山ノ南滿州ノ西デ之レヨリ處々ヘ分レタモノデ古ハ「バイカル」(アルタイ山ノ南)邊ヨリ廣ガツテ猶

進ンデ「ツタルガ」ノ海岸マテ蔓ツタ。

「ツタルガ」邊ニ住イタ人民ハ「カルマク」ト云ヒテ蒙古ノ分レデアル此人民ハ或ル時代ニ於テハ有力ノモノデアツタカ今日ハ勢力ナキモノトナツタ接シタル場所ニヨリテ氣風カチガウ北方ニ居ルモノハ勇悍デ猜忌ノ念ナキモ南方ノ漢人ト交ルモノハ性質變シテ狡猾デアル此蒙古人ノ現在ノ風俗ハ衣服ハ支那ノ服裝ト同シク男ハ古ヨリ辮髮デアル娘ハ數條ノ辮髮ヲ作ツテ頭ノ周圍ニ垂レ夫ノアル婦人ハ髮ヲ一總ニシテ大ナル辮髮トスル。

牧畜ノ民ト農民トノ二ツニ分レテ居ル農民ハ定住スル爲メ家屋ヲ建テ、住ムカ牧畜ノ民ハ水草ヲ逐フテ移ルカラ帳幕ノ内ニ住ム。

亞細亞系統ノ分チハ第二シベリヤ部テ一二ガ已ニ終ツタ。  
三、タアア派(韃靼)ノ人民

此ノ人民ノモトハ「バミール」高原ノ北「ベルシヤ」ノ近傍「タルキスタン」地方デ以前ハ勢力ノアツタ人民テ、或ル時代ハ歐羅巴地方ノ「アリアン」人及支那人モ困シメラレタガ、今日ハ一般ニ勢力ナキモ現ニ「トルコ」帝國ヲ建設シテ其主權ヲ握ツテ居ル。

「トルコ」ハ亞細亞ト歐羅巴ノ境デ住民ハ兩地ニ混シテ「アラビヤ」人、「ギリシヤ」人、「サルカ

シヤ人「アルメニヤ」人等モ居ル「トルコ」人ト云フ者ノ純粹テナク雜種ダ其雜リモノ、主ナルモノハ「サルカシヤ」人「シヨルジヤ」人「ギリシヤ」人「アルバニヤ」人等デアアル此ノ人民ハ諸地方ヨリ美人ヲ撰ヒテツレテ來テ妻妾ニスルカラ自然雜種テ人種ハ異ナルガ言語ハ一系統テ以前カラ「タア」語ガノコツテ居ルソコデ「トルキスタン」ト全ク同シデハナイガ幾分カ其形跡カアル。

衣服ハ窄袖テ男女共ニ裁テ付ケ袴ノ様ナモノヲ穿イテ居ル。

露西亞ノ「コサツク」兵ト云フモノ、主ナル住地ハ黑海ト裏海トノ間「ドン」河ノ邊テアル半開ノモノデ此種族ハ「タアタア」ノ分レデアアル今「コサツク」ノ居ル處ハ古ヨリ此ノ如キ半開ノモノ、住ンダテナイ其証跡ハ堀出ス古物ニ黃銅及青銅ノ道具ナドガアル。開化ノ度ハ低イカナカ「キツクテ屢々露國ニ背キ租稅ヲ納メザル」カアル。

#### 四、フィン派ノ人民

此部類ニ屬スルモノハ多々アレ「フィン」及「ラツプ」ガ此部類ニ入ル。住スル土地ハ歐羅巴ノ北方デ「ラツプ」ノ居ル處ヲ「ラツプランド」ト云ヒ「フィン」ノ居ル處ヲ「フィンランド」ト云ツテ居ル通常「フィンランド」人「ラツプランド」人ト云フガコレハ余計ナ話シテ「フィン」又ハ「ラツプ」ト云ヘバヨイ。

兩方トモ体格上ノ性質ハ似テ居ルガ「フィン」ハ日本人位ノ大サ「ラツプ」ハ夫ヨリ低イ開化ノ度ヲ云ヘバ「フィン」ヨリ「ラツプ」ハ劣ツテ居ル。

服裝ハ「フィン」ハ歐羅巴風デ髪ヤ頭ハ皆「ヨーロッパ」風ダ。「ラツプ」ハ毛皮テ窄袖股引ヲ作り四角ナ帽ヲ被ル。

何レニモ迷信ハアルモノテ「ヨーロッパ」ニモ迷信家ガアル英吉利ノ氷夫ナドハ「ラツプ」ハマジナイカ上手ダカラトテ之ニ錢ヲ與ヘテ風ヲ買フト云フ「ラツプ」ト云フ名ハ瑞典ノ語テ魔法遣ヒト云フ意ダ。

「ラツプ」ハ馴鹿ヲ養ヒテ荷物ヲ運搬シ又其肉ヲ食シ又乳ヲ搾リテ呑ミ又「バター」ヲ作ル。「ラツプ」ハ人口二萬七千バカリ。「フィン」ハソレヨリスクナイ。

#### 五、北地派

之レハ色々例カアルガ一二ヲ擧ケンニ

「アシヤ」ノ東北ノハヅレニ居ル未開種族テ「チクチ」ト云フ種族カ此部類ニ入ル。未開テ男女共ニ髪ヲ垂レ時トシテハノビタル髪ノ端ヲタバチル「カアル」。

衣服ハ毛皮ノ窄袖股引デ平生ノ仕事トシテハ馴鹿ヲカヒ鯨其他ノ海獸ヲトル。

婦人ハ顔ニ入レ墨ヲナシ男ハ海獸ノ牙デ「スタッド」鼓ボタンヲ造リ唇ニ穴ヲアケテ



飾トスルコトガアツタガ今日ハ廢レタ。

「チクチ」ノ風俗ハ種々ノ点ニ於テ「エスキモ」ニ似テ居ル然シ体格上ノ調ヲナセハ「チクチ」ハ「エスキモ」ヨリハ黒ミガ少ナイ即チ皮膚ノ上ニ於テ異ナル点カアル頭ノ形ハ「エスキモ」ハ丸ク「チクチ」ハ狭イ言語モ異ナル。

「チクチ」ハ開化ノ低キモノデ今日ハ露國ニ變ツテ來タガ元來ノ有様ヲ云ヘハ石器時代ノ人民ダ。

「カムチャツカ」地方ニモ一種未開ノ人種カ住テ居ル「チクチ」ハ人口一萬二千位アル此ノ如キモノハ早ク調ヘナケレバ亡滅ノ心配ガアル又黒龍江ノ近邊ニ「ギリアイク」ト云フ未開人民ガアル。

六、アイヌ

「アイヌ」種族ハ人類學的ニ研究スレハ甚ダオモシロイガ學說カ未タ定ラヌ。

充分研究ノ進マザル内ハ何レニ入ルヘキカハ確定デキヌガ姑ク地理ト言語上ノ關係カラコノトコロニ置ク私一個ノ考テハ海岸島嶼人民ノ「ドラビリアン」ノ人種ニ近カラシカト思フ。

「アイヌ」ハ北海道ニノミ住スレハ以前ハ日本内地ニ廣ク住ンテ居タノデアアル人口ハ

一萬七千位。

「アイヌ」ト云フハ彼等ノ言葉ニテ人類ト云フ意テアル彼レ自身ニハ自分等ノ同類ヲ何ト云ヒ居ルカト云フニ「アイライナラックグル」ト云フ又古老ノ傳ヘルニヨレバ「カイ」トモ云フタトノ事「アイライナラックグル」トハ其祖先ハ「アイライナ」ト云ヘル人テ其人ニ緣故アルモノト云フ意デ斯ク云フノテアル。

体格上ノ性質ニツキテ尤モ自立ツハ毛深キコトデ女テモ年取ツタ者ニハヒゲカアル男子ハヒゲガ多イバカリデナク胸ノ邊ニモ毛ガ多イ甚イモノハ胸ノ毛カ一尺位モアル背中ニモ一面ニ毛カアル悉ク然リト云フニハアラチド一体ニ多イ「アイヌ」ハ性質温和テ柔順ナレハ惡シキ方ヨリ云ヘハ身屈テ「進歩」ノ氣象ガ乏イ婦人ハ殊ニ内氣ヲ知ラヌ人ニハ逢ハヌ始メテノ人ニハ首ヲタレテ顔ヲ合サナイ男子モ女子モ髮ノ毛ヲ肩ノ邊テ切ル。

古ヨリノ風俗テハ男子ハ額ノハヘギハヨリ指二本ヲ横ニツケタダケ剃リ込シテテアル男女共耳ニ穴ヲ穿チテ輪ヲハメ女子ハ口ノ周圍手ノ甲ニ入墨ヲナシテ裝飾トスル。

入墨ヲスルニハ「マキリ」ト云ヘル小刀ヲ肌ニ疵ヲ附ケ鍋ニ「タモノキ」ノ皮ヲ入レ樺ノ

皮ヲ焚キテ「アク」ヲ出シ其「アク」ヲ切口ヨリ出ツル血ヲ止メ其鍋底ニ附着シタ墨ヲスリコム内地人ハ通例入墨ノアルモノハ夫ヲモチシ証ト思ヒ居レド左ニアラス實ハ幼少ノキヨリ施シテ出來上ル頃ハ成人ニ違シテ夫ヲモツテモヨキトキトナルノダ、嘗テ政府ハ明治十四年ニ之ヲ禁シタガイマダニ止マヌ入墨ヲシテ甚シキハ氣絶スルコトカアルソウスルト水ヲ吹キカケテ氣ヲ付ケシム何故ニカクノ如キ苦痛ヲ忍メテ入墨スルカト云ヘハ死ンタキアノ世デ父母ニ逢フタキモシ入墨ガナケレハ「アイヌ」ト認メテクレヌカラスルノダト云ツテ居ル。

女ノ裝飾ニ「レクツンベ」ト云フモノガアル之レハ首ニ結ヒ着ケルモノデアアル又祭りヤ儀式ノ片ナドハ念珠ノ如キ球ヲ連テタルモノヲ首ニカケ胸ノ邊マデ垂ラスコレヲ「タマサイ」ト云フ胸ノ邊ニ當ル處ニ大キナモノヲツケル之レヲ「シトキ」ト云フコレハ錢カアレバソレヲツケルト云フコトダガ概テ内地人カラ貰ウタ刀ノ鏝或ハ梳ノ蓋ナドヲツケテ居ル而シテコノ飾ニスルガラス玉ハ大陸カラ持チ來タサレルノデ樺太テ交換シタノガ再ビ内地人ノ手ニ入ルトコロカラ内地人ハ之ヲ樺太玉ト云ツテ居ル。

又男子カ儀式ノ時ハ頭ニ木ノ皮デ一種ノ鉢巻、如キモノヲナス其上ニ飽屑ノ如キモノヲマキ其端ヲ頭ノ後ヘ出シ前額ニ熊ノ首杯ヲ木テ刻ンダモノヲツケルコレヲ「サバウンベ」ト云フ。

衣服ハ「ニレ」ノ木(土人ハ「アツ」ト云フ)ノ皮ヲ剝ギテ水ニ晒シ細クサケハ麻ノ如キ纖維トナル其レヲ簡單ノ織具ニカケテ織リタルハ「アットシ」(Atheshi)ト云ヒ之デ仕立テタ衣服ヲ「アミ」ト云フ仕立方ハ大概内地ニ似テ居ルカ但ソデラソイテオクミナキガ違フトコロコレヲ左前ニ着テ細キ帶ヲシメル布ニハ模様ヲ染メルト云フコトナク只原料ヲ赤ク染ムルヲガアルソレハ「ハマナス」ノ根ヲ以テ染メル若シ内地人ヨリ木綿絲ヲ得レハ之ヲ意匠ヲ凝ラシタ模様ヲ縫フ女子ハ「モール」ト云フ一種ノ下着ヲ着ルコトカアルコレハ筒袖ヲ前カ續イテ居テ上ニ頭ヲ通ス穴ガ開ケテアル。

儀式ノ時ハ内地人ヨリ貰ツタ金絲杯ノ縫ノアル古キ衣服ヲキル。  
平常ハ履キ物ナクハダシデ雪ノフル時ニハ熊ノ皮テツクツタ靴ヲハク。  
食物ハ元來ノ常食ハ「ウバユリ」(アイヌノ言葉ニ「テハトレ」ト云フ)ノ根ヲ取り澱粉ヲ製シテ食スル肉食トシテハ熊鹿、雉等ヲ食ス嗜好品ハ酒テ之ヲ飲ムニハソレノ儀式カアツテ内地人ノ如ク疎畧テナイ先ツ椀ニ酒ヲツギ其上ニ「イクバスイ」ト名ツクル筥ヲ横ヘノセコレデ酒ヲカキマハス様ニシテ巳ノ信スル神ニ捧ゲテ禮畢テ「イクバスイ」テヒダラ上

ケロヲ枕ニツケテ呑ム、コノ神ニ捧ルハ自分ノ家テアレハ家内安全ヲ祈リ、客ニ行ケハ其家ノ無事ヲ祈リ、遠方ニ行ク人ニ招レテ呑ムキハ其人ノ健康ヲ祈ルノテアル。家屋ハ小屋掛ヲ四角形ニ作ル四本柱ノ先ハ幾分カ中心ノ方ニカタヨル、室内ノ一隅ニハ寢臺ノ様ナ構造カアル此所ニハ夫婦カ寢ル他ノモノハ客テモ何テモ土間ニ籠ヲ敷テ其上ニ寢ル、息子ガ婦ヲ娶レハ別家スル。

七日本派 之レハ日本人ト韓國人ヲ含ム

一休吾々日本種族ト云フモノハ元來混シタルモノデ、ゴク純粹ナモノテハナイ歴史ニヨルモ學問的ニ他ノ方面カラシラベテモ混合ノ事實カアル、公平ニ判斷スレハ容貌、体格ニツキテモ異ナルモノガアル、皮膚ノ色モ白キ人モアリ、褐色ノモノモアル、又髭鬚ノナキ人モアリアル人ハ剃リテモ直ニハヘルト云フ毛深キ人モアル。

世ノ人類學者ノ中ニハ目ノ形ヤ鼻ノ形ニツイテ調ヘテ居ルガ髭鬚ニツイテ調ヘタ人カナイ、一休西洋人ハ自分ニ髭鬚ガアルカラ當リマヘトシテ氣付カヌニヤ、然レモ吾々人類學的ニ調ヘレハ頭ノ丸キ人モアリ、長キ人モアリ、又髪ノ毛モ直クナルアリ、少シク波狀ヲナスモアル是等カラシテ混交合子ノ考ヘカ立テラレル通りヒゲノ有無モ調査ノ材料トナル。

尙深ク研究スルニ風俗習慣ノ上ニハ「マレイ」風ヲ存シ又古物遺跡等ニハ直接ニ間接ニ朝鮮ノ影響ヲ受ケタトミルベキモノカアル、又日本ノ歴史ハ古ノ記憶強キ人ニヨリテ傳ヘラレ後ニ之レヲ録シテ今日ニ殘サレタト云フノテアルガ長キ間ノコトヲ間違無ク記憶シタトハ考ヘ難イ、吾々ハ此等ヲ離レテ人類學的ニ研究スルモノデアル、モシ正シケレハ両方カ一致セテハナラヌ、現在ノ學問上ニ就テシラベタ結果日本人ノ容貌ニハ朝鮮人ヤ「マレイ」人ヤ「アイヌ」ニ似タモノカイクラモアル、現在日本人ガ「マレイ」ニ行キテ彼ノ衣服ヲ着ケテ居ル處ヲミレバ「マレイ」人ソノマヽノモノガアル、兎ニ角吾々日本種族ノ中ニハ少ナクトモ朝鮮種族「アイヌ」種族「マレイ」種族ノ雜リテ居ルハ疑フヘカラザル事實テアル而シテ其種族ハ漸々雜リタルモノデアロウ。

古物ノ調査ヲスレハ古代日本ノ地ニハ吾々祖先ト「アイヌ」バカテナク外ニ石器時代ノ人民ノ住セシハ明カダ。

石器時代人民ノ容貌ハ彼等ノ遺シタ土偶ニヨリテミルニ丸顔テ髭鬚カナイ、現今ノ日本人中ニモ殊ニヨルト石器時代ノ雜リ物ガ殘リ居ルカモ知レヌ、又南洋諸島ノ人民ノ雜リ物カ混ジテ居リハシナイカノ疑カアル、小説芝居ハ見ルモノヲシテサモンウト想像セシムルヲ趣向トスルモノナルニ般頭ノ容貌ヲ作ルニ顔ヲ赤クシ毛ヲ赤

イラカスヲ以テ見レバ恐ラク南洋人ノ海岸ニ漂着シテ船子ヲ業トスルモノ、容貌  
 デアロウカ表面ノ玄關座敷等表立テタル變化ノ多キ處ヲノゾキ陰レタル處即チ臺  
 所便所等ヲ見ルニ「マレイ」風デアアル又古代ノ服裝ヲ知り又古代ノ風俗ヲ知ルニハ塚  
 ノ周圍ヨリ出ツル埴輪土偶ヲ調ヘルニ越シタコトハナイガソレニヨルト耳ノ外縁  
 ニ多クノ飾リヲ付ケタノガアル又大キナいも貝ノ輪切リデ拵エタ腕輪モ古墳カラ  
 出ル是等皆「マレイ」風デアアル又日本發見ノ青銅劍モ「マレイ」ノ鉄劍ニ似テ居ル。  
 農家ノ造リ方及神社ノ建築ハ「マレイ」風ニヨク似テ居ル又日本今日ノ床ノ間ハ次第  
 ニ用力變シタガ「マレイ」地方ニハ實際ニ之レニ類スル構造ガアツテ眞ニ寢ル所即床  
 ノ間トシテ居ル。

裝飾ノ模様踊等ノ嗜好ニハ古風ガ殘ツテ居ルモノデアアルガ手ヲフリ又足ヲハコバ  
 スニ滑ル様ナ踊リ方ハ「マレイ」風デアアル。

近頃氣付キタコトデオモシロキ「マレイ」ガアル吾々種族ノ古墳ノ内ヨリ出ツル祝部土器  
 トモ違ヒ貝塚土器ニモ属セサル土器ガ東京本郷彌生町ヨリ發見シタ假リニ之レヲ  
 彌生式ノ土器ト名ヅケタ此形式ノ土器ハ丸イ赤燒テ此形式ノ燒方ガ「マレイ」土器ノ  
 燒キ方ト同シデアアル土器ノ形式カ熱キ處ト寒キ處トニヨツテ異ナル熱帶地方ノ土

器ハ丸イソレハ「マレイ」ヤシ等ノ大ナル丸キモノヲ見テ居ルカラ自然ト其レニ摸シ  
 テ丸キモノヲ作ル寒キ處ノ土器ハ植物ノ莖ヤ根ヲアングル如キモノヲ摸シテ作  
 ルノデ自然繩ヲ結び付ケタル如キ土器ガ彌生式ノ土器ハ吾々祖先ガ平生用ヒシモ  
 ノデアアルカモシレヌ又朝鮮ニ似タル点ハ只ニ容貌体格ノミナラス吾々祖先ノ殘シ  
 タル色々ノ器物(曲玉管玉祝部ノ類)ノ点ニ於テ朝鮮ニ似テ居ルカラ比較シテミレバ  
 考ヘカ付ク然ルニ日本ハ古墳ノ研究ハ進ンテ居ルガ其比較セントスル朝鮮ノ古墳  
 ヲ調ヘルコトガマダ十分テナイノハ遺憾デアアル一休朝鮮ハ塚ヲ發クナドハ大禁デ  
 デキヌ故ニ朝鮮ヲ旅行シテ其途中ニテ耕作ノ片堀出シタル處ヘ逢着シテデモ調ヘ  
 タイ前述ノ如ク日本種族ハ多種ノ混合ト思ハル、シカシ此ノ雜リト云フ「マレイ」ハ決シ  
 テワルクナイ色々アルカラ或ル者ハ或ル「マレイ」ニ適シ他ノモノハ又他ノ或ル「マレイ」ニ適ス  
 モシヒロク世界ニ向ツテ事ヲナサンニハ極メテ有望デアアル四方八面世界ニ向ツテ  
 廣カリ易ク又如何ナル寒暑ニモ堪ヘ得ル性質ガアル。

物理的ニ一方「マレイ」一方「アイヌ」ト混合シタテナク化學的ニ打チ混シタ一團トシテ  
 一系統ヲナスモノダカラ散漫ノ憂ナク實ニ能ク密接シテ統一サレテ居ル故ニ世界  
 ニ雄飛スルニハドシクイロク「マレイ」モノ「アイヌ」モノ「化學的ニ化合セシメ世界優勢ノ位置ヲ占

メルガヨロシイ雜リモノガアルト云フノヲ何カ惡イコトノ様ニ考ヘテ居ル人カアルガ無益ノ心配デアル。

韓國人モ幾分カ雜種ノ方ダカ日本人ノ如クテナイ体格ハ日本人ヨリ筋肉モ發達シテ大キク顔ハ卵形ヲ稍細長ク男子ハ目尻ガ少シク上リタルガ如ク見ユ之レハ生レツキニアラデ目尻ノ上リタルハ形ノ凜々シク見ユルト云フ風習カアルカラ俳優ノ如ク馬ノ尾ニテアミタル鉢巻ヲ強クマキテ目尻ノ上ル様ニスルノダ。

足ハ先キノ尖リタル靴ヲ尊ンテハタカラ第二趾ハ第一ノ拇趾ト第三趾トノ上ニ重リテツボミ足ノ甲ガ高クナツテ居ル故ニ通常ノ靴ハ穿キ難イ。

口ハヘノ字ナリテ少シカナシダナヨワイヤウナ風ニ見ユル。

男子ハ獨身ノ間ハ髮ヲノバシテ真中ヨリ分ケテ後ニテ結ビテサゲ妻ヲ娶レハ結髮スル女子ハ真中ヨリ分ケテ垂レル。朝鮮ノ大人ト小供ト云フコトニ面白キコトカアル即チ妻ヲ娶ラキハイツマデモ子供扱ヒニサレテ年ガ少クテモ妻カアレバ大人ノ髮ノ風ヲシテ大人ノ様ニ扱ハレル故ニ朝鮮ハ年ノ少キ大人ト年ノ多キ子供トガアル。斯カル譯故朝鮮ニハ早婚ガ甚ダ盛ダ故ニ之レヲ改メントスレテ結髮ノ如何ニヨツテ輕重ノ差ヲ生ズルト云フ傾キガアルカラ中ノ改ラヌ。

衣服ハユルキ筒袖トダブシタル袴トデアル女子ノ衣ハ胸ノ邊シカナイ其下ハ長イ裳ヲ着ケル。

家屋ハ其構造種々アレト積ミテ壁ヲ作り内部ハ一段高キ處ヲ作りテ其下ニ焚火ノ烟ヲ通スヨウニシテ寒中暖ヲ取ル家根ハ瓦葺又ハ茅葺キデアル。

## 第六章 歐羅巴亞弗利加系統ノ種族

此種族ニ通ズル性質ハ皮膚ハ白ク毛髮ハ波狀ヲ鼻ノ幅ハ狹イ如何ニシテ歐羅巴亞弗利加系統ノ種族ト名ヲ附ケタカト云フニ今日デハ廣クヒロガリシモ歴史ヲ溯リテ調ヘテ古ヘ如何ナル處ニ住セシカト云フニ一番古キハ亞弗利加ノ北方ヲ其次ハ「ヨーロッパ」次ハ「アジア」デアル。三大陸ニ關係アレト深キハ「ヨーロッパ」「アフリカ」ダカラ歐羅巴亞弗利加系統ノ種族ト稱フ而シテコノ邊ニアルモノハ誰ガ調ヘテモ縁故多キユエ或ル學者ハ「カウカシアン」ト名ツケ或ル學者ハ「ジャベチツク」ト名ツケ又或學者ハ「ヨーロッパ」ト名ツケテ一團體トシタ。

歐羅巴亞弗利加系統ノ種族ニ四ツノ形式ガアル而シテコノ形式カ地方ヲ限リテトノ地方トノ地方ト云フデナク打混シテ居ル。

一皮膚ノ色白ク身ノ丈ケ高ク目ノ虹彩ガ薄青色或ハ灰色テ髪ノ毛ハ黄色ニ赤ミヲ帶ヒ男ハ「ヒグ」カ澤山ニハ顔ガ卵形デアルコノ性質ヲ備ヘタル種族ヲ「リビヨ」チエウトン」形式ト云フ斯ク云フモノハ何處ニ一番多クアルカト云フト「スカンデナビヤ」ノ地方獨乙及亞弗利加ノ北ノ「モロッコ」「アルゼリア」地方ニ居ル。

二身ノ丈ケ高ク皮膚ハ稍々黄色ヲ帶ビ髪ノ毛カ赤ク顔ノ幅ガ廣イコレヲ「シムプリ」形式ト云フ此形式ノ多ク見出サルハ「スコットランド」ノ北方ノ山間ダゴノ「シムプリ」ハ「ベルジヤム」ニ古ヘ此形式ヲ備ヘタ人民カ住テ居テ之レヲ「シムプリ」ト云フヨリ來タノダ。

三身ノ丈ケ低ク髪ノ毛ト虹彩トハ共ニ濃キ茶褐色テ皮膚ハ稍々茶色ヲ帶ブコレヲ「ケルト」形式ト云フコレハ各地方ニ住スレモ多ク居ルハ「スコットランド」ト「アイルランド」トノ一部分「ウエールス」ノ諸地方「フランス」ト「ベルジヤム」ト「スウィチヤールランド」ノ一部分四身ノ丈ケ中等毛髪ト虹彩トハ黒ク皮膚モ稍々黒味ヲ帶フ之ヲ「バスク」形式ト云フ殊ニ「スペイン」ニ居ル「バスク」ノ間ニ多イ。

歐羅巴亞弗利加系統ニ通スル性質ヲ具フル外ニコノ四個ノ形式ガアルドノ地方ニモ雜リテ居ル而シテ夫々ノ形式ノモノハ各地住民百分ノ八十テアトノ二十ハ他ノ

形式ダ。

此ノ妙ニ四ノ形式ノ混雜シテ居ルハ「ヨーロッパ」「アフリカ」系統丈ケニ限ル唯ニ一地方ニ於テ様々ノ形式ノアルバカデナク一家族内ノ兄弟ノ内ニモ此形式ガ異ツテ居ル恐クハ初メ別々テアツテソレガ雜婚ノ結果斯ク成ツタノテアロウト思フ、兎ニ角他ノ系統ニナキ類例テアル。

歐羅巴亞弗利加ノ人民ハ位置ニヨリテ丁度二ツノ大ナル部分ニ分タル、恰モ亞細亞カ山岳部ト平原部トニテ分タルガ如ク地中海ニヨリテ南部北部ニ分タル、南部ニ屬スルモノハ「セミチツク」派ト「ハミチツク」派トニ分タル。風俗言語習慣体格等ヲ以テ見レハ明カニ二ツノ團體ニ分ルナゼ「ハミチツク」「セミチツク」ト名ヲ附セシカト云フニ「ノア」ノ子ニ「ジャベス」「セム」「ハム」ノ三人アリ其ノ「セム」「ハム」ノ子孫ガ繁殖シタト云フ、創世記ノ傳ヘヨ信シテ唱ヘ出シタノデアアルガ此名ヲ用ヒルモノカ必シモ此說ヲ信スルト云フ譯デハナイ、學問上カラミテモ恰モ兄弟關係ノ如クテ緣故ノ近イ團體トシテ斯ク唱フルト見テ差支ガナイ。

「ハミチツク」派ニ屬スルモノハ小別ヲ云ヘハ第一「リビヤ」人第二埃及人第三東方「アフリカ」人、先ヅ「リビヤ」人ノコトヲ云ヒマセウ。

人ニヨリテ此邊ニ住スルモノヲ「ムア」ト稱スレモ「ムア」ト云フハ「マホメット」教ヲ信シテ居ルモノ、云フ名デ種族ノ名デナイ。故ニ人種ノ別ニ用フヘキ言葉テナイ。又此邊ノ地ヲ「バルバリー」ト云フ。コレハコノ人民ヲ總稱シテ「ベルベル」ト云フ。デ此人ノ住ム處ヨリ「バルバリー」ト云フ此種族ハ嘗テ「カナリ」地方ニモ居タガ今ハ絶滅シタ。此邊ニ住スル重ナル種族ハ「リビヤチュウトン」式テアル以前ハ盛ナリシガ今ハ進歩ヲ止メラレテ未開ノ境界ニ居ル。埃及ノ盛ナリシ頃埃及ノ繪畫彫刻等ニ隣國「リビヤ」人ト戰ツタコトヲ傳ヘテアル。兎ニ角「リビヤ」人ハ埃及ノ合ヒ手ヲスル位ノ人民デアツタ。埃及ノ記録ニ西曆紀元前千四百年頃ニ「リビヤ」人ヲ討チ負カシタ事カ載ツテ居テ其時ノ分捕品トシテ掲ゲテアルハ馬、馬車、金銀銅ノ細工モノ、刀、劍、鎧、剃刀等ガアル。コレニヨリテ其開明ノ度モワカル。後埃及ニ壓制サレ又他ノ國ニ征服サレ追々ト衰ヘテ來タ。

埃及人ハ「リビヤ」人ヲ總稱シテ「ナバウット」ト名ツケタ之レハ九張ノ弓ト云フ意テアル。羅馬人ハ「リビヤ」人ノ事ヲ「クインクイジエンテス」ト云ツタ之レハ五ツノ人民ト云フ意。「アラビヤ」人ハ「リビヤ」人ノ一ヲ「カバイル」ト云フ之レハ聯邦ト云フ意デアアル。何レモ數多クノ部落ノモノガ團結スルト云フコトヲ意味スル。

現在ノ有様ヲ云ヘバ男ノ風ハ頭髮ヲ短ク斷ツテ布ヲ卷キ付ケ女ハ髮ヲノバシテ居ル衣服ハ男女共ニ裾ガ長イ。

食物ハ「パン」ト菓物デ肉ハ奢リトシテタマニ喰フ。

住居ハ様々デアアル或ハ石ヲ積ミ土ヲ塗リテ作ルモノアリ或ハ石ヲ積ミ上ケ平ナ石ヲ屋根トナスアリ或ハ野原ニ天幕ヲ張ルコトアリ或ハ穴居モアル之レハ殊ニ「チエニス」ニ澤山アル。

此人民ハ主トシテ牧畜ト獸獵ヲスル一種ノ文字ヲ有スレモ之ヲ慰ミニ用フルニ過ギヌコレヲ發達サセテ實用上ニシヨウト云フ考ガナイ。

#### 埃及人

之レハ「ナイル」ノ岸ニ住スルモノデ今日テハ埃及國ハ様々ノ國人カ入り込ミテ純然タル埃及人ノミデナイ。

耶蘇ヲ信スル者ヲ「コプト」ト云フ社會ノ階級ハ比較的上位置デアアル。「マホメット」教ヲ奉スル者ヲ「フエラー」ト云フ。コレハ主トシテ勞働者デアアル。「コプト」ハダンク、歐羅巴風ニ化スガ「フエラー」ヲ見レバ古風カアル。

衣服ハ木綿ノ「シャツ」ノ如キモノテ裾長ク小數ノモノハ股引ヲハク頭ニハ赤キ帽子

ヲ戴キ其上ニ布ヲキリ、マキツケテ居ル。  
婦人モ衣服ハ同シ様ダガ別ニ木綿ノ袴ヲ穿テ外へ出ツルキハ覆面スル。  
食物ハ「パン」牛乳野菜、鹽魚ヲ獸肉類ハ食フコトガ少イ。

埃及ニハ平屋モアルガ二階三階モアル。下層ハ狭クテ上層ニ行クニ從テ廣イ屋根ハ平ラデ傾キカナイ。之レハ雨カ少ナイ處ダカラ勾配ガイラヌ爲デア。壁ハ石或ハ粗造ノ煉瓦ヲ用ヒテ積ミ上グ。貧民ハ土ヲ積ミ上ケテ其内ニ住ム。

埃及人ハ以前開ケタル國民ナリシカ。今ハ時勢ニ後レテ他ノモノニ支配サレル様ニ成ツタ。

東方亞弗利加種族ハ「リビヤ」人ヤ埃及人ニ比スレハ未開ノ人民デ。歐羅巴亞弗利加系統ト云ヘハ開ケタルモノラシク思フモノアルヘケレ。此ハ未開ト云フヨリモ寧ロ野蠻デア。ル。

衣服ハ男女共ニ態々縫ヒ合セタモノハナイ。布帛ヲ体ニ纏ヒ女ハ髮ヲイクツカニ束テテ頭ノ周圍ニタレ少シチリチリヲ作ル様ニシテサゲテ居ル。男ハ様々アルガ多ク行ハレテ居ルハ波狀ノ髮ヲ一部ハナデツケテ一部ハ玉ノヨウニナシ木ヲ削ツテ造ツタ長キ簪ノ如キモノヲ前ニサシテ居ル。

此地方ニ住ム種族ハ人ヲ多ク殺スヲ以テ名譽トシ其殺シタル數ヲ表スルタメニ一人殺ス毎ニ駝鳥ノ羽一枚ツ、頭ニサシテ其記シトスル。家屋ハ小屋掛テ長ク殘ルモノヲ作ラズ多ク仮屋ノ様ナモノデア。ル。

農業ハスコシハスルケレ。重ニ牧畜ヲナス。

セミチツク派ニ「アラビヤ」人「アビシニヤ」人猶太人ノ別ガアル。

「アラビヤ」人ハ現在ノ住所ニ古クヨリ居タモノデハナク「アフリカ」ノ北方カラ「スエス」ヲ經テ來タラシイ。

亞拉比亞人ハ他國ノ開ケザル時代ニハ工藝技術ハ餘程進歩セシガ今日テハ他カ進歩セシ爲メ比較的ニ開化ハ後レタル有様デア。ル。

又生活ノ状態ニヨリテ二ツノ部類ニ分タル。

甲ハ農商業ヲ營ム土着ノ人民

乙ハ牧畜ヲナシ水草ヲ逐フテ移住スル人民

乙ハ天幕ヲ毛織テ造ル。廣サハ通例直經二三間位又大ナルハ十間以上アル。極大ノモノハ布ヲ以テ界ヲ作り、幾室カニ分ツ。一丈位ノ柱ヲ幾本モ立テ其上ニテントヲ張ル。多ク踏踏ヲ養ヒ移住ノ際ニハ之レニ家具ヤ天幕ヲ載テ運ブ。此移リ歩ク人民ヲ「ベド



ウイン」ト云フ。風俗モ土着ノ「アラビヤ」人ト「ペトウイン」トハ異テ居ル。其著シキモノヲ云ヘバ「ペトウイン」ハ男ハ頭ニ「ハンケチ」ノ如キモノヲ被リテ之ヲ包ミ女ハ風呂敷様ノ布ヲタダフツリト被テ居ル。土着ノ男子ハ布ヲ頭ニ巻キ付ケテ居ル。

衣服ハ襦ノ長キ「シヤツ」ノ如キ物デ。丁度日本服ノ如クテアル。又股引ヲハク者モアル。此亞拉比亞地方ニハ奴隸ノ制ガ行ハレテ「チコロ」ヲ使フ。併シナガラ面白イキマリカアツテ。七年間ヨク働キ續ケ尙其上ニ「マホメツト」教ヲ信スレバ籍ヲ入レテ同等ノ交際ヲナス。

#### アビシニヤ種族

風俗ハ男女共ニ布ヲ身体ニ纏ヒ女子ハ髪ヲタレ又ハ或ル形ニ結ビ男子ハ周リニ髪ヲ縮ラシ頂上ニ玉ヲ作ル。

家屋ハ粗造ナレモ東方亞弗利加種族ノヨリハ進ンデ居ル。

「アビシニヤ」ハ生肉ガ好キデ生キテ居ル馬ノ肉ヲソギテ其肉ヲ生ニテ喰フ即荷物ヲ運搬スル途ニテ飢ウルルハ其肉ヲソギテ喰ヒ血ノボタ〜流ル、モ頓着ナク平氣テ荷物ヲ負ハセテ引テ行ク者サヘアル。

「アビシニヤ」人ノ異ル一ツノ風俗ハ宴席デ客ニ對スルトリアツカイデアアル珍客トシ

テ優遇スルルルハ客ノ傍ニ女子ガ行キテ食物ヲ口ニ入レテヤル即客ハ唯ダロヲパツクリトアイテ居レハ手ヲ動カスニ及ハヌ。最モ鄭重ニスル客ナレバ其左右ニ二人ノ女子ガ侍リテ交互ニ客ノ食スヘキモノヲ持ツテ今度ハ私ノモノヲオアガリナサイト云フ様ノ工合ダ。

#### カルデア族

人種上ノ話トシテハ「カルデア」族ト云ヘモ今日殘レルハ「ジュウ」(猶太人)デアアル。

之レハ餘程妙ナ人民テ其本據ノ地理學上ノ位置カラ云ヘハ「アラビヤ」人「アビシニヤ」人ト同ジ列ニ入ルヘキモノダ。此人民ハ世界ノ諸地方ニ住スルヲ以テ國民ト云ハレヌ人民ダケレモ他ノ種族ト混ズルコトガ少ク舊ノ儘ノ性質ヲ保ツテ居ル。

一般ノ性質ヨリ云ヘハ歐羅巴亞弗利加系統ノ種族デアルケレモ鼻ノ形ガ普通ト異テ著シイ鷹嘴形デ小鼻ノ切レ込ミノ深イ。

該種族ハ英佛國ニ入りテハ宗教上及ヒ其他種々ナル點ニ於テ嫌ヒモシ嫌ハレモスルケレモ風俗ハ其地ノ風ニ從フ。

英國佛國等ノ商店テハ日曜日ハ店ヲ閉ツルケレモ「ジュウ」ハ日曜日ニモ開店スル彼レヲ嫌フモノモ便利デアルカラ買ヒニ行ク。

勇氣ニ乏シイガ利益ノ点ニ就キテハネケメナク働ク性質ヲ有シテ居ル金錢ニサヘナレバドシナキヲナキ人ノ嫌フコトデモスル古着ノ始末ゴミノ掃除等ハ彼等ノ得意トスル處デアル彼レ等ハ血統ヲ重シク人ガイクラ輕蔑シテモ頓着シナイ。

歐羅巴亞弗利加系統人民地中海ヲ隔テ、北ニ居ルモノヲ大別スレバ三ツトナル

一、ユースカリク派

二、アリアン派

三、カウカシア派

ユースカリク派

此派ノモノハ以前ハ隨分廣マツテ居タロウト思ハレル今日殘リ居ルハ佛國ト西班牙トノ境ノビレニースノ山間ニ存在シテ居ルガケデアル。

廣ク通スル名ハ「バスク」ト云フノデアル。ビレニース近邊ヲモ繁華ノ處ハ佛蘭西ノ方ハ佛人ガ入り込ミ西班牙ノ方ハ西班牙人カ入り込テ居ルカラ極ノ山間ノ地ニ至ラザレハ純粹ノ「バスク」人ヲ見ルコトハ出來ヌ。

古イ歴史デハ「ヴァスコテ」ト呼フ「バスク」トハ其轉訛デアル彼等ハ自分等ノ使フ語ヲ

Euskaraト云ヒ自分等ノ住地ヲ Eusk-Khriaト云ヒ自分等ノ種族ヲ Eusk-alkhnaeト云

フ特別ノ言葉カ有ルガ西班牙ノ方ノモノハ西班牙語ヲ覺ヘ佛國ノ側ノモノハ佛語ヲ覺ヘテ自分ノ言語ハ漸次ナクナル有様デアル。

風俗ハ歐羅巴ノ田舎ノ風ト思ヘハ差異ハナイ。

「バスク」ハ古ハ佛蘭西伊太利、コルシカ、サルデニヤ、シシリ、英國ノ一部分此邊ニ全体

ニ廣ガツテ居タヨウデアル。

今日テハ滅シテ總計三十萬位ダ。

アリアン派

昔ノ學者ノ考ヘデハ歐羅巴ノ人民ハ多分亞細亞ヨリ入りシナラント云フコトデアッタ其根據ハ創世記ニ在ッタ然ルニダンク諸地方ノ國語カ知レテ諸國ノ語ノ比較研究ガ始マツテ其結果印度テ古ク用イタ「サンスクリット」語(梵語)「ペルシヤ」ニテ古ク行ハレタ「ゼンド」語希臘語羅甸語日耳曼語(獨乙語)此等ガ文法ノ組立上ニ於テ相互ニ親密ノ關係アルコトガ分リ出シタ新タニ言語學ガ進デ歐羅巴ト亞細亞トノ關係ガワカリ言語學モ一ノ根據トナリ益々兩地人民ノ緣故アルヘキコトガ知レ學者間デ「アリアン」種族ト云フ名ヲ以テ是等ヲ總稱スル様ニ成ツタ。

乍併之レハ唯々歐羅巴ト亞細亞トノ關係ヲ示スニ過ギナイノデ亞細亞ヨリ歐羅巴

ニ行キシカ歐羅巴カラ亞細亞ニ來リシカハ分ラヌ。  
印度人ノ傳説ニヨレハ彼等ハ元其土地ニ居タモノテナク北西ヨリ移住セシモノナ  
ルヲガ分ル。

歐羅巴ヲ調ヘテ見レハ「スイツアランド」ノ湖水住居ノアト「デンマルク」ノ泥炭層ノ内ヨ  
リ太古ノ遺物ガ續々出ル故ニ歐羅巴ノ先祖ハ古クヨリ該地ニ居タコトガ分ル即チ  
歐羅巴ノ石器時代ノ人民ハ今日ノモノ、先祖デアル。

之レニ依テ見レハ歐羅巴ヨリ亞細亞ニ移リシ形跡ハアレモ亞細亞ヨリ歐羅巴ニ移  
ツタト云フハ今日デハ信セラレヌ。

此大國体ノ「アリアン」派ノ人民ヲ調査スレバ大凡八ツノ部類ガアル。

- 一、ケルト族
- 二、イタリヤ族
- 三、イルリヤ族
- 四、ギリシヤ族
- 五、レツト族
- 六、チユウトン族

七、スラーヴ族

八、印度エラニヤ族

「ケルト」族

歐羅巴ノ古キ歴史ヲ調ブレハ「ゴウル」ト云フ名カ見エル此「ゴウル」種族ハ今其儘デア  
傳ツテ居ナイカ「ゴウル」ノ種族ノ残りガアチコチニ傳ツテ居ル佛蘭西人ハ「ウエルス」  
人ノ「ワ」ガロウ」ト稱ヘ「ウエルス」人ハ「アイルランド」人ノ「ワ」ガ「ギデール」ト稱ヘ「スコツ  
トランド」人ハ自分ト「アイルランド」人トヲ總稱シテ「ゲール」ト稱フ此レ等ハ皆「ゴウル」ニ  
音聲ノ響キカ似テ居ル恐ラクハ「ゴール」人ハ諸地方ニ住セシガ其レカ此等ノ如ク轉  
稱セラル、様ニナツタデアロウ。

現住所ハ「スコツトランド」「アイルランド」「アイルマシ」ウエルス」「コルンウオール」等ニ昔ノ  
「ゴウル」ノ残りデアロウト思フモノカ住テ居ル。此「ゴウル」ト「シムブリ」ト云フ種族トヲ  
總稱シタノガ「ケルト」デアル。

ソレテ元來此等人民ノ間ニハ一種他ト異リタル語カアツテ同シ英國テモ普通英國  
語テナイモノヲ用フ。

「ケルト」ノ語ヲ用フルハ「アイルランド」ナレモ今日ニテハ英語ヲ教ヘ込ミシヲ以テ「ケ

ルト」語ヲ用フルモノハ少イ。

總數九十万ノ内七十五萬人ハ英語ヲ話スル十五萬人丈ハ「ケルト」語ヲ傳ヘテ英語ヲ解セヌ。

歐羅巴大陸ノ方テモ佛蘭西ノ西部ニ「ケルト」ガ多ク住ミ又佛國民中ニモイクラモ雜ツテ居ル佛蘭西ノ土地ハ元ノ「ゴウル」時代ノ「フランク」ト云フ種族(學問上ノ別デハ「チユートン」ノ一部)カ來リテ第四世紀ノ始メニ「ゲルマン」地方ヨリ「フランク」ト云フ種族(學問上ノ別デハ「チユートン」ノ一部)カ來リテ佛蘭西ノ土地ヲ支配スル様ニナツタ然レモ元來ノ人民ノ方ガ澤山ニ居ル爲メニ「フランク」ノ方ガ土着ノモノ、爲メニ化セラレテシマツタ。「フランス」ノ名ハ此關係カラ起ツタノデス。

元來ハ「ゴール」種族即チ「ケルト」種族カ大多數テアルケレモ面白イ事ニハ今日用フル佛語ハ羅旬語カラ變ジタモノテ羅馬ヨリ入リシモノデアル。

人類學的ニ云ヘバ佛國人ハ「ケルト」種族テ名稱ヨリ云ヘハ「チユートン」言葉ハ羅旬語ニ關係シテ居ル。

佛人ノ特徴ハ体格ノ上ヨリハ寧ロ舉動ニ佛蘭西的ガアル即交際ノ上手ナルコトガ著シイ外國人カ英國ヘ始メテ行クト佛國ヘ始メテ行クトハ大ニ違フ。

其國ノ言語ヲ知ラズニ旅ノ出來ルハ佛國デアル而シテ英語ヲ知リテモ英國ヲ旅行スルニハ困難カアルガ佛語ヲ好ク知ラズニ佛國ヲ旅行スルハ容易デアル片言デ跡ヲ手眞似スレハスグ吞込ンテ便利ヲ與ヘル。

佛人ノ性質ハ學問ヲ好ミ技術ヲ貴フケレモ自分カラ進ンデナサントスル心ハ比較的ニ少イ佛蘭西ニテ學者ノ「フ」ヲ「サヴアン」ト云フガ此語ハ餘計ノ面倒臭キコトヲスル者トノ感シヲ佛人ニ與ヘル。ハデヤカナルヲ好ム一寸見テ家屋道路等表面ノ体裁ハ誠ニ華美テ又表ヘ出ツル片ハ衣服ヲ着換ヘ歸レハ直ニ着換ヘル等華美ヲ飾ルニ注意ガ細カイ道路ナドモ佛國ノ巴里ハ整然トシテ區劃正シケレモ英國ノ倫敦ハ家屋ノ間ニ道路ガ出來タト云フ風デアル。

佛國テハ演說等ヲスルニモ事實ハ少シ枉ゲテモ通俗的ニ面白ク聞カセル英國人ノ演說ハ極ク眞面目ニ着實デアルカラ聽者ハ退屈ヲ免レヌケレモ佛國人ノ演說ハ手眞似身振リヲ以テ巧ニ興味ヲ與フルカラ解ラヌ迄モ面白ク感スル此ノ如キガ「ケルト」種族ノ特徴デアル。

イタリヤ族

(99) 此地ニハ元「エトラスカ」人ト云フモノカ居ツタ其南方ニ於テハ羅旬人ガ其土地ヲ支

配スル様ニナリ北方ニ於テハ「ウンブリカン」人「サムニテス」人ガ支配スル様ニナツタ  
 「タスカニー」ノ地方ニハ「エトラスカ」人ノ子孫ガ残ツテ居ルシ羅馬地方ニハ「アリアン」  
 派ノ人民カ住テ居ル「チーブルス」地方ニハ種々ノ雜種ガアル。  
 古キ以太利人ノ容貌ハ今日殘サレテアル彫刻ニ依テワカル。  
 頭ハ大キク額ハ高クナク頂カ平テ鼻ト額トノ界ニ凹ミヲ形作り横ヨリ見レハ鼻ハ  
 中高ニ反ツテ居リ頤ガハツキリシテ居ル此ノ如キ鼻ノミヲ英語ニテ「ローマンノーズ」  
 ト云フ古キ彫刻ヲ見テモ今日ノモノト一致シテ居ル今日ノ美術家モ古イ羅馬彫刻  
 ヲ手本ニスルガ繪畫キデモ彫刻師デモ生キタルモデルヲ見出スヲ得レハ都合ガ  
 好イニ違ヒ無イソレヲ以太利人中ニハモデルニ雇ハレテ英國佛國等ヘ行キンレテ  
 生計ヲ立テ居ルモノガアル。  
 現今羅馬人ノ以太利種族ノ衣服家屋ハ通常人ノ知ル歐羅風テアル。  
 食物ニ就キテ特ニ羅馬盛ニ行ハルハ「マカロニ」ト云フモノデアアル之レハ饅頭ノ中  
 ニ穴ヲアケタル如キモノニテ日本ノ蕎麥ヲ食スル如ク常食ニモ間食ニモ用フ之レ  
 ヲ食スルニ煮タルモノヲ手ツカミデ喰フコトモアル開化ニ進ミタル人種ノスルコ  
 ト、シテハ餘程奇異テアル。

此土地ハ學問ヨリハ宗教ガ盛テ此ノ宗教モ外形ニ重キヲ置ク風カアツテ飾リヲツ  
 ケテ立派ニスルコトヲ好ム。  
 古ノ羅馬ハ開ケタル國テ學問ノ中心ナリシガ今日テハ他ノ國カ皆進歩シタカラ大  
 ニ後レタ様ニ見エル。  
 古ノ羅馬人ハ近傍ノ希臘アラビヤカルデアヨリ文學哲學美術技藝上ノ事ヲ學ヒヨ  
 ク整ヘテ体裁ヨクシテ他ニ傳ヘタノデアアル。  
 元ヲ羅馬ニ發シテ勢力ノアルハ言語デ彼ノ羅匈語ヨリ變化シタモノガ今日テハ諸  
 地方ニ行ハレル彼様ナ語ヲ「ローマンズ」語ト云フ「ローマ」ノ盛ンナリシ其變化シタ  
 モノ、行ハレシ國ガ多カッタソレハ血統上ノ緣故ガナクテモ政事上ノ關係カラシ  
 テ行ハレル様ニ成ツタノデアアル。  
 佛語ハ羅匈語ヨリ變シタルモノ以太利語ハ無論西班牙語葡萄牙語「ルーマニヤ」語「ワ  
 ラキヤ」語「ラジニツシ」語「瑞西語」ハ皆羅匈語ノ系統ニ屬スルモノデアアル。  
 今亞米利加ニ歐羅巴人ガ移住シ居リテ合衆國以南ニ於テハ今揭グシ内ノドレカノ  
 言語ガ行ハレテ居ル歐羅巴ノ諸地方ニテモ亞米利加諸地方ニテモ斯ク「ローマンズ」  
 語カ行ハル故ニ其行ハル、處ヲ地圖ニ記シヲツケテミルハ羅馬全盛時代ノ領土

ノ五倍ノ廣サデア  
イルリヤ種族

コノ種族ハ元處々ニ居リシガ今ハ何處ニアルカト云フニ歐羅巴トルコノ一部分ノ「アルパニヤ」ニ居ル現住ノ人口ハ二百万人  
「アルパニヤ」人トハ他ヨリ呼ブ名稱テ彼自身テハ「スキベタル」ト云フテ居ル其土地ノ言葉ヲ山間ノ民ト言ヘル意テアル此土地ハ開化ノ度低ク半開デアアル風俗ハ一体ニ武ヲ貴ビ男女共ニ刀ヲ挾ム而シテ其心動キ易ク常ニ争鬪ヲナス  
衣服ハ男女トモ上着ハ窄袖ヲ袴ヲ穿チハデナコトガスキテ儀式ノキナドハ金銀ニテ裝ハレタルモノヲ着ル  
舉動ハ高慢ダノ風テコレミヨガシニアルイテ居ル  
職業ハ農商業ニモ從事スルケレモ腕力ヲ以テ人ヲオビヤカシ物ヲ取ル様ナコトモアル朋友トスレバ最モ親切テアルガモシ一朝敵トスレバ猛惡ノ敵トナル  
他ノ宗教ヲ奉スルモノカ耶蘇教ニ改宗スルガ一般ナレモ此人民ハ第十五世紀迄ハ基督教ヲ奉セシカ土耳其人ニ征服サレテカラ「マホメット」教信者ニ籍ヲ入レタ  
希臘族（ヘレニヤ族トモ云フ）

以前ハ此部類ニ屬スルモノハ處々ニ居タラシイカ現ニ其血統ヲ傳フルハ希臘人デア  
アル併シ希臘人中ニハ「ターター」種「スラブ」種カ雜テ居ル  
希臘ニ古ノ彫刻カアツテ之ヲ見レハ今ノ希臘人ト体格上能ク似テ居ル「ガワカル」希臘人ト羅馬人トヲ比較スレハ現在希臘人ハ額ノ生ヘ際高ク額ト鼻トノ間ノ凹ミガ少ク鼻筋ハ眞直デ髪ノ色ハ褐色ヲ帯ヒ眼ノ虹彩ハ薄青デア  
男子ノ衣服ハ絹織ノ窄袖ノ上衣ヲ着テ裝ノ襟ナモノヲ纏ヒ下ニ脚絆ヲハク  
冬ハ寒キハ絹ノ上衣ノ上ニ羊ノ毛皮ヲ作ツタ羽織ノ如キモノヲ着ル婦人ハ普通ノ歐羅巴ノ風ト大差カナ  
男子ガシヤレニ腹ヲ強クシメルコトハ普通ノ歐羅巴ノ婦人ノ如クデア  
千八百六十二年ノ統計表ニヨレハ「アゼンズ」デ仕立屋カ七十軒アリシカ其中六軒ノミ古風ノ仕立屋五十軒ノ靴屋ノ内三軒ノミハ古風ノ靴屋六十二軒ノ女服ノ仕立屋ノ中三四軒ノミハ古風ノ服ノ仕立ダ斯ノ如ク段々通常ノ歐羅巴風ニ變シテ來タ  
古ハ美術ヲモ哲學ヲモ數學ヲモ文學ヲモ劇曲ヲモ何ノ点テモ進テ居テ他國カ真似ル程テアツタカ今ハ大ニ衰テシマツタ然レモ今日諸地方ノ開化ハ希臘ノ恩澤ヲウケテ居ルコトカ多イ

## レツト族

此部類ニ属スルモノハ「レツト」ト云フ人民ト「リザウニアン」ト云フ人民デ能ク似テ居ルカラ「レツト」族ト稱ス

現住所ハ歐羅巴ノ北方「バルチック」海岸デ一部ハ普魯西ニ属シ一部ハ露國ニ属ス此民ハ政治上ノ点ヨリ見レハ肝要ナラサレモ人種的ニ調ベルニハ仲々面白イ彼等ノ間ニハ古代ノ有様カ存スル人口ノ総數ハ二百萬乃至三百萬露西亞ニ属スルモノト普魯西ニ属スルモノトヲ比較スレハ露國ノ方カ多數デアアル  
チユウトン族

此部類ノモノハ元ト「レツト」及ヒ後ニ云フ「スラーブ」ト云フ人民ヨリ分レテソレガ混シテ出來タモノテ系統的ニ調フレハ今日デハ一種族トシテ置クヘキ價値アレモ元ハ混シテ出來タルモノデアアル今地圖ニ就キテ古ヘ住セシ處ヲ云ヘハ獨逸ノ中央部及ヒ南部ト「スカンヂナビヤ」ノ北方テアル而シテモトハ一般ニ北海ノ海岸地方ニ廣カツテ居タモノデアアルコレヲ總稱スレハ「チユートン」ナレトモ此内ノ小分ヲ調ブレバ「ゴス」「ツァンダルス」「アングルス」「サクソンズ」「デーンス」「ノルスマン」「フランクス」「ロンバルツ」「ブルガンヂヤンス」ナドテ歴史ヲ見レハ此名ガ屢見エル現在「チユートン」ノ住スル處ハ獨逸

澳地利瑞典那威丁抹和蘭西部スイツルランド英吉利ノ大部分及ヒアメリカ合衆國デアアル此等ハ純粹ト云ヒ難ケレモ「チユートン」ノ殘リデアアル尤モ純粹ナルハ「スカンヂナビヤ」北方ニ住スル者デアアル

今日ノ英吉利人ハ元ヨリ土着セシモノト後ニ移ツテ來タ「アングル」人ト「サクソン」人トノ混合ヨリナツタモノデアアル

舊來ノ土着人ハ如何ナルモノカト云フニ一説ニ「ビレニース」ノ邊ニ居ル「バスク」ニ似タル者ト云フ併シ大部分ハ「チユウトン」ト云フテ差支ナイ同シク「チユウトン」ナレモ獨乙人ト英國人トハ一寸異リタル点カ見エル之レヲヒツクルメテ云ヘハ英人ノ頭ハ圓ク獨乙人ノ頭ハ稍角ハツテ居ル

英人ハ外見如何ニモ冷淡ノ風ニ見エルケレモ一旦信シテ引受ケテ世話スルキハドコマデモ親切デアアル

又佛國ノ公園ナドハ如何ニモ御庭ノ如ク奇麗デキヤシヤデ園内ノ途ノ両側ナドモ一寸針金位ノモノテ仕切テオク手スリナドモ一寸手際ニ出來テ居ルガカヨワイ

英國ニ於テハ公園杯ノモノデモ多クハシツカリシタ太キ材木又ハ鉄テ丈夫向キ一方ト云フ有様デアアル

体格上ヨリ云へハ英人ハ上半身ノ發達著シク胸強ク腕太ク筋肉逞シク喧嘩スルハ直ニ腕力ヲ佛人ハ喧嘩スルモ直ニ足ヲケル

英國人ノ体格ハ勞働者即舟子工業ナトニ適スル如ク見ユル英國人ノヨキ處ハ自信ノ強キヲアルドモ自信ヲ托ゲヌ惡シキ方ヲ云へハ高慢ヲ我ヨリ云ラキモノハナント云フ風ガアルシカモ之レヲ押シ通シテ居ル

佛國ノ商店デハ往々表ニイシグリツシスボークンニ英語ヲ話シマスント云フ看板ヲ掲ゲテアル英國人ハ斯ク云フ商店ハ好シテ遣入ル旅館等モイソングリツシスボークント掲ケテ英人ヲ待ツ之英人ハ他國語ヲ使フノヲ好マヌカラデアアル英國ニハ佛國ニアル如キ看板ハ一向見當ラナイ彼等ハ我ニ來ルモノハ英語デ云へ我彼ニ行カハ彼レ英語ヲ我ニ接セヨト云フ風デアアル併シ英國人ハ信用德義ヲ重ンズルコトハ深イ故ニ少シデモ不德義ナルヲアレハ社會ニ容レラレヌ

今一二ノ例ヲ擧ゲルモ  
書肆ニ於テソトニ書棚ヲ設ケ其レニ本ヲ入レ代價ヲ附ケテアル(勿論内ニモイクラモアル)買手ハ好ムモノヲ撰擇シテ入口ノ帳場ヘ行キドノ箱ニアリテ代價ハイクラト記シテアルト云フテ代ヲ拂セ少シモ疑ハヌ横着ヲスルモノハ一人モナイ

市内馬車ノ如キモ或ル處テハ賽錢箱ノ如キモノヲ設ケテアル乗客ハソレニ應スル錢ヲ投シテズルヲスルモノハナイ流車ナド切符無シテ乗ツテ目的地ヲ下リテモ本人ノ言ヲ信ジテ何所カラト云フ丈ノ錢シカ取ラヌソレデ間違ナクヤツテ居ル日本テハ流車ニ乗ルニ時間ガ迫ツテ切符ヲ買フ暇ナクテ例へハ神奈川デ乗テ横濱ニ行キ切符改所ニ至リテソノ由ヲ告ゲレハ新橋カラノ賃錢ヲトラレル皆虚言ヲツグモノト假定サレテ居ル若シ日本テ英國ノ如クシタラ實際新橋カラ横濱迄乗ツテ神奈川カラダト稱シ又馬車ニ乗ツテ賃錢ヲ拂ハヌモノモアサウ實ニチサケナイ

英國人ハ政治家實業家ハ多ケレハ割合ニ美術家ハ少イ何事モ實用ヲ重ンジテ美術ニ注意セヌ傾キガアルカラダ今米國ニ移住シテ合衆國ヲナシテ居ル英國人ハ氣質上体格上幾分カ異ツテ居ルコレヲ在米英人「アングロアメリカン」ト云フ「ヤンキイ」トモ云フガコレハ少シ輕蔑シタ言ニ當ル  
移住後僅カニ十代カ十二代ニ過キヌガ變化シテ居ル即皮膚ノ色ハ英人ハ赤味ガ多ク米人ハ赤味カ少イ髮ノ色ハ米人ハ黒味ガカツテ頸ガ角張ツテ頸ガ細ク頭カ稍小サク眼窠ハ深ク凹ミ指ガ長イ故ニ英人ノ手袋ハ米人ニハ用ヒラレヌ婦人ノ骨盤モ狹イ後ニ由來論ニ於テ人種ノ變化ノコトハ再ビ話スガ兎ニ角斯ノ如キ變化ガアルト



云フイヲ預記憶シテ居テモライタイ  
 心理上ニモ變化ヲ來シテ居ル即米人ハ心ガオチツカヌ動キ易イ理屈テハ自由ヲ貴  
 ビ共和政治カ宜敷ト云ヘル事實ニ於テハ段々社會階級ヲ好ム傾キガアル故ニ求メ  
 テ英國ノ貴族ト縁ヲ結ヒテ得ヤト誇ルナドノ風ガアル  
 獨乙人(ゼルマン人)モ「チユウトン」種族ノ一例デアアル  
 奇妙ナ事ニハ他國人ト接近シテ住メバ段々其風ニ化セラレノデアアル即チ丁捺ニ接  
 近シテ居ル方ノ側ハ丁捺風トナリ露國ニ接スル方ハ「スラーヴ」風以太利佛國ニ接ス  
 ル部分モ其通リテ全ク變化スルデハナイガ其方ニ傾ク  
 一休ノ氣質ヲ云ヘハ自然ニ近ヅクヲ樂シム家ヲ造ルニモ佛國人ハ華美ヲ好ミテ家  
 ノ建築ナレハ空氣ノ流通日光ノ透徹等ニ注意シ窓戸ヲ開放シテカラトシタノ  
 ヲ尊ビ森林ノ目ヲ遮ルアレバ之レヲ切リ拂ヒ務メテ清爽ニスル獨乙人ハ之レニ反  
 シテ若シ市街ヲ離レテ家ヲ造レハ林其儘ノ處ニ自然ヲ存シテ務メテ人工ヲ加フル  
 ヲ避クルト云フ風ダ物事ヲスルニ沈着ニ工夫ヲ繞ラシテ容易ニ輕卒ニ手ヲ出サス  
 一旦コウト思ヒ込テ着手スレハナカト中途デ之レヲ棄ツルヲセヌ百難ヲ排シ  
 忍耐ニ忍耐シテ必ス押シ通スト云フ風デアアル

此ノ他和蘭人杯モ「チユウトン」デアアル。  
 スラーヴ族

之レハ「アリアン」派ノ最北ニ住スルモノデ古クハ種々ノ名前ガ歴史上ニ殘ツテ居ル  
 「シジャン」「サルマチヤン」ハ皆「スラーヴ」ノ分レデアアル  
 体格上ノ性質ハ古ノ儘テ殘ツテ居ルトハ少ナケレモ言語ハ古クカラノ關係ガ存シ  
 テ居テ此部ノモノオ互ヒニ似テ居ル。

「スラーヴ」種ノ現在殘リ居ルハ「ロシヤ」人「ポーランド」人「トルコ」領ノ「モンテネグロ」人「セル  
 ビヤ」人「ハンガリー」ノ一部ノ「ダルマチヤ」人「ハンガリー」ノ一部ノ「クロツチヤ」人「ボヘミヤ」ノ  
 内「セツク」人等ハ「スラーヴ」ノ分レデアアル

此「スラーヴ」人ハ「アリアン」派ノ人民ノ内デ開化ノ最モ遅カリシ人民ダ近キ百年來進  
 歩シタモノダガ其以前ハ一向ニ開ケナカツタ

「スラーヴ」人ノ氣質ハ或ル勢力家カアツテ威壓ヲ以テ引き廻セハ能ク服従スルケレ  
 モ大低同位置ノモノ相互同志ノ團結力ハ極メテ少イ爭ヒヲ生ジテ直ニクヅレルコ  
 トガアル

一個人ノトシテノ平生ノ行ハ温和テ家族ハ團欒シテ音樂唱歌相和樂スル此点ニ

於テハ優美デアルケレトモ家屋ノ建築ナドハ少シモ構ハナイ幾分カ佛國ヤ以太利等ヲ真似ルケレトモ新ニ工夫ヲ凝ラシテドウノコウノト云フコトハナイ。

印度「アリアン」族  
之レハ「アリアン」種族ノ内テ最モ東ニ移リシモノデ其内中途ニ止マリシハ「ベルシヤ」人テズツト東ニ移リシハ印度人テアル此部類ノ代表者トノ印度人ニ就テ言ハソ  
印度ノ住民ニハ様々アレトモ最モ勢力アルハ西曆紀元前二千年カラ千五百年ノ間ニ西ノ方カラ入り込ミタルモノヲ土地ヨリ云ヘハ亞細亞大陸ナレトモ人種上体格上ヨリ云ヘハ「アリアン」種テ歐羅巴ニ縁故ノ近キモノガ住ンテ居ル以前ハ様々ノモノアリシカ「アリアン」ガ凡テヲ壓服シタノテアル今ハ窮屈ナル階級ガ立テラレテ居ル  
其段階カ四ツアル

- 第一 婆羅門 (僧族)
- 第二 刹帝利 (王族)
- 第三 吠舍 (商工族)
- 第四 首領羅 (奴隸)

此三ツノモノカ「アリアン」派ノモノテ

コレハ舊土人テ「アリアン」デハナイ

印度ノ古キ傳説ニ「ブラマ」ト云フ神ガアツテソレガ人類ノ祖先テアル而シテコノ神ノ口ヨリ出テシハ僧族腕ヨリ出テシハ王族股ヨリ出テシハ商工族而シテコノ神ノ足ノ先キヨリ出テ、繁殖シタノガ奴隸テアル。

体格ハ手足ガヤセテ額ハ高イ貴族ト賤民ト比スレハ貴族ハ皮膚ノ色白ク他ハ幾分カ黒イ

印度人ハ長キ布ヲ体ニ巻キ付ケテ衣服トスル之ハ彼ノ達摩ノ像テ見ル如キ者ダ中等以上ノモノハ別ニシヤツノ如キモノヲ着テ頭ニハキレヲ巻ク社會上ノ位置ニヨリテキレノ色ガ違フ

靴モアルケレトモ雪駄ヲハク但シ日本テ用フルモノ、如ク疊ハナイ

婦人ハ袖ノ短カイシヤツノ如キモノヲ着テ其上ニ大ナル風呂敷様ノモノヲマク衣服ニ注意ハセヌガ男女共ニ寶玉類ヲ好ミ多ク帯ビテ飾リトスル中ニ高價ノ立派ノモノカアル

印度人ノ一ツノ分レデ再ヒ歐羅巴ニ歸ツタモノカアルソレヲ「ジブシイ」ト云フ此者ハ丁度猶太人ノ如ク國ト云フモノカナク又家ハナイ何ウシテ「ジブシイ」ト云フ名カ

アルカト云フニ彼等自身ハ埃及人カラ來タト云フノテ此名ガアル或ハ埃及カラ來  
 タカモ知レナイカ人類學上ノ調査テハ埃及ハ通ツテ來タカモ知レヌカ印度人デア  
 ルコトカ知レテ居ル私モ諸所テ彼等ヲ見受ケタカ彼レ等ハ家ヲ有セズシテ馬車ノ  
 内ニ生活シテ居ル一家數人皆馬車中ニアリテ一切ノ器物ヲ貯ヘテ居ル馬車ノ屋根  
 ニ煙筒ヲツケテ煙ヲ抜キ小鳥ヲ愛シテ金絲雀ナドヲ此内ニ飼フテ居ルシテコノ家  
 族寧ロ車族ハ適宜ノ處ヘ馬ニ引カセテ行キソコニ留テ居ルモシ一方テ巡查ナドカ  
 小言ヲ喰ヘハ又徐々ニ他方ニユキ常ニ處ヲ定メス徘徊シテ居ル  
 職業ハ椅子ヤ蝙蝠傘ノ修繕掛ケ及ヒ賣トデ又雖ヲ盜ムコトカ巧ミダ迷信ト云フ  
 コトハドコニモアルモノデ老婆ナドハ彼レノ來ルヲ待チテ占テモロウ椅子ヤ傘ノ  
 破損シタ片ハ便利ダカラ彼等ノ來ルヲ待テ居ルコトモアル  
 カウカシヤ派

此レハ「カウカサス」山地方ニ住ム者デアル古ノ學者ハ此處カ歐羅人ノ本源地ト思ツ  
 テ居タノデアアルガ古物ニヨリテ調ヘルニ極古キモノハ一ツモナイ之レヲ以テ見レ  
 ハ「カウカシヤ」ハ歐羅巴ノ本源ニアラデ諸地方ノ部分ヨリ逃ゲコミシモノカ集テ一  
 派ヲナシタモノト思ハレル

男女共ニ美貌ノモノガ多イ女子ニハ最モ美人カアル「トルコ」アタリノ人ハ此地方ニ  
 來ツテ美人ヲ求ム即美人カ此地ノ產物ダ

### 第六章 南方亞弗利加系統ノ諸種族

ナイル河ノ上流及サハラ沙漠ノ南ニハ他地方ノ人民ト明カニ區別ノ出來ルモノガ  
 住ンデ居ル人ノ最モ氣付ク「ハ毛髮チヤレ皮膚ノ色黒味ヲ帶ブルノデアアル之レ等  
 ノ特徴ヲ有スルモノガヨリ合テ居ル殊ニ其南方ガ著シイ世界中ニ様々ノ種族カ居  
 ルガ亞細亞系統トカ歐羅巴亞弗利加系統トカト云フモノ、特徴ヨリモスグニ氣付  
 特徴ヲ持テ居ル此等ヲ總括シテ南方亞弗利加系統ノ人民ト云フ  
 南方亞弗利加系統ノ内ニ大凡ソ三ツノ部類ガ見出サレル

一、小「チグロ」部

二、「チグロ」部

三、準「チグロ」部

小チグロ部

「チグロ」ト云フノハ西班牙語ニテ黒ト云フコトカラテタ其内デ特別ニ矮小ナルモノ

ヲ「ネグロ」即小「ネグロ」ト名ツケタノデアアル。

古ノ地理學者「ヘロドタス」ノ書ニ亞弗利加地方ニハ身体矮小ノモノガ住ストアルハ誤リナリト思ヒシニ段々内地ノ探檢ガトドイテ今知レテ居ルハ北緯二度ノ邊ニ住ンデ居ルモノダ「ヘロドタス」ガ亞弗利加ニ就テノ智識ハ北緯十八度位迄ノ間ノ智識シカ持タヌノデアアル。

然ルニ今日小「ネグロ」ノ住スルハ北緯二度ノ處ヨリ南ニシカ居ラナイ。シテ見レハ此書ヲ記セルキハ北緯十八度邊ニ迄廣カツテ居タト見エル小「ネグロ」ノ内ヲ大別スレバ中央派南方派ノ二ツトナル。

中央派ニ屬スルモノ、一例ヲ舉クレハ「アツカ」ト云フ種族デ極メテ矮小ナルモノダ。「スタンレイ」ノ發見ニ係ル最小人モ此邊ニ住ム即「ソンプチ」ニ住スルモノハ其成長シタル男子ノ平均僅カニ三尺ヲ越エル位ダ然シ「アツカ」ハ稍々高キモノニテ成長シタル男子平均四尺五六寸位デアアル。

「アツカ」ノ特徴ハ顔ガ下半分前ニ突き出テ頤ハ後ニ退キ唇厚ク耳ガ大キク鼻ハ扁平デ毛髮チアレ全身短毛ヲ以テ蔽ハレ体ニイトフヘキ臭ヲ發ス（ワキガノ如シ）  
 官ニ容貌ガ下等ニ見ユルノミナラス舉動ニ於テモ或ル点ハ猿ニ似タル處アリ話。

由ニモ体ヤ顔ヲ動カシ目ヲ上下シ誠ニオチツカヌ

風俗ハ全ク野蠻デ男女共ニ衣服ナク僅ニ腰邊ヲ蔽フノミダ家モ小屋掛テ以前ニ於テ土着シタル形跡モナク今日モ土着シテ居ラヌ小「ネグロ」ノ一部類ハ南方派デ其内ニ幾ツカノ部落ガアル此種ノ名高キモノハ「ブッシマン」ト「ホツテントツト」デアアル

此「ブッシマン」ハ外ヨリ付ケタ名稱デ自身ニハ「クワイ」或ハ「サンクワ」ト稱フ「クワイ」ハ此土地ニテ云フ人ノ意ダ「サンクワ」ハ古クカラ其土地ニ居ルカラ土人ト云フ意デツケタサレバ人ノ能ク知ル「ブッシマン」ト云フ名稱ハ何カラ出カト云フニ亞弗利加ノ南方ニ歐羅巴人ノ殖民地カアル此處ニ初メテ殖民セシハ和蘭人デ和蘭人ガ此人民ヲ賤ミテ此名ヲツケタノデアアル此土人ハ家ヲバ森林中ニ木ノ枝ヲ以テ作ルソレデ和蘭人ガ森ノ中ノ人ト云フ名ヲ付ケタ和蘭語デソレヲ「ボスジエスマン」ト云フソレカ一般ノ種族ノ名トナツテ英語ニテ「ブッシマン」ト云フ様ニナツタ

「オウスタラリヤ」土人ノコトモ「ブッシマン」ト云フカラ唯「ブッシマン」ト云ヘハ彼レ此レ混スル様ダガ別段ノ斷リ無シニ此名ヲ云ヘハ亞弗利加ノ者ト見テ差支ヘナイ。

此人民ハ「アツカ」ト異リテ顔ノ下半分ノ突出ハ少キモ世界諸種族中鼻ノ最も低ク鼻孔ノ最も廣キモノデアアル

此人民モ矢張舉動ニ於テ下等ヲ猿ニ近キ處カアル眉ヲ動かシ唇ヲ動かシ耳ヲ動かシ小鼻ヲピクシ舉動ニオチツキタル風ガナイ

風俗ハ男女共ニ髮毛チアレテ居ルカラ延ハスノ結ブノト云フコナク只自然ノマニシテ置ク。

衣服ハ腰ノ邊ヲ蔽フノミデ原料ニハ獸皮ヲ用フ時トシテ獸皮ノ肩掛ケヲカケル斯ク休ハ一部ヲ蔽フノミデ殆ンド裸体ノ有様タガ足ヲ保護スル雪踏ノ如キモノガアル熱シタル地上ヲ歩スル必要上斯ノ如キモノヲ用フルノデアロウ。

住居ハ草木ノ幹枝莖葉ヲ集メテ作り或ハ土地ヲ堅テニ堀リ下ケテ風ノ方ニ屏風ノ如キモノヲ立ツルコガアル或ハ又自然ノ岩穴ニ住ミテソノ入口ニ筵ノ如キモノヲ下ゲテ居ル

中央部ノ小「チグロ」ハ用フル處ノ道具ハ簡單ナレモ幾分カ金屬ヲ用フルガ「ブツシマ」ハ石器ヲ用フコレ現存シテ居ル石器時代ノ人間ノ一例ダ其形ハ日本ノ諸地方ヨリ出ヅル如キ立派ノ石器テナイ唯其用ヲ辨ズルニ足ル丈ケデアル此土人ノ木ノ根草ノ根ヲ堀ル道具ハ杖ノ下端ヲ尖ラシタ様ナモノデアアルガソレダケテハ輕イカラ石ニ穴ヲアケテソレヲ箒メテ重ミヲツケル此穴ノアキタル石ノ完全ナノヤ欠ケタ

ノガ土人ノ住ンダアトニハイクラモ落チテ居ル此石ノ發見地ヲ調査スレバ「ブツシマン」ノ昔ノ分布ガ知レル「ブツシマン」ノ居ル地方ニ又「ホツテントット」ト云フ種族カ居ル「ホツテントット」ト云フノモ自稱テナイ他ヨリ付ケタ名テ自分等ハ「クワエクワエ」コイコイ」丁度前ニ云ヒシ「ブツシマン」ノ自稱ト同シク斯ク「クワエクワエ」ト云フ聞ク人ノ耳ニヨツテ「コイコイ」トモ聞ユルナラン此「クワエクワエ」ハ矢張人ト云フコチアル「ホツテントット」ト云フ名ハ其近傍ノモノガ此土人ノ云フ言葉ヲ口眞似ヲシテ云ヒ出シタトノコトデアアル此土人ノ發音ニハ他ニ例ノナイコトガアル日本ノ假名ナゾデハ書ケヌ普通音ヲ出ストカ聲ヲ發スルト云フコトハ口カラ聲ヲ出スノダガ内ニ吸込ントモ音カスル「ホツテントット」ノ語ノ内ニハ外ヘ出ス計リニアラズシテラ行カ行ク内ニ引キ込ム聲カアル

此處ノ人民ノ皮膚ノ色ハ黒ノ内ニ稍々黄色ヲ帶ブ皮膚ノ色ハ通常太陽ノ光熱ニヨリテ變スルモノダト云ヘドソレハ事實ニアハナイ同地方ニアルモノテモ「ブツシマ」ハ皮膚ガ黒ク「ホツテントット」ハ黄味ヲ帶ブ顔ノ形ヲ正面ヨリ見テノ特徴ハ額カ狭ク額骨ガ出テ顔ノ邊カ尖テ菱形ダ。

風俗ハ腰ノ一部分ヲ蔽フテ居ルニ過ギヌ時トシテ毛皮ヲ肩ヲ蔽フコトカアル婦人

ニツキテノ特徴ニ妙ナクガアル臀部カ著シク後方ニ突出シテ柵ガ出来タ様ニ成ツ  
テ居ルガコノ柵ハ駱駝ノ背ノ如キモノダ一見一寸考ヘテ不便ノヨウダガ利用シテ  
兒ヲ負フキ茲ニ立タセルソレテ子持ニナルト乳カ段々長クナルコノ乳ヲ前ヨリ肩  
ニアゲテ後ノ子ニ其儘ノマセル

「ホツテントット」ニテハ臀ノ高ク出テタルガ美人ダ故ニ勢力ノアル人ハ妻妾ヲ撰フニ  
婦人ヲ一列側面ニ整列セシメテ其凸出ノ甚キモノヲ撰フ

勢力アルモノガ斯ノ如キモノヲ撰ミテ妻妾トスルカラ益々斯ノ如キモノハ繁殖ス  
ルワケテアル

家屋ハ圓錐形或ハ蜂ノ巢ノ如クニ土ヲ積ミ上テ作り又木ノ枝ヲ集テ小屋トスル  
皮膚ニ白粉ヲ塗ルナドハ日本ニアル風ダガ茲テハ体ノ光ルヲヨシトシテ婦人ハ全  
身ニ油ヲ塗ル

#### チグロ部

其居ル場所ハ「スダン」地方及ヒ其近傍テ亞刺比亞人ガ「ベレソド・ニス・スダン」ト總稱スル  
土地ニ廣カツテ居ル此地名ハ詰マリ黑人ノ地ト云フ意デアアル

皮膚ノ色ハ黒ク毛髮ハ縮レテ居ル頭骨ノ縫合線ハ極メテ簡單ダ此縫合ハ簡單ノミ

テナク早ククツツイテシマウ

「アイヌ」人ノ頭骨ハ俗ニ一枚ダド云フテ居ル北海道ニテ土地ヲ堀リ骨ヲ得テ縫合  
ノ存スルモノヲ見レハ日本人トシテ之レヲ葬リ密着シテ居ルモノハ「アイヌ」トシテ  
好事家ハ燭燄杯ナドヲ作ルケレハ「アイヌ」デモ日本人テモ老年ニ至レハ骨カ附着シ  
テウチリノ減スルモノテアル即老若ノ別ニヨリテ違フノテアル「チグロ」ニ於テハ若  
キ内ニツナガル元ト之レハ腦ノ發育ト骨ノ出來方ト相關係スルモノデ骨モ初メハ  
幾ツカノ中心ガアツテ其周圍ハ膜ノ如キモノデ蔽ヒ次第ニ發育シテ他ト他ト接シ  
タ所ガ縫合デアアル丁度水ノ一部ニ氷ヲ生スレハソレカ次第ニ周縁ニ及ヒテ全体カ  
凍ルト同シダ

縫合ノ複雑ナルハ腦ノ發育ガイツマデモ止マヌカラ遂ニ複雑トナルノダ「チグロ」ナ  
ドハ腦ノ發育ガ早ク止マルカラ骨ノ發育ガ進ミテツモリ少ク縫合スルノデアアル他  
ノ地方ニテハ老人ニアラザレハ斯クナラヌニ「チグロ」ニテハソレガ極メテ早イ、  
又後臼齒ノ一番後ニアル智齒ハ吾々及ヒ歐州人ニ於テハ生ヘズニ仕舞フモノアリ  
又生ヘテモ遅ク又弱キモノデアアル然ルニ「チグロ」ハ比較的ニ若キ内ヨリ智齒ガ生ヘ  
テ而モ丈夫ニ久ク保ツ、



二、メダン派  
三、セチガンビヤ派

四、ギニト地方派

多クハ地理ニヨリテ分ツ其中デ一番「チドロ」ノ標本トナルベキ「ギニト」ニ就テ語ル  
ニシヨウ。

ソレデゴ、ニ「ギニト」ノ例トシテ擧グルハ「ダホメ」デアル。

「ダホメ」ハ北緯六度ヨリ北緯八度五十分東西ノ廣サハ東經零度三十分カラ東經三度  
ノ間ニ挾マリタルモノデアル

「ダホメ」ト云フ名ハ傳說ニヨレハ西曆千六百二十年頃ニ此地方ニ一人ノ「ダン」ト云  
フ人アリソレカ段々勢力ヲ廣メテ近傍ヲ自分ノ領地トシ他部落ニ向テ汝等ハ今ニ  
吾ガ腹ノ中ニ入りテシマウト云フタソレデ戦争シテ歸服シタ者ヲマトメテ一團体  
ヲナシタ故ニ「メンフラーメ」即チ「ダン」ノ腹ト云フノ音便デ「ダホメ」ト云フノデアル。  
此處ニ住ムハ最モ黒キ人民テ野蠻ナガラ比較的ニ近傍ノモノヨリモ進ンデ居ル衣  
服モアリ家屋モアリ裝飾モアリ織物モアリ儀式ノ如キハ至テ嚴シキ處ガアル斯ノ  
如ク野蠻乍ラニ一種開ケタ所ガアル

上位ノモノニ話スニハソレノ取次ガアツテ二ツモ三ツモ階段ヲ經ナケレバ上  
位者ノモトマデトマカヌ帝王ヨリノ命令モ其通リテ次第次第ニ取次ガアツテ漸ク  
下ニ達スルノデアル。

凡テノ「カ」皆右様ニ面倒ヲ窮屈デアル

男女トモ髪ノ毛ガチヂレテ短カイカラ結髪シナイノカ常ヲアル

衣服ハ布ヲ織リテ休ニ巻キツケテ居ルガ又縫ヒ合セタモノモアル

家屋ハ土ヲ以テ積ミアゲ其間ニ貝殻等ヲ入レテ崩レナイヨウニシ土藏造リノ如ク  
スル

又妙ナ風ガ二ツアル一ツハ祭ノキニ人ヲ殺ス風デアアル台湾ノ生蕃ハ祭ノキニ首ヲ  
取リテ列ヘルノダガ「ダホメ」ハ戦争ノ捕虜或ハ殺スヘキ罪人ヲ食物ヲ與ヘテ優待シ  
テ養ヒオキ祭禮ノキニ其首ヲ斬ル最モ多キハ一時ニ二千人ヲ殺シタト云フ

今ノ前ノ帝王ノ崩御ノ時ハ空前デコンナコトハ絶後タルヲ望ムガ七千人殺シタト  
云フ之レカ其一ツノ儀式デアアル。

外ニモ一ツ類例ノナキハ女兵デアアル

「ダホメ」ニハ全体主權者ガ二人アル丁度昔日本ニ朝廷ト幕府トアツタト同シク市街



ノ王ト森林ノ王ノニツガアル森林ノ王カ丁度日本ノ京都ニ在マセシ天子デ市街ノ王ハ人民ニ近ツク將軍ノ如クダ但此所ノ二王ハソノ等級ガ同ジデアアル而シテ市街ノ王ハ工業製作戦争平和ノコトヲ司リ森林ノ王ハ耕作原野ヲ司リ又貿易ヲ掌ルニ王ノ下ニ居ツテ人民ヲ保護スル兵卒ノ内ニハ勿論男兵モアルガ多數、女兵デアアル。女兵ノ起リハ一般ノ傳説テハ西曆一千七百二十八年頃ナラント云フ然ルニ近年ノ王「グズ」ト云フ人ハ西曆千八百十八年ヨリ千八百五十八年迄四十年間王位ニ居タ人デ此人カ始メタト云フケレハ組織ノ變更位ハシタロウガソレヨリ古クカラアツタヨウデアアル女兵中三分ノ一ハ他ニ嫁シタルモノデ他ノ三分ノ二ハ未婚者ダ他ニ嫁シタルモノハ特別ノ事情ニヨツテ帝王ニ許サレテ夫ヲ持チシモノ或ハ夫婦間ニ爭ヲ生ジ夫ニ勝ツテ兵營ニ入りタルモノデアアル此女兵ハ國民一般ニ尊敬シテ此土地ノ言葉デ「ミノ」ト云フ吾々ガ母ト云フ意テ能ク國家ヲ保護シテクレルト云フ尊稱デアアル戦争ノ際可成人ヲ多ク殺スコトヲ獎勵シテ居ルカラ殺伐ノ風ガ養ハレテ居ル捕虜ハ之レヲ祭禮ノ具ニ用フルケレハ其他ハ多ク殺スヲ以テ名譽トシテ居ル。近頃ハ歐羅巴人ヨリ銃ヲ得テ携フ又歐羅巴人ノ持ツ剃刀ヲ見テヨキモノナリトテ之レニ倣ヒテ大ナル剃刀ヲ作りテ持ツ而シテ人ヲ殺シタ片ハ其印トシテ銃ノ臺ヘ

一人殺ス毎ニ子安貝ノ小ナルモノヲ一ツツケル其ツケ方ハ殺シタ人ノ血ハ少シタツト糊ノ如ク粘ルコノ血ヲ塗リテ其上ニツケ段々其數ヲ増ス故ニ此貝ノ附着シタル數ノ多キヲ誇ル即チ多キ程名譽トシテ居ルソノ有様カラ云ヘハ少キモノハ女ノクセニ人ガ殺セヌカ弱虫ト笑ハレルダロウ又人ヲ殺セバ其頭髮ヲ一束ニムシリ取テ其毛ノツキタル儘ノ皮ヲ武器ノ飾トシテ附ケル

此土地テハ今ハ人肉ヲ喰フ風ハナイ前ノ小「チグロ」ノ内ニハ時トシテ人ノ肉ヲ喰フ「ガアル」ダホメ「テ」ハ儀式トシテ祭ノ順序ノ内ニ人ノ肉ヲソギテ口ニ咬ム風ガアル。恐ラクハ以前人肉ヲ喰フタ遺風ト考ヘラレル。

其隣國ナル「リベリヤ」ハ亞米利加ニ行キシ「チグロ」及ヒ其子孫ヲ解放シテ慈善家ガ土地ヲ求メテ之レニ移シタモノデ西曆千八百十六年相談一決シ一千八百二十二年ニ茲ニ移シタノデアアル土地ハ亞弗利加テ人民ハ亞弗利加ダガ亞米利加ノ土地ヲ生レタモノガ多イソレテ又コノ地ヘ歸ツタト云フ妙ナ履歷ツキデアアル。

南方亞弗利加ノ第三ノ分チハ「チグロイド」即チ準「チグロ」部

コノ部ノ重モナル性質ハ「チグロ」同様ナレハ幾ラカ他ノ種族カ雜ツテ居ル様ニ見ヘ

ル或ル處ハ「リビヤ」人ガ雜リ或ル處ハ亞刺比亞人ガ雜リタル如キモノガアル一例トシテ「パンツ」ノコトヲ述ヘヤツ

「パンツ」トハ彼レノ自稱ヲ人類ノ意學者カ用セテ彼レノ名トシタ「カフア」ト云フ名ヲ用フル人モアルナセ此語ヲ棄テ、自稱ノ「パンツ」ヲ用ユルノカト云フ「カフア」ハ他種族ト云テハ混ズルノ恐レガアル「マホメツ」教ヲ信ゼザルモノハ凡テ「カフア」ト呼バレル而シテ特ニ賤シテ「カフア」ト云ハレルノハ亞弗利加ノ東海岸ニ居ルモノト印度ニ居ルモノトデアアルソレテ唯「カフア」ト云ヘハ亞弗利加ノ「カフア」ナルヤ印度ノ「カフア」ナルヤ分テザルヲ以テ土人ノ自稱ニヨリテ「パンツ」ト云フ正シク云ヘハ「アパンツ」テ「ア」ヲ省キテ唯「パンツ」トシテ用ス。

住所ハ亞弗利加ノ東海岸（東部亞弗利加ト違フ東部亞弗利加ハ紅海ニ近キ方ヲ云フ）此處ノ人間ハ多クノ性質ニ於テ「ネグロ」ニ似タレ「ネグロ」ヨリハ顔ノ下半分ノ突出カ少イ「ネグロ」程黒クチイ彼等中ニハ幾ツモ部落ガテツテ又様々ノ名カアル肝要デハナイガ混シ易キヲ以テ一應述ヘテ置コウ即チ

- ア マ トンガ
- ア マ スウ

- ア マ ズル
- ア マ ゴサ

地理書ヤ旅行記ヲ見レバ

- ト シ ガ
- ス ヲ シ
- ズ ル
- サ

カド、記シタモノカアル土人ノ語ニ複數ニハ「アマ」ト云フヲ附ス例ヘハ「トンガ」ト云ベハ一人ヲ指ス「アマ」ヲ附スレバ其部落ヲ稱スルコトニナル。

風俗ハ男子ハ髪ヲ剃リテ一部分丈ケ輪ノ形ニ毛ヲ殘ス恰モ梳ヲフセテ其底ヲ殘シタ如クデアアル其殘シタダルリヘ輪ヲ作り脂ナドデ動かヌヨウニツケル晴レノ場ヘダルルニハ殊ニ動かヌヨウニツケナホスソレガ美テ御作リト云フワケダ土語「イシココ」ヲ許シココト云フ少年バ之レヲナスコトガ出來ヌ大人ノ仲間入リヲシテ「イシココ」ヲ許サザル之レハ頭ニ物ヲ載セルタメデナイ全ク飾リダ女ハ髪ノ毛ノ扱方モ面白イヨメ夫立シテコノ妻アリダ矢張マワリヲ剃リテ一部ヲ殘シ夫レヲ集メテ上ヘ尖ラス。

恰モ笛ノサキノヤウデアアル。

未婚者ハ髪ヲ數條ニシ木ノ脂ヲ以テ筆ノ如クカタム而シテ山荒シノ毛ヲ取リテ此毛ノ先ニ脂ニテツケル之レガ娘ノ髪ノ風ダ

山荒シハ静ノキハ毛ガ子テ居ルアレ出スト毛カ逆立テ後へ飛ブ隨分取リニクキモノダ。已レヲ愛スル男ノ朋友ナドヨリモラウテ之レヲ附着スル人中へ出デハ、ハンノ多キヲ名譽トスルノテアル。

衣服ハ毛皮ヲ以テ体ヲ蔽フノミデ縫ヒタルモノハナイ。時トシテハ肩ニモ獸ノ皮ヲ被フ

織物ハナケレモ皮ヲ縫フ針ガアツテ縫ヒ物ヲナス。故ニ男子モ持物ノ中ニ針ヲ入レテ置ク。

此人民ハ丸キモノヲ上手ニ作りテ、四角ノモノヲ作ルコトハ下手テアル。器具ハ勿論家屋モ部落モ皆圓イ。家ヲ作ルニハ木ノ枝ナド作り上ヲ毛皮ヲ被フ。又牛ヲ飼ヒテ其生キタル牛ノ角ニ切レ目ヲツケテ種々ノ形ニ飾ヲ着ケル。其牛ノ死ンダキハ其奇形ノ角ノツキタル牛ノ頭ヲ取リテ家ノ裝飾トスル。

幾軒カヨリテ一部落ヲナスキハ丸キ家ヲ丸クナラベ内外ニ巧ミニ圓ク垣根ヲ作り

中庭ヲオク。外ノ垣根ハ人ノ身長ヨリ高く、内ノ垣根ハソレヨリ低イ。

通常ノ一部落ハ十軒位、大ナルハ數十軒集リテ圓ノ直經數十町モアルコトガアル。而シテ此部落ヲ「クラール」ト云フ。

後ニ南洋部落ノルニ云フガ、南洋ノ部落ノ「バア」ト云フモノ稍々之レニ似テ居ル。

食物ハ別段ニ云フベキモノガナイ。嗜好品トシテ烟草ヲ用フ。此烟草ハ亞米利加ヨリ始マリシガ、今日テハ世界一般ニ廣マツテ居ル。唯台灣紅頭嶼ノ生蕃人ハ烟草ヤ酒ヲ飲マナイ。

「バアンツ」種族ハ男女共烟草ヲ飲ム之レニツキテ用フル器具又儀式ノ嚴カナルモノガアル

烟草具トシテ最簡單デ又最モ壯大ナルモノカアル。即チ地上ノ一部分ノ土ヲ盛り上グ指ヤ棒テ穴ヲアケ、一方ニ烟草ヲツメ、一方カラ口ヲツケテバク／＼ト吸フ。

此外木石燒物等デ作ツタ煙管カアル。而シテ未開人トシテハ面白キ奇妙ナ工夫ハヤニヌキノデ、牛ノ角ニ水ヲ入レ中程ニ烟草ヲツメル管ヲ差シ、角ノ根即チ太キ部分ヲ口ニクハヘルデナク口ニ當テ、バク／＼ト吸フノテアル。

コンゴ自由國ノ土人モ「バアンツ」種族ノ一ツデアアル。

第八章 亞米利加系統ノ種族

今日テハ南北「アメリカ」ヲ通ジテ歐羅巴ヨリ移住シタモノカ澤山住ンテ居ルカラ現  
 在ヨリ云ハバ歐羅巴亞弗利加系統ノモノガ澤山テアルガ茲ニ云フハ歐羅巴亞弗利  
 加系統ノモノテナク此等ノ種族ノ移住セザル前ノ種族ニツギテ調ヘルノデア  
 誰モ歴史ヲ知ル如ク「コロンブス」ガ此土地ヘ行キシハ世界ヲ一周シテ印度ヘ行キシ  
 ト思ヒ又土地モ印度ダト思ツタガ後ニ其誤リカワカツタケレハ其儘其ノ時ノ名ヲ  
 土人ヲ「インデア」ト云ヒ區別スル爲印度ノ方ヲ「ヒンヅ」ト云フコトニナツタ  
 「アメリカ」ノ土地ハ地形ニヨリテ三ツニ分タル「度」大陸カ山ニヨツテ三ツニ  
 分タレ亞弗利加大陸カ砂漠ニヨリテ南北ニ分タルト同シク「アメリカ」モ南北ト其中  
 央部ヲ連續スル處ノ部分トニ分タル  
 前ニモ云ヘル如ク山ヲ越エテ行クハ「ムヅカシ」山ノ一方ヲ交通スルガ便利テアル  
 「アメリカ」ニ於テ北部一帯ハ山ヲ以テ界サレザレハ稍々南ニヨリタル處ハ「ロツキ  
 」山カ脊骨ニナツテ界サレル  
 此ノ通りニ大陸ノ地形ヲ考フレハ極北ノ部分ト北「アメリカ」ノ東ト西ノ部分ト南「ア  
 メリカ」ノ東ト西ノ部分ト中央トコウナルノデア

即チ「アメリカ」系統ノ人類ハ北部ト中央部ト南部トノ三ツニ分タル即チ



コノ内ニ様々ノ小分アレル人ノ尤ヨク知テ居テ尤モヨキ例テ尤モ肝要ナルモノヲ  
 云ヘハ「エスキモ」デア  
 「エスキモ」ハ自稱デナイ彼レノ自稱ハ「インスイト」ト云フ「エスキモ」ト云フハ此人民ニ  
 接シテ住ンテ居ル人民ガツケタ「ア」ナデ其意ハ生肉ヲ食フト云フトコロカラ付ケ  
 タ即生モノクヒト云フノダ他ノ近傍ノ人民ハ皆火食スルガ「エスキモ」ハ煮ルノ料理  
 ラスルノト云フコトハナイ只焼クト云フコトガ儘ニアルダケダ之レカ遠ニ其種族  
 ノ名トナツタ

ソレデコノ種族ノ分布ハ北「アメリカ」ノ北方「アラスカ」ノ西北端ヨリ東方ハ「ラブラド  
 ール」ト云フ處迄廣カツテ居ル之レハ北「アメリカ」ノ大陸ニ直接ノ關係ノ處ナレモソ  
 レヨリ更ニ離レタル東ノ「グリーンランド」ト云フ大島ニモ住ム  
 「エスキモ」ノ体格ノ大体ヲ云ハバ皮膚ノ色ハ黒味ヲ帯ヒ髪ノ毛モ黒イ頭ノ形ハ幅ガ

「エスキモ」ノ体格ノ大体ヲ云ハバ皮膚ノ色ハ黒味ヲ帯ヒ髪ノ毛モ黒イ頭ノ形ハ幅ガ

狭イ或ハ日本ノ石器時代ノ人民ト關係ガアルカト思ハレル前ニ話シタ「アジヤ」ノ東方ニ住ム「チクテ」モ日本ノ石器ヲ使ヒシ人民ニ關係アリサウダケレモ頭ノ幅ガ廣イ「エスキモ」ハ前後ヲ百トスレバ七十一カラ七十三デ日本人ハ八十位ダデ遺憾ナルハ日本デハマダ石器時代人民ノ頭骨ヲ得ヌカラ幅ヲ測ルコトガデキヌ。

「エスキモ」ハ殆ンドヒゲガナイ身長ハ平均五尺六寸位ヲアルナゼ身長ガ短小ナリト云ヒ傳ヘシカト云フニ彼等ニ接近シタル歐州人カ自身ノ長大ナルニ比較シテ彼ノ衣服ノブク／＼シタノヲ着テ居ルヲ見テ自然小サク見エタカラデアロウ。

コノ種族ヲ世人カ誤解シテ開ケナイモノ野蠻人ノ例トシテ出スケレモナカ／＼開ケテ居ル「アメリカインデア」ノ内ニハ他ニ「エスキモ」程風ノ整ヒタルモノハナイ。

身ニ合フ襪ニ縫ウタ上着股引モアリ頭巾モアリ手袋モアリ又靴モアル皆毛皮ヲ以テ立派ニ之レヲ縫ヒ合セテ居ル其仕立方モ中々巧デアル古ヘハ鉄ノ針ヲ得ル道ガナクテ魚ノ骨ナドヲ針トシタカ今ハ開明人カラ鉄ノ針ヲ貰ヒテ使フ。

衣服ニハ色々ノ模様ヲ縫ヒ出シタリ又鳥ノ羽ヲ以テ飾トスル又稀ニハ鳥ノ毛皮ヲ縫合セテ作りタル衣服モアル又殊ニ珍シキハ海獸ノ腸ヲ晒シテ中央ヨリ割キテヒロゲルト巾細ク長キモノカデキル膀胱デ作ツタ氷蠶ト同ジテ水ノ漏ラヌ桐油紙ノ

様ナ物ガデキル之ヲ縫合セルト丁度梨ノ皮ヲムキテモトヘモドシタ如ク下ヨリギリ／＼ト螺旋ニマキ「ミシン」ヌヒノ如クコマカニ手際ヨク而モ頭巾ツキニ作ルデコレヲキレバ身体ノ熱ヲ奪ハレヌ又外ヨリハ濕リガ入ラヌ漁業ナドニ行クキニ用ユル外套テアル其構造誠ニ巧ミデナカ／＼立派ノ細工ダ斯ノ如キモノヲ以テ野蠻ノ標本ナドハ以テノ外ダ。

靴ヲ造ルニ彼ハ海獸ノ水カキヲトリテ之レヲ靴ノ底トナシ立派ナル長靴ヲ製シテ男女トモニコレヲハク

婦人ノ頭巾ハ男子ノヨリ大ナルヲ以テ後ロニ垂ラシ置ク片ハ風呂敷ヲ廣ダタル如キ様テアルオモシロキ事ニハ小供ヲ此中ニ入レテ負フ尙オモシロキハ男女共ニダブ／＼シタ長靴ヲハキソノ中へ辨當杯ヲ入レテアルクノデアアル故ニ其舉動ハ極メテ不活潑ダ。

地方／＼ニヨリテ少異ハアルガ男子ハ一般ニ散髪テ女子ハ毛ヲノバシタマヽト垂ラシタルモノト又日本ノ島田マゲニ似タ鬘ヲコシラヘル。

婦人ハ頬及アゴニ簡單ナル入墨ヲナス「アイヌ」ノ如ク八重十文字デナク只線ノミテアル男子ハ入墨ヲセヌカハリニ唇飾ト云フガアルゾレハ唇ノ上下左右ニ穴ヲアケ

テ海獸ノ牙又ハ奇麗ノ石デボタンヲ作りテハメル。顔ハ男女共ニ同様テ圓イ。食物ハ植物性ノ食物ハナイ。此地方ハ雪ヤ氷ヲ以テ蔽ハル、ヲ以テ僅ニ馴鹿苔ト云フモノ、外植物ハナイ。故ニ彼レ等ハ肉食ヲ主トスル魚モアルガ「オットセイ」「アザラシ」馴鹿ノ肉ガオモデコレヲ食スルニ大概生肉ノマ、テアルナセ火食セザルカト云フニ薪モナク炭モナキ處ダカラ火食スルコトカデキヌ。「エスキモ」ノ住スル處ハ世界諸人種ノ住地中テ尤モ寒イ所テアルガ又尤モ火ヲ用ヒルコトガ少ナキ處デアアル。「エスキモ」カ火ヲダスニハ或ル時ハ石ト石ト打チ合セ或ハ金屬ノ破片ト石ト打チ合セテ火ヲ出スコトアレ。平常ニナスコトハ木ヲ摩擦シテ火ヲ取ル。此ノ木ハ如何ニシテ得ルカト云フニ流水ヲ拾フノデアアル。細キ棒ヲ下ノ木片ニモミツクルルルハ木ノ粉ガ落ちル之ヲ尙モムルハ漸々熱シテ遂ニ其粉ニ点火ス。コレヲ馴鹿苔ニノセテ吹キ或ハ振フノテアル。斯スレハ火ガツク。又別ニ工夫シテ石ニ凹ヲコシテヘテコレヲ上ニカブセ一人ガコレヲ押ヘ他ノ一人カ下ノ臺木ヲ片手ニテ押ヘ中央ノ棒ニ皮ヲマキツケテ他ノ人ガ之ヲ引キマハシテ摩擦發火セシム。

日本ノ諸地方ヨリ出ツル石ニ凹ミノアルモノ通常クボミ石ト稱スル物ハ何ニ用ヒシカ分ラザレ。此少ク此其一部ハ火ヲオコス時ニ「エスキモ」ト同シ様ニ用ヒシト思フ。

テ前ノ發火具ヲ一層工夫改良シタモノハ中央ニ只皮ヲ卷キツケルノミデナク弓ヲツケテ上端ヲ石ヲ抑エル之ニ手ヲ持ツノト木ヲ添ヘテ口ニクハヘルノトノ別ガアル。斯クシテ弓ヲ前後ニ動かセバ棒カ廻轉シテ火ガ出ル。火ヲ出シテ後ドツシテ用フルカト云フニ燃料ハ馴鹿苔ノ外ニナニモナイカラ先ツ石ヲ硯ノ如ク一方深ク一方淺ククボメ土ヲ以テ界ヲナシ其レニ馴鹿苔ヲ置キ其前ニ海獸ノ肉ノ脂肪ヲ置ク。ハ苔ニ点火スルト熱スルニ從テ其油ガトケテ馴鹿苔ニシミコム。又長キ棒ヲ一方ニタテソノサキニ脂肪質ノ肉ヲ吊ルシオキ下方ニアル火氣デ油カトケテ苔ノ上ニオツル如クスルノモアル。

煮物ヲスルノハ中々困難デアアル。獸皮ヲ縫ヒ合セテ袋ヲ作り其ノ内ニ雪ヲ入レ(勿論水ガナイカラ)煮ルベキ肉ヲ入レテ火ノ上ニ掛クルルルハ雪ガトケテ後ニ其中ノモノカ煮エルト云フノテ非常ニ手數ヲ要ス。

家屋ハ木ガナイカラ如何ニシテ家ヲ作ルカト云フニ雪ヲ以テ家ヲ作ル。決シテ水面ニ張りシ氷ヲ以テ作ルニアラズ。地面ニ降りシ雪ヲ煉瓦ノ如クニ切りテ積ム(其コレヲ切ル物ハ日本諸地方ヨリ出ル石劔ノ如キ形ノモノテ海獸ノ牙ヲ作テアル。彼等ハ又毛衣ヲ着ルカラ外ヲ歩スルハ雪カ休ニツクカラ其レヲコソゲ落ス爲ニモコレヲ用フ。此ノ煉瓦ノ如ク切りタル

雪ヲ丸ク並べテツミ上ケダンノ上ニ至リ中央ニツボマリテ半球形ノモノガデ  
キル。而シテ窓ヲ作り其處ニ氷ヲハメル恰モガラスヲハメタ如クテアル。其入り口ハ  
小サク狭クテ這ヒコムノデアアル。

或ハ馴鹿ノ皮ヲ「テント」ノ如ク内部ニ張ルコトモアル。或ハ解ケルト思フモノアルベ  
ケレモ一体ニ寒氣カ強イカラ急ニ解ケヌ。或ル一部ガ彼等ノランブデトケテモ蠟燭  
ノ蠟ノトケル様ナモノデ又直ニ凍リ付ク。外面ハ雪ガダンノフリツムカラ益堅固  
ニナル。

床ハ鯨ノ骨ヲ置キ其上ニ馴鹿膏ヲ布キ其上ニ毛皮ヲ布キテ起臥ス。

主婦ガオモナル役目ハ彼レ等ノ「ランブ」テ尤常ニ注意シテ居ル主婦ハ必ス前ニ彼ノ  
「ランブ」ヲ控ヘテ居ル。

大ナル家ノ中ニハ幾所帯カ住スルヲガアルケレモ彼ノ「ランブ」ハ決シテ他ニ貸サス  
共同ニモ用ヒヌ。故ニ其ノ家ニ入りテ彼ノ「ランブ」ノ數ヲ見レハ幾所帯ナルカハスグ  
ニ分ル。

次ニ此ノ婦人ガナスヘキ役目中極メテ困難デ何如ニモ惘然ニタエヌノハ外ヲハキ  
ヲ歸リ來レル夫ノ靴ヲカムヲデアアル。夫ガ外出シテ歸ルキハ靴カ氷リ居ルヲ以テ其

儘置ケバ翌日ノ役ニ立タヌ。モシ自由ニ火ヲ用フルコトガ出來レハワケハナイガソ  
ウイカヌカラコレヲカミテ仕上グ置クノダ。コレモモシ夫一人ノミナラハマダシモ  
ダガモシ家内多クテ女ノ少ナキトキハソノ困難思ヒヤラレテ哀レデアアル。  
家ヲ造ルニハ大抵幾分カ地ヲ堀リテ其上ニ家ヲ建テル即チ「エスキモ」ノ家ノ構造ハ  
堅穴ノ一種ダ。

寒キ風ノ吹クキナドハカノ櫛ヲヒカセル犬ヲ廊下(即チ入口)ニ寢セル然ルキハ外氣  
ハ犬ノ背ヲ透リテ入りクルカラ暖カデアアル。此ノ「エスキモ」ノ家ハ尤モ寒キ處デ尤火  
ヲ用ヒザルモノナレモ其住スル屋内ハ尤モ暖カキモノテ男女トモ屋内ニテハ衣服  
ヲ着用セス裸体デ只猿股ノ如キモノヲ用フルダケデアアル。

又魚獵ヲナスニハ氷ノ上ニ穴ヲ穿テテ其下ヲ通ル魚ヤ海獸ガソコヘクルノヲ氣長  
ニ待テ居テ上ヨリツク。海獸ガ氷ノ下ヲ廻リテ息ヲセント欲シテアチコチサガス中  
丁度其穴ノアキタルヲミテ得タリ賢シト頭ヲ出ス處ヲモリヲ以テツク。誠ニ氣長ノ  
仕方ダ。又舟ニ乗り或ハ雪中ヲ歩スルキハ光線ノ反射デ目ヲイタムルカラオモシロ  
キ眼鏡ヲ用フ。コレハ木或ハ皮ヲ作タモノデ横長ク左右ノ目ヲ蔽フ様ニシテアル之  
ニ細イ水平ノ透シガ設ケテアル。斯クシテ光線カ上ヨリ來リ又雪ヤ氷ニ反射シテ強

ク眼ヲ射ルモノヲ遮ル彼レニハ極メテ必要ノモノデア  
 嘗テ北極探險ヲ企テタル「ノルデスキヨルト」ノ一行カ大ニ目ヲ害セシハ全クコレ等ノ  
 用意ナキ爲デアツタ。次ニ行キシ「ナンセン」氏ノ一行ハ「エスキモ」ノ風ヲ研究シテコノ  
 眼鏡ヲ用ヒシ爲メニ少シモ目ヲ害セザリシト。  
 旅行或ハ物ヲ運搬スルニ橇ヲ用フ。此ソリモ木ガアレハヨケレ。木ハ流木ノミデ非  
 常ニ尊イ。ソコデ鯨ノ骨ナドヲ結ヒツケテ橇ヲツクリ。又骨ノナキハ毛皮デ丸グケ  
 ノ帶ノ如キ袋ヲ作り其中ニ雪ト馴鹿苔トヲダンクニツメテ。口ヲクハツテ外ノ寒  
 キ處ニ置ク。スルト氷リテ一ツノ棒トナル。之レヲ結ビ付ケテ橇ヲ作ル。或ハ外ヲ引ク  
 間ニ皮ガスリ切レハシナイカト云フニ。雪達磨ヲ作ツタ人ハ經驗ガアロウ。雪中ヲ引  
 クハ雪ハ次第ニツキテ其皮ノ切レルヲハナイ。之レヲ牽クニハ凡ソ犬八疋若クハ  
 十疋位テ之レヲ引カシム。其引クハ中々馴レタモノデ主人ノ命令鞭ノ振り方ニテ  
 ドチラヘモ行ク。  
 河及ビ海ヲ越エルニ如何ニスルカト云フニ。船ノ材料ガナイカラ大ナル海獸ノ骨ヲ  
 トリテ船体ヲ作り。木カアレバ張ルケレ。木カナイカラ毛皮ヲ包ミ。中央ニ一ツ或ハ  
 ニツノ穴ヲ穿テ乗ル人ハ此所下半身ヲ入レテ足ヲ前ニ投ケ出スノデア  
 ル。

此舟ヲ「カヤツク」ト云フテ男ノ舟ヲ漁獵ニ用フルノダ。ジテ両端ニ水掻キノアル橇ヲ  
 以テ巧ミニ運轉スル。モシニツガ行キ逢フハ。カマフズンクト行キテ一方カス  
 コシサキヲ上グルト舟ハ輕イカラウマク其上ヲ滑リコシテ行ク。モシ轉覆シテモ皮  
 ナ包ンデアツテ水ガ中ニ入ラヌカラチヨツトノ呼吸テウマクモトノ位置ニカヘル。  
 又荷物ヲ運搬スル爲メニハ箱ノ蓋ノ如キモノヲ作ル。之レヲ「ウムヤツク」ト云フテ女  
 ノ舟ダ。コレモ獸骨ヲ組ミ合ハセテ皮ヲ張ツタノデア  
 ル。又殊ニオモシロキハ「カヤツク」ハ輕イカラ舟乘リガ陸上ヲ行クハ之レヲカツギテ  
 行ク  
 日本ノ石器時代人民ノ口碑ハ「アイヌ」ノ間ニ存シテ居ル「コロボツクル」ハ輕キモノニ  
 ナ舟ヲ作り陸ヲ擔ギアルキシトシテミレバ之レモ「コロボツクル」ト「エスキモ」ノ類似ノ  
 点デア。日用ノ道具ハ牙及石ニテ作りシモノデア。即「エスキモ」ハ現在ニ於ケル進  
 歩シタ石器時代人民ノ一例デア。  
 「エスキモ」ノ漁業ニツキテ尙オモシロキハ棒ノ先キヘ獸骨ヲ槍ノ如キモノヲ作り  
 「カヤツク」ニ乘リテ海獸ニナゲツケル。ソノ時海獸ガ強クテ道具ノ付イタ儘水中ニ入  
 テシマヘバ道具ノ損失トナルカラ「エスキモ」ハ次第ニ工夫シテ海獸ノ膀胱ヲ淨キ袋



ヲ作り長イ紐ヲ以テ柄ニ縛リ付ケテ置ク斯クスレバ失フ恐レガナイ  
尙一ツオモシロキハ「エスキモ」ガ浮キ袋ニ息ヲ入ル、キハ堅イモノヲ作ツタロヲ附  
ケ其處ヨリ息ヲ吹キ込ミテセンヲナス、鹿角製此ノ口ノヤウナモノガ日本ノ石器時  
代遺物ノ中ニモ往々發見サレル。

又「エスキモ」ノ衣服ハ日本ニテ發見サル、石器時代ノ土偶ト同ジテアル。

又日本ノ北方奥州地方ヲ發見サル、土偶ハ「エスキモ」ノ眼鏡ノ様ナモノヲ附ケタ形  
ニ出來テ居ル(コノ眼鏡ヲ私ハ假リニ遮光器ト名ツケテ居ル)斯クノ如ク服裝及ビ種々ノ  
カ「エスキモ」ニ類スルヲ以テ見レバ日本ノ石器時代ノ人民ハ「エスキモ」ニ關係ガアリ  
サウテアル。ソレ故精々述ベタノテアル。

北部東方派

此ノ内テ尤モ北ニ居ルハ「アサバスカ」種族テ之レハ「アサバスカ」ト云フ湖アリテ此ノ  
邊ニ住スルカラカク名ヅケタ、自稱ハ「チンチ」ト云ツテ土地ノ言葉テ人ト云フ意デア  
ル、又コノ近邊ニ居ル外ノ種族ハアダナヲ與ヘテ「チエウエヤン」ト云フ之レハ尖リタ  
ル皮ト云フ意テコワキ皮ヲ底トシテ休ニマキツケルト日本ノ糊ヲ強クシタ衣服ノ  
如クゴサ〜シテツツパツテ居ルカラダ。

一体ノ開化ノ度ハ「エスキモ」ヨリモ低ク衣服ハ縫ヒ合セタモノカナイ、男女共ニ髪ヲ  
垂シテ居ル、家屋ノ構造モ材料ハ澤山アルガ粗末テ「エスキモ」ニ及ハス。

此ノ人民モ現在ノ石器時代人民ノ一デ石ヤ骨デ利器ヲ作ル。

「エスキモ」ニ比スレハ凡テノ点ニ於テ劣テ居ル。

尙此他色々ノ種族アレハ「ダコタ」ノ土人ヲ例トシテ話スニシヨウ。

コレハ「チンチ」ヨリハ進ミタルモノデ通常地理書ニ書キタル「アメリカ」土人ノ標本ハ  
此ノ土人ヲ擧ケタモノダ。

總括シタル風俗ヲ云ヘバ男子ハ髪ノ毛ノ長キヲ貴ブ、日本ニテハ婦人ノ髪ノ毛ノ長  
キヲ貴フケレハ此處テハ男子ノ長髪ヲ美トシ、又社會上ノ地位サヘモコレテ定マル  
茲ニ妙ナ例ガアル西曆一千八百三十三年ニ此ノ部落ニ髪ノ毛ノ長サ一丈八九寸ノ  
モノアリ人望ヲ得テ土地ノ頭トナツタ男子モ女子モ髪ヲ長ク延シテ垂ラシ、丁度此  
土人が馬ニ乘リテ走ルハ日本ノ幌ノ通りダ。

男子ハ裝飾トシテ色々ニ身体ヲヌル又半身ハ赤ク半身ハ黒クヌルトカ云フ様ナコ  
トモ行ハル、又頭髪ニ鳥ノ羽根ヲ飾ル。

衣服ハ獸皮ヲ以テ作り縫分カ窄袖股引ノ如キモノ、形ヲナス。

此ノ土人ノオモシロキコトハ記憶スヘキ功績アレバソレヲ衣服ニ畫カキ之レヲ以テ人ニ誇ルコトデアル。

住居ハ獸皮ヲ作ラレタル圓錐形ノテントデ此ノテントノ皮ニモ矢張り誇ルニ足ルヘキ事實ノ畫ヲツケテ置ク

開化ノ度ハ「エスキモ」ニ劣ルケレモ比較的進ミ居ルハ貨幣ノ類ノ存在デ之レハ白キ貝殻ニ穴ヲアケテ珠數ノ如キモノヲ作り通常ハ裝飾トシテ首ニカクレモ物ヲホシキキハ其物ト此貝ノ珠數幾何カト交換ス即物品交易ノ媒介ヲナス此ノ管玉ノ珠數ヲ「ワンバム」ト云フ一個ノ長サ凡ソ一寸位ダ此邊ノ土人ニ付テ特ニ云フベキハ頭ノ尖リタルモノヲ美人トナスニアリ之レハ生レツキデナク人爲ヲ以テ頭ノ發達ヲ妨グルノデアアル其仕方ハ小兒ヲ板ノ上ニ仰向ケニテセテ額ノ處ニモ板ヲアテ其發達ヲ妨ケテ自然ニ尖ルヤウニスルノダモシ小兒ノ時分ニ親タルモノガ此仕方ヲ怠テ自然ノ發達ニ任ズレハ子ニナゼ私ヲ美人ニシクレンダト恨マレルワケデアアル此ノ土人モ以前ハ石器ヲ用ヒ又之レヲ作りシカ今日ハ外人ヨリ鉄器ヲ得テ用フサレモ尙往々石鏃石斧等ヲ用ヒテ居ル。

戰爭ノ時或ハ人ト爭闘シテ敵ヲ殺スルハ頭髪ヲハ頭ノ皮ノ付キタル儘取り來リテ

家ノ飾リ衣服ノ飾リ或ハ武器ノ飾トナスイキナリ打倒シテ肩ニ兩足ヲ掛ケ片手ニテ髪ヲ握リ片手ニテ刀若シクハ黑曜石ヲ作ツタ石斧ノ如キモノヲ持チ皮ヲハギトリ持チ歸ルト云フ殘忍ノ風ガアル。

#### 西方派

之レハ色々ノ部落ヨリナルケレモ其内一寸八ノ名ヲ知ルハ「トリンキット」デアアル日本人ノ行ツテ居ル「ヴァンクーパー」ニ接シタ地ニ居ル。

凡テ此邊ハ山間ニテ溪ガ多イデ其溪間ノ魚ヲ捕ツテ生活シテ居ル故ニ其部落モ大團体テナイ男女共ニ毛髪ヲノバシテ居ル。婦人ハ下唇ニ穴ヲアケテ石ヤ海獸ノ牙ヤ木ヲスリミガキテ大サ一錢銅貨位ノモノヲ造リテ嵌メル物ヲ食スルルナド一寸小皿ノ用ヲナス。風俗ハ外人ト接スルカラ大ニ變ツテ今ハ元ノ儘テナイ元來ハ石器及獸骨ヲ作ツタ道具ヲ使用シタモノデ矢張り石器時代人民ノ一例デアアル。

物ヲ貯ヘ入レルニハ草ノ莖ヲアミテ籠ノ様ナモノヲ作ル此種族ノ内ノ或ルモノハ日本人ニヨク似テ居ル如何ニシテ日本人ニ似ルカト云フニ人ノ知ル如ク黒潮ノ流レガアルコノ關係ヨリ調ヘテ看レバ日本ノ漁船ナドガ漂着シテ乗組人ガ其儘シコニ住シダモノモアロウト思ハル。

此邊ノ土地ヲ堀レハ日本ニテ用ユル器具ノコソレガ出ルソレカラ近年コノ海岸カ  
ラ生蠟ヲ堀リ出シタガアル恐ラクハ船ノ難破シタ時ノ殘物デアロウ鬼ニ角日本  
人カ往キシ形跡カアル故ニツリソケットノ日本人ニ似タルハ幾分カ日本人ノ種カ混  
シテ居ルト思ハレル。

「ツアンクーバ」邊テハ向フカラクル人ヲ見テ同國人ト思ヒ話シカケテ失策スルコトガア  
ル位ダ。

中 央 部

コノ部類ニハ「メキシコ」派ト地峽派トアル。  
メキシコ派

此處ニ住ム人民ハ以前余程開ケテ居タモノト思ハルコトニモトカラ住ンテ居タ種  
族ハ「アズテック」デ此地方ノ古物遺跡ニヨリテ調ブルニ埃及ニ次グ位ノ開化テアロ  
ウト思ハル然ルニ歐州人カ移住セシキニ建築物ヲ破壊シ器物ヲ捨テ大多數ノ人民  
ヲ虐殺シタノデ殆ト丸ツブレニナリ僅ニ逃ゲテ殘リシモノ今日少數アルダケダ此  
處ニハ立派ナ器具モアリ文字モアル道具建築物等ニ彫刻シタ文字アレヒ讀メヌ學  
者ハイロク苦心シテモマダ埃及文字ノ如クニハ讀メヌ。

「メキシコ」ニハ技術工藝ノ見ルベキモノガアル埃及ノ「ピラミット」ノ如キモノアリ金  
銀青銅ノ飾ガアル然ルニ利器ハ石デ特ニ黑曜石ヲ作ツタ劍槍矢ノ根特ニ日本ノ石  
器中ニアル石匙トモ云フモノ、類ガアル。

「メキシコ」ノ美術トシテ尤オモシロキハ石ヲ破リテ寄石細工ヲ作ルノデアアル即チ種  
々ノ色ナル石ニテ人形ヲ作ル實ニ美事ナモノテアル。

今日デハ西班牙人ガ多數テコレニ「アフリカ」黑人モ混ジテ居ル。

常食ハ玉蜀黍デ飲食物ハ龍舌蘭ノ類ノ液ダ葉ノ厚キモノデ其葉ニ穴ヲアケレバ液  
汁ガデルソレニ口ヲアテ、吸フノダ。

地 峽 派

此所ニ居タ「マヤ」種族ト云フモノハ以前ハ中々開ケテ居タラシイ即チ「メキシコ」ト同  
ジ位ニ開ケ立派ナ建築等モアツタノダガ矢張歐州人カ破壊シテシマツタ古イ文字  
アレヒ未タ讀メヌ開化ノ度ハ高カリシ如キモ利器ハヤハリ石器デ裝飾トシテハ金  
銀銅ナドガアル。

南 部

東 方 派

此處ノ尤モヨキ例ハ「バタゴニヤ」人ト「テラデルフューゴ」人デアアル。  
「バタゴニヤ」人

此所ノモノハ身長ガ世界中デ一番高イ男子平均五尺九寸デアアル

「バタゴニヤ」トハ他ヨリツケタル名デ「スペイン」人ガ行キシキハ此ノ土人カ非常ニ大ク其上ニ一種大キナ甲掛ケノ様ナモノヲ足ニ着ケテ歩クノデ大足痕ノ地上ニ印スル所カラ此名ガ出来タノデアアル。西班牙ノ語ニテ「バタゴニヤ」ハ大足ノ義此ノ「バタゴニヤ」ノ居ル處ナルヲ以テ此地ヲ「バタゴニヤ」ト云フ。「バタゴニヤ」人ト云テハ實ハ重言デアアル。

自稱ハ「ツチカ」ト云フ。人類ト云フ意ダ。又「テフェルチエス」トモ云フ之レハ南方人ト云フ意ダ。

体格上デオモシロキハ男女共ニ眉カ薄クノツベリトシテ面ノ面積ガ廣クミエル。其上ヒゲガ無イカラ男女ノ區別ガシニクイ。

獸皮デ休ヲ蔽フガ縫ヒ合ハセタ衣服ハナイ。髪ノ毛ハ男女共ニ後ニ垂シテ鉢巻ヲシテ居ル。衣服ノ材料ニモ「テント」ニモ「グアナコ」ト云フ獸ノ皮ヲ用ヒ食物モ其肉ニヨルカク衣

食住共ニ彼等ノ仰ク動物ハ「グアナコ」ニテ之レハ山間原野等ニ二三十疋ツ、群ヲナシテ棲ムモノデ極メテ捕リ易イ。其法ハ以前ハ馬ナカリシモ今ハアルカラ二三人馬ニ乘リテ其群ヲ取リマキテダンク追ヒツメ皮ノ紐二三條一處ニシテ一端ヲ結ヒ各ノ端ニ石ヲ附ケ之レヲキリク廻シテ「グアナコ」ヲ目掛ケテ投ケツケルトソレガ体ニ卷キ付キテ倒ルトコロヲ或ハ打殺シ或ハ捕フ。  
「テラデルフューゴ」人

亞米利加ノ南端デ「スペイン」人ガ始メテ行キシキハ人ガ居ルカ居ナイカ分ラン然ルニ海岸デ燧ニ火ヲタキツ、居ル土人ヲ認メタデ。西班牙語デ「テラデルフューゴ」即チ火ノ國ト名付ケタ。

此所ノ人ヲ「テラデルフュージャン」トモ云フガ餘リ長キヲ以テ「フュージャン」トモ云フ。「フュージャン」ノ風俗ハ世界中ニテ尤モ開ケザルモノ、一例ヲ男女共ニ髪ヲ乱シテ居ル衣服ト云フモノ更ニナク少シモ体ヲ蔽フハ又寒キ時ハ風ノクル方向ニ毛皮ヲ掛クル位デアアル。

住居ハ木ノ枝ヲ集メテ作ル。魚類ヲ生ニテ喰フ。土人ノ住所ハ南緯五六十度ノ處デ寒風ノ吹ク極メテ寒キ處ダ或ハ南方ナレハ暑イカラ火ノ國ト云フ意ダ。ロウナド速

了スル人アリ大ナル誤リテ熱帯ダカラ裸体ヲ居ルナド思フ大間違テアル開化ノ度ハ極メテヒクイ。

西方派

此處ニハ「チリ」「ペルー」ナドノ地アリ以前此地ニ居リシ土人ハ中々勇悍デ歐州人ニ抵抗シタガ後遂ニ歐州人ニツブサレテ今日テハ歐州人入込ミテ彼等ノ勢力ガナイ古物遺跡ニヨリテ調ヘレハ以前ハ此邊ニ一種ノ開化シタ所ガアツタニ相違ナイ。此地ノ土人ノ一例トシテ云フベキハ「アラウカニアン」デ一体ノ風俗ハ「パタゴニヤ」人ニ似テ氣質アラクシク男女共ニ馬ニ乗ル髮ハ散ラシテ居ル。「アラウカニアン」人ハ「パタゴニヤ」ヨリ「チエンナ」ト云フ名ヲ付ケラレテアル。コレハ軍人ト云フ意ダ勇悍ナル「パタゴニヤ」人ガカク云フヲ見レバ随分勇猛ナルコトガ分カル。歐州人モ之レヲ征服スルニハ大ニ困難シタト云フコトダ。以前ハアラキ布ノ中央ニ穴ヲアケテ其穴へ首ヲ入レテ下ヘサゲテマキツケタガ今ハ歐州人ナドカラフランケツトヲ貫ヒ矢張中央ニ穴ヲアケテ着テ居ル。一般ニ開化ノ度ハヒクイ。

第九章 海岸島嶼住民

今迄話シタ四ツノ系統ニ入ラザルモノガ澤山残ツテ居ル即チアウストラリヤ・フィリピン・馬來・マダカスカル・印度ノ一部等ノ住民デアル。

全体ニ通スル性質ガナイカラ何系統トハ云ハナイデ之レヲ総稱シテ海岸島嶼住民トスル地理上ノ區分ニヨリテ大凡三ツニ分ツコトガ出來ル。

一、チグリヤツク部

二、マレイツク部

三、アウストラリツク部

而シテ又此内ヲ小分シテ七ツノ派トスル即チ(一)チグリヤツク部ノ内

一、チグリト派

二、バプアン派

三、メラネシアン派

マレイツク部ノ内

一、マレイ派

二、ボリネシヤ派

アウストラリツタ部ノ内

一、アウストラリヤン派

二、ドラダイヤン派

キグリト派

之レハ南方亞弗利加種族ノ小子グロニ似テ居ル其住所ハ開化國ニ接シナガラ未開ノ人民デアアル

「ベンガル」灣ノ内ニツノ島ガアル一ヲ「アングマン」島他ヲ「ニコバル」島ト云フ近年漸ク此島ノコガ分ルヨウニナツタ

「アングマン」ノ住民ハ土地ノ語ニテ「ミンゴビイ」ト云ヒ「ニコバル」ノ住民ハ「ヨウバング」ト云フ

体格上ノ事ヲ云ヘバ小「ネグロ」ニ似テ皮膚ハ黒味ヲ帶ビ髮ノ毛ハ縮レ鼻ハ中等身長矮小デ成年ノ男子ノ平均身長五尺ニ達シナイ鬚髯ハ殆ンドナイ開化ノ度ハ現在ノ石器時代人民中デ最モ低キモノノ一例デアアル日本諸地方ヨリ出ヅル石器ハ實用ノモノデナイ誠ニ美術的ニ作ラレテ居ル土器モナカク立派ナモノガ出來テ居ル然ルニ「アングマン」ノ石器ハ細カニ割ルコトモ磨クコトモセヌ唯石ト石ト打チ合セテ銳

キモノヲ其儘利器ニスル

衣服ハ僅カニ木葉ナドヲ以テ腰部ヲ蔽ノ位デ身体ヲ蔽フコトハナイ支那ノ神農ノ畫ノヨウダ

家ハ鳥ノ巢ノ如ク木ノ枝ヲ集メテ作ル夜分蚊ノ多キ所ハ地ヲ堀リ泥ヲ体ニ掛ケ首丈ケ出シテキル

頭ハ短キ縮毛ヲ抜イタリ又ハ剃タリシテ圓坊主タ

「ツイリピン」地方ノ内ニ「アエタ」ト云フ種族ガアル之レハ呂宋ニ住ムヨレハ馬來語デ黒ト云フ意ニ當ル膚色カラ出タ名デアアル

バブアン派

之レハ南洋ノ「ニューギニー」ニ住ム舊來ノ土人デアアル

皮膚毛髮トモニ黒イ最モ特徴トスル處ハ毛ガ縮レテ居ナガラ長イコトデアアル而シテ女ハ短カク切テ居ルケレハ男ハ伸ビル丈ゲ伸バシテソレガ縮リ〜ニ捲カツテ一トカタマリニカラマツテ居ルカラ丁度頭ノ上ニ帽子ヲ被リタルガ如キ有様デアアルソノ飾ニ鳥ノ羽根ナドヲサス

最モ髮ノ毛ヲ切ルコトヲ忌ムケレハ赤キ布片ヲ好ムカラ毛髮ヲ切リテ交換ヲ望ムハ

時トシテハ切ル私ノ友人ハ此方法デ一ツ得テ贈ツテ呉レタガチデレモデカランヲ  
オルカラ根元カラ切りテモ離レ〜ニナラス。  
日本ナラバフワ〜トカフサ〜トカ云フコトヲ馬來語テデア〜ト云フバア  
ント云フ名ハ之カラ出タノテアル。

開化ノ度ハ「ネグリト」ニ比スレバ高ケレモ矢張石器ヲ使ツテ居ル開化人ト交易シテ  
鉄器ヲ有スルモ自分テ作ツタモノハナク石器ハ磨イテ作ツタモノガアルコレヲ木  
ノ枝ニ結ビツケテ斧ノ様ニ用フ

又丸ク平タキ石ニ穴ヲ穿チテ之レニ木ノ長キ棒ヲハメ争鬪ノ片ニ用キル

彼等ハ弓矢ヲ有スレモ根石ハ用キナイ堅キ木ヲ削リテソレヲ先キニツケル石  
器時代ノ人民ト云フモ必ズ石器ノミヲ用フルモノテナイ尙此人民ニツキテ一寸言  
フテ置キタイハ体ノ裝飾ノ珍ラシキコトテアルソレハ衣服ハナクテ腰部ヲ蔽フノ  
ミダカ其外ニ鼻棒ト云フ飾リガアル鼻ノ穴ノ界ニ横ニ穴ヲアケテ斧ノ様ナモノヲ  
サス長短種々アレモ面ヲバ横棒テ上下ノシキリヲツケタ有様ダ此棒ハ木ヤ鳥獸ノ  
骨ヲ作ツテアル此鼻棒ハ男子丈ケテ女子ハセヌ。  
内地ニ入レハ齒ヲ尖ラス風ガアル通常テハ美テナイト考ヘテ丈夫ナル齒ノ瑠瑯質

マテスリハラシテ尖ラス。

通常地面ノ上ニ作ル家ノ外ニ樹上ノ家ト水上ノ家トカアル此邊ハ蚊ノ如キ小虫ノ  
爲メニ苦シメラル、カラ此小虫ノ翼ノキカナイ巨離ノ水上ニ家ヲ作ル漁獵ヲナス  
ニ家デ釣ガ出來ルト不潔物ガ自然ニ流レ去ルト又他部落ニ襲ハル、片ハ城ノ周圍  
ニ濠ヲ繞ラスト同シデ且敵ノ來タノガ早ク知レルト防禦スルニ容易ナルト種々ノ  
利便カアル。水中ニ杭ヲ立テ、其上ニ家ヲ作ル。

木上住居ハ鋸ヤ斧ノ發達シタ所デハ風透シヤ光線ノサシ工合ノワルキ所ハ木ヲ切  
リ拂フコトガ出來ルケレモ此道具ナキ彼等ニハ出來ヌ故ニ木ノ上ニ家ヲ作ル片ハ風  
通シモヨク日光モヨクアタリ又見晴シガイイコレヲモ利益デアアルガ戰爭ノ時ノ隱  
レ場ニモナル此處ニ面白キハ彼等同志ノ争ノ時ハ下ヨリ責メテ來テモ樹上ノ家ニ  
石ヲ貯ヘ置キテ平氣テ石ヲ投シテ之レヲ防グ若シ斧カ鋸デ伐ラレテハタマラヌ然  
ルニ或ル時英人ガ之レヲ攻メシニ彼レハ平常ノ戰爭ノ作戰計畫デ直チニ木上ノ家  
ニ逃ゲ込ダソコデ英人等ハ斧ヲ以テ之レヲ伐倒サントスルト上ヨリ石ヲ投シテ  
而モ巧ミニ狙ヒ違ハズ命中シテ如何トモ出來ヌ處テ英軍ノ或ル智謀者カ工夫シテ  
命令ヲ下シタ端艇ヲ被リテユケトソコデ數人テ一ツノ端艇ヲ被ツテ投石ヲヨケツ

進ンテ遂ニ木ヲ根本ヨリ切倒シテ勝ヲ制シタコレヨリ彼等ハ其智謀ニオボタリケン抵抗シナカツタ。メラネシア派

之レハ丁度亞弗利加人民ニ比ヘテ見レバ「スダン」地方ノ人間ニ似テ居ル皮膚ノ色ハ黒クテ稍々黄色ヲ帯ビ髮ノ毛ハ縮レテ黒イ住所ハ南洋中「フィジ」ニウカレドニヤ「ニューヘブリデス」「ニューブリタイン」「ニューアイルランド」此等ノ島ニ住スルモノヲ總稱シテ「メラネシア」土人ト云フ

此人民モ矢張り開化ノ度低ク現在ノ石器時代ノ人民テアルガ農業ヲ知リ土器ヲ作ル之レ迄云ヒシ「バルガル」海ニ居ル土人ヤ「パプアン」モ石器ヲ作ルカ土器ハ作ラヌ皆天然物タル椰子等ヲ用フル「メラネシア」人ハ土器ヲ作ル又舟ヲ作ルコトカ上手デ舟ニイロ／＼ノ彫刻ヲナシ彩色ヲ施ス此人民ハ幾ラカ体ヲ蔽フ腰ニ篋ノ如キモノヲ用ヒタリ帯ノ如キモノヲ用ヒタリ或ハ木ノ内皮ヲタタキツブシ紙ノ如キモノヲ作リテ身ヲ蔽フ此所ニハ人肉ヲ食フ風習ガアル之ヲ以テ最上等ノ馳走トシテ居ルワザト人ヲ殺スニアラデ戰死或ハ病死シタルモノ、肉ヲ得レハ客ヲ招キ宴會ヲ開ク而シテ外ノモノハ手ヅカミニテ食スレモ人肉ノミハ肉刺デ食フソレテ宴會ヲナ

シタル所ニ行キテ見レバ人骨ガイタラモ木ノ股ニ挟ンテ人肉ヲ喰ヒシ標識ト成ツテ居ルトノコトダ私ハ行テ見タコハアリマセンガ此ノ骨ノ木ノ間ニハサマツテ居ルモノヲ伐リ取ツテ來タノヲ「ロンドン」ノ博物館デ見タ。

二、マレイツク部

マレイアン派

マレイツク部ノ廣ガリ方ハ東ハ南洋ノ「イースター」嶋ヨリ西ハ亞弗利加ノ「マダガスカル」迄此部類ニ屬スルモノガ住ム

ソノ延長ハ殆ント世界一週ノ三分ノ二丈ケノ處デアル故ニ自カラ地方ニヨリテニツニ分ル

東ヲ「ポリネシア」派ト云ヒ西ヲ「マレイアン」派ト云フ

西ノ「マレイアン」派ハ馬來諸島「スマトラ」「ジャバ」地方ニ住ムモノテ「マダガスカル」土人モ台灣ノ蕃人モ此部ニ入ル。

皮膚ノ色ハ黄味ヲ帯ヒタル褐色デ髮ノ毛ハ黒ク体ニ毛ガ少イ今日テハ誤リモナカロツガ台灣占領當時ノ或ル小説ニ台灣生蕃ヲ全身毛ダラケノ獠猛ノ者ノ様ニ畫キタモノガアツタ實ハソノチニ毛深イ人種ヲナイ極キ毛ノ少キ人種ダ。



コノ人民中デ開ケテ居ル例ハ「ジャヴァ」「マダカスカル」等ノ者テアル。開化ノ度低キ例ハ「ボルネオ」ニ住スル「ダヤツク」、台灣ニ住スル蕃人デアアル。今此内ノ一例トシテ「ジャヴァ」ノ事ヲ話サツ。

「ジャヴァ」ノ人民ハ日本人中ノ或ルモノニ能ク類シテ居ル。成年男子ノ平均身長五尺二三寸デ日本人ト同シダ。皮膚ノ色モ黄味ヲ帯ビタル褐色テ、日本人中ノ俗ニ色ノ黒キ人ト云フト似テ居ル。頭ノ廣サハ前後ヲ百トスレバ巾八十二デ、日本人ト大体同シダ（日本人ハ平均八十）髪ノ毛ハ黒クシテ真直カ常ダ。稀ニハ波状ヲナスモノガアル。眼ノ虹彩ハ黒味ヲ帯ビテ日本人ト同シダ。額骨モ高ク出テ居テ日本人中ノ或ルモノニ似テ居ル。ヒゲハ殆ンドナイ。極ク薄キモノダ。今「ジャヴァ」人ハ総數大凡二千萬位デアアル。又「ジャヴァ」人ハ日本人ニ似テ潔癖デ、奇麗好キダ。毎日一度或ハ二日三日ニ一度ハ必ス体ヲ洗フ。歐州人ハ身体ヲ拭フコトハ度々スルガ入浴ハスクナイ。右手ハ食物ヲツマムニ用ヒ、左手ハ物ヲ棄テルニ用フルニ至ル。頭髮ハ男女共伸シタママデ垂ラシ。女子ハ結ビタルモアレハ髻ト名ヲ付スル程テナイ。男子ハ鬘甲ノ櫛ヲサシ。女子ハ結ビタル髪ニ種々ノ花ヲサシ。又寶玉ヲ以テ飾ル。又此處ノ風俗トシテ最モ面白ク、又日本人ノ風俗ヲ調べル上ニ於テ最モ面白キハ男女

共ニ銀漿ヲ付ケルコトダ。其起リハ此人民ノ常トシテ檳榔子ヲ嚼ム。之レヲ嚼ムニハ四ツ割リニナシタルモノヲ薄荷ノ葉ニ包ミ夫レニ石灰ヲツケテ嚼ミ直クニ唾ヲハク決シテ咽ニ入ル。デナイ土人ハ食後ニモ間食トシテモ之レヲ嚼ム。ソレデ齒ニ澁ガ附着シテ黒クナルケレハ白キ齒ガ全体黒クナルデナイ。（私モ一寸嚼ンテ見ダガ胸ガワルタナツテコマツタ）故ニコノ澁ヲ取ルヨリハ黒クスル方容易ト考ヘテ黒クスル之レヲ作ルニハ、脂ノ強キ木ニ火ヲツケルト其端カラ液ガ凝リシタ。ル。其液ヲ鉄ノ破片ニ受ケルヨツニスルト其液ガ鉄ト交リテ墨汁ノ如キモノカ出來ル。即チオハグロデソレヲ齒ニ塗レバ齒ガテラ〜黒光リガシテ美シイ。又此土人カ檳榔子ヲ嚼ムキハ真赤ノ唾ヲ吐ク。唇迄赤クナル。恰モ日本婦人ノ口ニ紅ヲツケタヨウダ。日本婦人ガオハグロヲ附ケルハ如何ナルエヘデアルカイロ〜ノ説モアルガ、日本人ノ祖先中ニ檳榔子ヲ嚼ム風ガアツテ馬來人ノ如クオハグロヲ塗ルコトニナツタカ。若シクハオハグロヲ塗ル風ガ入ツテ來タカ何ニシテモ馬來ノ風ニ關係カアリサウニ思ハレル。又裝飾トシテハ西洋ノ糸卷ノ如キ鼓形ノモノヲ耳タブニ穴ヲアケテ嵌メル風ガアル。中ニハ金銀寶玉ヲ以テ飾ルモノガアル。男女共ニ通シテ行ハル。ハ指輪デ、中ニハ金銀象牙ナドノ立派ノモノガアル。

男ハ風呂敷ノ如キモノヲ頭ニ被リ、上半身ハ裸体ヲ、半股引ノ上ニ「サロング」ト云フモノヲ捲ク。「サロング」ハ幅二三尺長サ八尺位ノ布ヲ其兩端ヲツナギ合セタ恰モ底抜ケノ袋ノ如キモノデ、腰部ニ纏ヒ、其上ニ帶ヲシメル。

男子カ盛装セシキハ腰邊ニ三本ノ刀ヲサス。此刀ヲ「クリス」ト云フ一ハ其家ノ傳來ノ「クリス」一ハ結婚ノ片妻ノ家ヨリ引キ出物トシテ贈ラレタル「クリス」一ハ自分ノ好ミテ作ツタ「クリス」デアル

女子モ矢張り下半身ヲ蔽フ處ノ「サロング」ト云フモノデ、上半身ハ蔽ハヌ。又女子ニハ裝飾トシテ辨天織或ハ天人ノ畫ニ肩ノ處ニ掛ケテアル如キモノヲ掛ケル。丁度ハンケチヲ携フルト同シデ、手持無沙汰ノ片ニハヒネリテオル。

常食ハ米デ、其間ニ野菜鳥獸ノ肉等ヲ食フ。「ジャヴア」デハ祝ノ片ナドニハ、日本ニテハ赤飯ヲ配ル機ニ黄色ノ飯ヲ配ル。

家ハ平屋デ重ニ竹ヲ作ル。屋根モ竹ヲナラベテ水ノハケヲヨクシ、或ハ椰子ノ葉デ葺ク。近來ハ西洋風モアル。

ボリネシアン派

「ボリネシヤ」トハ澤山ノ島ト云フ意ヲ付ケタ名テ北ハ布哇ヨリ南ハ「ニューゼーランド」

ニ至ル迄ヲ通シテ云フ

此邊ノ住民ハ身長高ク皮膚ノ色ハ茶褐色變ノ毛ハ縮レテ居ルガ或ハ鈎狀形テ、此部類ニ屬スルモノハ澤山アルガ一例トシテ「ニューゼーランド」ノ土人ニ就キテ語ラウ。

此人民ニ就キテ特ニ人ノ氣付クハ入墨ダソレハ女子ハ僅カダガ男子ハ奴隸ヲ除ク外皆痛サヲ我慢シテ種々ノ入墨ヲナス。人々ニ依リテ迄フガ一般ニ通ジテ居ルハ額ニ數本ノ堅線口ノ兩側ニ一本ヅ、頬ニ上下二ツノ渦卷キヲ付ケル。其間ニ尙入レルガ人々ニ依リテ皆違フ。人ノ生レツキノ面ハ入墨デワカラナクナルガ入レ墨デ見分ケモツクシ、様々ノ印シニモナルデ、様々面白キヲカアル。其一ニ云ヘバ、家屋ノ角、鬼瓦ノ處ニ木彫リノ人面或ハ人形ヲ付ケテ置クソレハ其家ノ主人ノ顔ヲ示シタモノデ、其家ノ主人ノ知人ガ通レハ其家ハスグ知レル。知ラヌ人モ其家ノ主人ハドンナ顔カソカル。

モ一ツ面白キハ、約束スルニ歐州テハ姓名ヲ自書スル。日本ナラバ記名捺印ト云フ處タガ文字モ印モナキ故、証據ニ自分ノ顔ヲ畫キ入墨ヲ其儘ニ寫シテ置ク。故ニ歐州人ト土人トノ取引ヲ見レハ歐人ハペンニテ自書シ、土人ハ己ノ顔ノ人レ墨ヲ畫ク。今日テハ歐州ノガ止メテサセヌカラ、少ナクナツタ。中ニハ入墨ヲシカケテ基督教信

「ブーメラン」ト云フモノデアアル其一種ニ私ガ飛去來器ト譯ヲツケテ居ルモノガアル。二三尺ノ木片ヲ兩方カラスリヘラシテヘノ字形ノモノヲ造リ鳥ナドヲ目掛ケテクル〜廻ハシテナゲツケル。若シ當レハ鳥ト共ニ下ニ落ち當ラヌト投ゲタ人ノ處ヘ歸リテクル。コレハ何モ理屈ニヨリテ工夫ヲ凝ラシ發明シタモノデアナク偶然作リ出シタノデアラウ。一見甚タ奇ナ機ダガ其理ハ物理學上説明カデキル。

土人ハ争ヒ事ヲ一年一度「ボルボビイ」ト云フコトヲシテ極メル。彼等ニハ曆モナイ勿論新聞ニ廣告スルナドノコトモナイ。又首長ガ統轄スルデモナケレバ布令ヲ出ステモナイ。唯柳ノ葉ノ青バミテ來ルト云フ時節各武器ヲ以ツテ地方ニ隨ツテ一定ノ廣キ野原ヲサシテ集リ來ル。其出テ立チヲ見レバ皆一樣ニ左手ニハ色々ノ模様ヲツケタ楯ヲ擁シ、右手ニハ木刀ヲ携ヘ堂々トシテ押シ出シ、一年ゴシニ時ヘタル一個人ノ恨ミモ部落同志ノ争モ皆コノ一日ヲ決スル。

晴レノ勝負デアアル。ケレモ首領ヤ大將ノ指揮號令掛引等アルデナク一個人對一個人一部落對一部落ノ争ヒテモ皆一騎打ちデコノ打合ガ同時ニ幾十百組モアル。固ヨリ理非ニ關ハラズ兩方相對ノ内楯ガワレルカ打倒サレタモノヲ負トスルキメデ中ニハ參ツタト云フテモ一方ガ承知セズニ打ツモアロウ負ケテモ卑怯ナヤツハ參ラヌ

トカ倒レテモ又起キ上リテ打テカ、ルモノモアロウ。コレヲ審判スル行司ハ老婆ノ役目ヲ老婆ハ皆棒ヲ携ヘテ出張シテ審判官ノ勞ヲ取ル。又負ケ方カラ償ヒヲ出ス。其償ヒハ物品モアロウ。中ニハ妻女ヲトラレルコトモアル。テ勝負中ノ夫ノ妻女ハ氣ガ氣テナイカラ皆子供ヲツレテ見物シテ居ル。御祭ト喧嘩トゴツチャマゼテアル。コレハ可笑風ダガキマリカイ、忙カシキ世ノ中ダカラ開明國ニ於テモコンナコトハタメテ一度ニ總勘定シテモライタイ。

ドラビデアン派

之レハ印度ノ東海岸「ドラビデイラ」ニ住スルカラ斯ク云フノテ、人民ハ「アリストラリヤ」ノ人民トヨク似テモカ多イ。其内ノ一部「トダ」ト云フモノハ唯ダ鼻ガ高イ丈テ他ハ「アウストラリヤ」土人ニ似テ居ル。男女共ニ毛髮ヲノハシ一種ノ布テ大キナ風呂敷ノ如キモノヲ作り体ニマク。開化ノ度ハ「アウストラリヤ」ヨリ高イ家モ材木ヲ集メテ比較的立派ダ。恰モ大キナ圓筒ヲ二分シテフセタ如キモノデアアル。

印度社會ノ階級トシテ最下等ナル「スズラ」ト云フモノハ「アリヤン」種族ニ押シ付ケラレタルモノデアアル。此「ドラビデアン」ハ其中デアアル。

者ニハツテ半バデヤメタモノモアル。  
衣服ハ木ノ皮ヲムキテ、中ノ軟ナル處ヲ削シテ恰モ厚紙ノ如キ物トナシテ用キル。  
家屋ハ木造テ立派ダ。彫刻模様ナドノ飾ガアル。及物ハ石器ヲアル。而シテ石器ハ皆磨  
製テ美術的ダ。

南洋「ポリネシヤ」ニ行ハレテ居ルコトデハ「ダブ」制度カ餘程面白イ。外ニ類例ガナイ。  
又ソレニ匹敵スル言葉モナイ。誰レテモ外ヲアルイテ居テ、土地ヲモ樹木ヲモ動物デ  
モ之レハオレノモノデアアル。即「ダブ」シタト云ヘバ、他ノモノハ決シテ之レニ手ヲ付  
ケルコトハ出来ヌ。若シ之レヲ犯セバ、何カ我が身ニ害ガアルト信ゼラレテ居ル。併シ或  
ル者ノ「ダブ」シタモノヲ觸レテ見テ、何ノ害モ無キ場合ニハ、彼ノ「ダブ」ハ恐ル、ニ  
足ラズト云フコトニ成ツテ、誰モカマワヌ。勢力アル人、酋長ナドガ「ダブ」シタト云ヘ  
ハ、其「ダブ」ハ必ス行ハル、勢力ナキモノハ「ダブ」ハ行ハレヌ。日本デ「バチ」カ當ルト  
云フコトニヨク似テ居ル。歐州ニモナキ語デ、今之レヲ其儘用ヒテ居ル。  
アウストラリツク部中ニ小別アリ  
アウストラリアン派

此内ニ入ル種族ハ「アウストラリヤ」ノ土人及ヒ其南ニアル嶋即チ「タスマニヤ」ニ居タ人

民ヲ云フ。

「タスマニヤ」ノ人間ハ元ト多數ナリシガ次第ニ減少シテ三十年前遂ニ絶滅シタ。コレ  
ハ現ニ吾々が知ツテ居ル人種絶滅ノ例デアアル。

「アウストラリヤ」土人ノ体格上ノ性質ハ、髪ノ毛ハ黒クテ、鈎狀或ハ波狀ヲナス。唇ハ厚ク  
鼻ガ扁平デ、皮膚ノ色ハ黒味ヲ帶ヒタル褐色デ。コノ土人ハ現存ノ諸種族中最モ開ケ  
ヌモノハ一例デアアル。

衣服ハオロカ体ノ一部ヲ蔽フ物モ無キ者デ。時トシテハ裝飾品ヲ体ニ帶ビルコトガ  
アル。

男女共ニ髪ヲ伸バシテ其儘トナス。長クナレバ切ル。之レヲ切ルニハ貝ヲ磨リヘラシ  
クモノデ切ル。又早手廻シハ髪ニ火ヲツケテ焼クマルデ野火ノ流ダ。

住居ハ木ヲ寄セ集メ草木ノ葉ヲ以テ覆ツタモノデ、鳥ノ巢ノ如キモノデアアル。家財ハ  
木器ヤ籠細工ノ如キモノヤ、他ト争鬭スルルル又獸ヲ打チ殺ス時ニ用キル棍棒及ヒ粗  
末ノ石器位ダ。斯カル譯故轉居ハ世話ノ無イコトデ甚ダシキハ主人ノ不在中ニ家ヲ  
移スコトガアル。其時ハ槩トシテ木ノ枝ヲ折リテ置ク。其折リ方デ大抵ノ方角ト遠近  
トガ知レル。此土人ニ最モ珍ラシク且ツ巧ミデ、文明人ガ用ヒテモ慰ミニナルモノハ